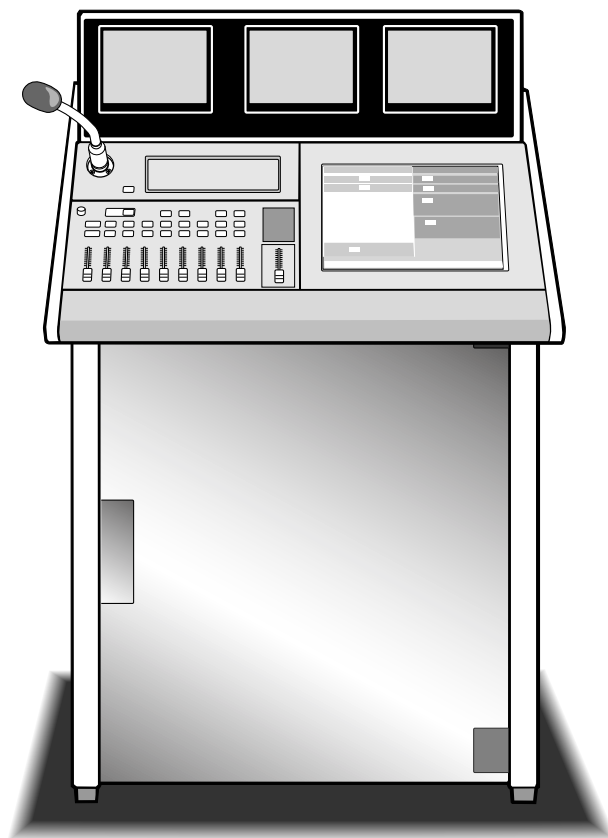


Panasonic[®]

工事説明書

インテリジェントAVステーション

品番 WL-AV190A



はじめに

商品概要

本機は音声放送や映像放送をコントロールするための放送制御機器です。学校や教育センター、研修所などにご利用いただけるよう、本機1台で放送、編集、録画が行えます。

本機の特長、機能の概要については取扱説明書をお読みください。

付属品をご確認ください

音量表示ラベル（6枚／1シート）	3シート
工事説明書（本書）	1冊
取扱説明書	1冊
保証書	1式
収納部扉用カギ	2個
アナウンスマイクロホン	1本

以下の付属品は取付工事に使用します。

取付ねじ（M5×10）	20本
単頭プラグ	6個
複式プラグ	5個
DIN 4Pコネクタ（カメラタリ用）	3個
DIN 5Pコネクタ （リレーユニットWU-R110用）	1個
DIN 6Pコネクタ（チャイム制御用）	1個
DINコネクタ用キャップ	5個
DINコネクタ用力カバーA・B	各5個
ブランクパネル（2U）（取付済）	1枚
コードクランプ	9個
固定ワイヤー	2本

本書について

本書の構成

取扱説明書は、本書と取扱説明書の2部構成になっています。

取扱説明：本機の操作方法について説明しています。本機を操作する人向けに説明しています。

工事説明：本機を使用するにあたって必要な機能の設定方法や、機器の設置・接続方法などについて説明しています。こちらは工事業者向けです。

本書の記載内容について

本機は校内の教室や運動場などの放送先の構成によって、設置工事を行うことを前提としており、各機能の具体的な操作方法と操作時の機器の状態は工事内容によって異なります。

取扱説明書の内容と実際の操作方法が異なる場合には、別途設定内容をお客様に提示してください。必要に応じて、取扱説明書の「操作パターン／拡張パターンの登録内容記述シート」をご利用ください。

はじめに

商品概要	2
付属品をご確認ください.....	2
本書について	2
安全上のご注意	7
設置上のお願い	10

システム 構成

接続図.....	11
接続や動作に必要な機器、工事部品	12
非常用放送設備と接続する場合に必要な機器について	12
工事部品について	14
接続できる機器	15
調整室に設置する機器	15
スタジオに設置する機器	16
教室その他に設置する機器.....	16
非常用放送設備と接続するときの機器、工事部品.....	16

設置

設置の前に	17
本機の端子部について	17
本機の設置スペースについて	19
通線口の位置について	20
固定ワイヤーの取り付けかた.....	20
電源コンセントの配線について	22
電源ノイズの対策	23
コードクランプの取り付けかた	24
アンテナの接続・設置について	25
工事手順.....	27
ラックに取り付ける	28
マウント可能なユニットの基本寸法	28
本機・袖卓へのラックマウント	28
ラックマウントできる機器.....	29
ラジオチューナーユニットを組み込む.....	30

接続

ケーブルのコネクター、プラグを取り付ける ..	34
AV機器を接続する	36
ヘッドエンド、TVアンテナ、教室テレビを接続する	37
カメラを接続する	38
モニターを接続する	39
映像ミキサーを接続する	40
音声機器を接続する	41
ミュージックチャイムを接続する	42
多局リモコンマイク (WR-205A,WR-210A) を 接続する	43
マルチリモコンマイク (WR-MC100) を接続する	44
音声放送設備と接続する	45
非常用放送設備と接続しない場合	45
リレーユニットを増設する	46
壁掛形非常用放送設備と接続する場合	48
ラック形非常用放送設備と接続する場合	50
接続後の確認事項	52
束線時のお願い	52
接続・配線の点検	52
電源の確認	52

設定

リレーユニット (WU-R110) のアドレスを設定する	53
ディップスイッチを設定する	54
ディップスイッチを設定する	54
データを初期化する	55
放送先選択画面を編集する	56
放送先選択画面の編集手順	56
スピーカーレイアウト変更を起動する	57
システム情報を設定する	58
標準配置から自由配置に変更する	59

自由配置から標準配置へ変更する	62
初期状態に戻す	63
スピーカーレイアウト変更を終了する	64
スピーカー選択ボタンの名称変更・環境設定 ..	65
名称変更・環境設定を起動する	65
スピーカー選択ボタンの名称を変更する	66
スピーカー選択ボタンの名称を入れ替える	67
拡張パターン・予備入力のパターン名称を変更する	68
名称変更・環境設定を終了する	70
映像放送チャンネルを設定・変更する	71
入力設定	72
ラジオ・予備入力・レピーター入力などの音声を放送・録音する	72
音声ミキサーの音量つまみの有効／無効を設定する	73
VTR2入力コネクタを切り替える	73
オフラインモードでの設定	74
オフラインモードで起動する	74
リレー接続先を設定する	74
リモコンの優先順位を設定する	75
放送先（ブロック放送）の設定を行う	76
パターン操作の内容を登録・変更する	78
データを管理する	79
データ管理メニューを表示する	79
データのバックアップをとる	79
バックアップデータを復元する	81
データの初期化	82

動作確認

動作確認の手順	83
スピーカーリレーの動作を確認する	84

調整

音声入出力の音量を調整する	86
映像モニターの明るさを調整する	87

その他

故障の自己診断機能	88
電子マニュアルの使いかた	89
電子マニュアルを起動する	89
起動画面について	90
画面の操作について	91
打ち合わせシート	92
系統図	94

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いが出るなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

不安定な場所に置かない



禁止

転倒などによるけがの原因になります。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

⚠ 警告

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

機器の上に水などの入った容器を置かない



水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない）



傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

禁止

- コードやプラグの修理は販売店に相談してください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

配線は正しく行う



ショートや誤配線により火災の原因になります。

⚠ 注意

振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

指定以外の装置を接続しない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

踏み台にしない、腰をかける



禁止

けがの原因になります。

設置上のお願い

⚠ 警告 ⚠ 注意 に記載されている内容とともに以下の事項をお守りください。

以下の場所には設置しないでください

- ①直射日光の当たる場所
- ②振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- ③スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- ④結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿気）の多い場所
- ⑤厨房など蒸気や油分の多い場所
- ⑥傾斜のある場所

使用温度範囲は

0℃～+40℃です。

この温度範囲以外で使用すると内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。

アース（接地）について

ご使用前に、アースが正しく確実に取り付けられているかご確認ください。

アース端子付きコンセントを使用される場合は、接地抵抗値（100Ω以下）をご確認ください。

電源について

アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

本製品には本体1本、コンセントボックス2本、計3本の電源コードがあります。

電源コードは必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

- (1) 電源コンセントの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
- (2) 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

構成機器や工事部品について

システムを確認し、構成機器や工事部品、ケーブル、コネクタなどに欠品のないように準備をしてください。

電源電圧について

電源電圧はAC 100 Vです。構成機器の消費電力を合算し、電源容量が不足して電圧が下がらないよう、充分余裕をとって電源工事をしておいてください。

工事の際は

工事の際は、各機器の電源を「切」にし、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。

誤接続の状態で電源を入れると、内部ヒューズが溶断することがありますので、電源を入れる前に接続を確認してください。

配線・接続は

本機の配線・接続は床にピット（通線溝）を設置すると、きれいに仕上がります。

取付ねじはしっかりとしめる

工事で使用する取付ねじはしっかりとしめてください。

ねじ締め付けトルク：

呼び径3 mm：0.8 N・m {8 kgf・cm}

呼び径4 mm：1.0 N・m {10 kgf・cm}

呼び径5 mm：2.4 N・m {24 kgf・cm}

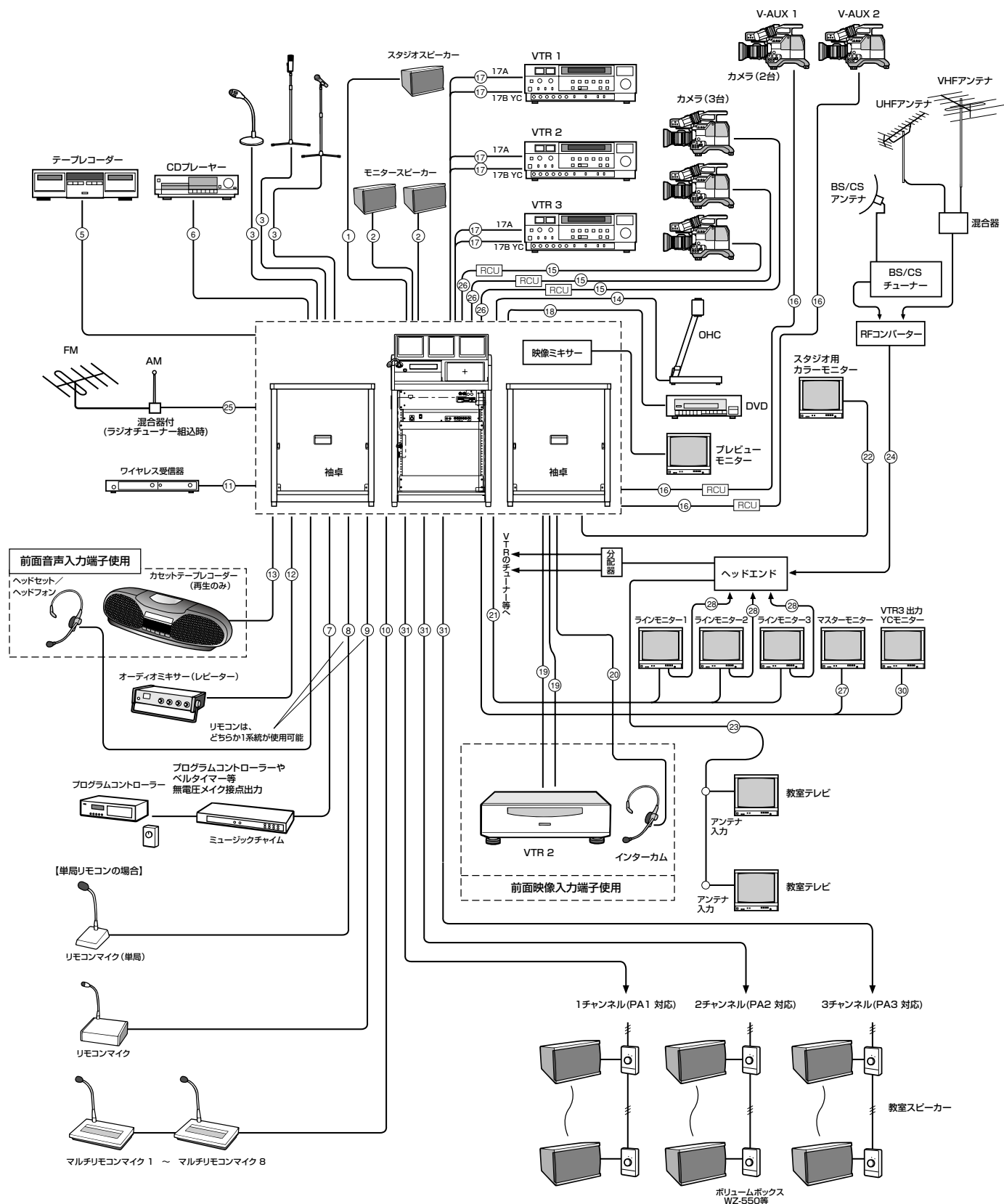
(公差±20%)

インパクトドライバーはねじを破損させる場合がありますので、使用しないでください。

接続図

メモ

●各線の番号は15～16ページの線番号に対応しています。本機の仕様については取扱説明書をお読みください。



接続や動作に必要な機器、工事部品

システムを構成し、本機を動作させるために必要な機器や工事部品について説明します。

電力増幅ユニット

- 電力増幅ユニットはラックに組み込んで使用してください。絶対に本機には収納しないでください。
- ラック形非常用放送設備と組み合わせる場合、ラック形非常用放送設備に収納した電力増幅ユニットを共用することもできます。
- 使用する電力増幅ユニットによって、ワット数や台数、高さの寸法は以下のようになります。

ワット数	品番	台数	高さ寸法 (1U=44.45 mm)
60 W	WU-P51	4	2U
120 W	WU-P52	3	2U
360 W	WU-P53	1	3U

リレーユニット (WU-R110 (高さ1U、スピーカーリレー10局))

- 本機には1系統 (1元) 10局分のスピーカーリレーを内蔵しています。1系統 (1元) 11局以上、または、3系統 (3元) とするときは、リレーユニット (WU-R110) の増設が必要です。
- リレーユニット (WU-R110) は1台10局単位で、最大6台まで増設できます。
 - 1系統 (1元) → 最大70局まで
 - 3系統 (3元) → 系統①: 最大30局まで (WU-R110 2台)
系統②: 最大20局まで (WU-R110 2台)
系統③: 最大20局まで (WU-R110 2台)

端子盤ユニット (WU-Q50A (高さ3U、120端子))

- 本機にはスピーカー接続用端子盤はありません。別途、端子板ユニット (WU-Q50A) を1台準備してください (非常用放送設備と接続しない場合)。
- また、他に15芯ケーブルがスピーカー10局に付き1本必要です。

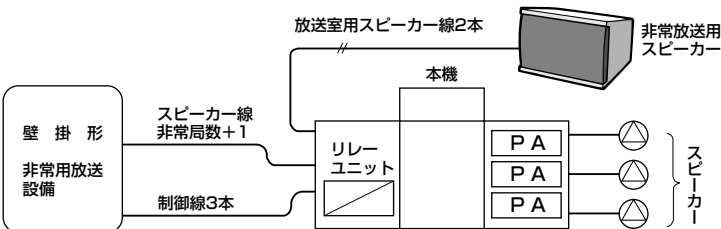
非常用放送設備と接続する場合に必要な機器について

非常用設備を接続する場合、接続のしかたによって、必要な機器が以下のようになります。
詳しくは、リレーユニット (WU-R72、WU-R73、WL-7050A) の取扱説明書をお読みください。

壁掛形非常用放送設備と接続する場合

(電力増幅ユニットを共用せず、スピーカーのみ非常放送と切り替える場合)

ここでは、非常用放送設備と接続し、電力増幅ユニットを共用しない場合に必要な機器について説明します。
接続のしかたについては48ページをお読みください。



＜接続に必要な機器＞

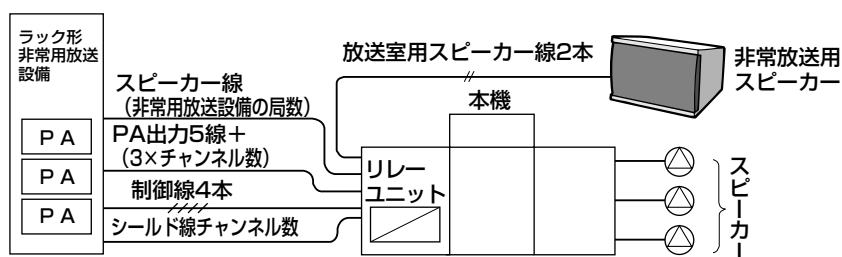
リレーユニット WU-R72（一般30局、非常15局。ただし、端子盤ユニットWU-Q50Aは中継用として必要。）
 または、 WU-R73（一般10局、非常10局）、WU-R110
 15芯ケーブル

電力増幅ユニットを共用する場合（リレーユニットはWU-R72を使用）

ここでは、非常用放送設備と接続し、電力増幅ユニットを共用する場合に必要な機器について説明します。

リレーユニット（WU-R72）を本機に収納する場合

接続のしかたについては50ページをお読みください。

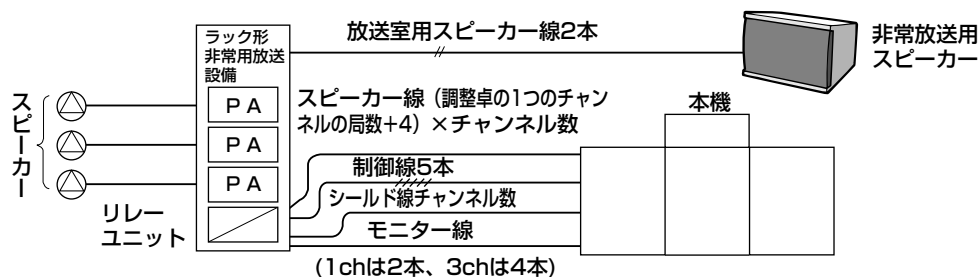


＜接続に必要な機器＞

リレーユニット WU-R72、WU-R110
 端子盤ユニット WU-Q50A（中継用）
 15芯ケーブル

リレーユニット（WU-R72）をラック形非常用放送設備に収納する場合

接続のしかたについては50ページをお読みください。



＜接続に必要な機器＞

リレーユニット WU-R72、WU-R110
 端子盤ユニット WU-Q50A（中継用）
 15芯ケーブル

工事部品について

システム構成

部品名	品番	備考
ブランクパネル 1U ブランクパネル 2U ブランクパネル 3U	—	ユニット収納の空きスペースを覆うパネルです。（現地調達）
パンチングパネル 1U パンチングパネル 2U	—	放熱効果を得たい場合のパネルです。（現地調達）
2芯シールド線（1.6 m）	YWL6655SR01A （サービス部品扱い）	複式プラグ付音声入出力用 注）短い場合は現地作成願います。
複式プラグ	YWPLUG-3 （サービス部品扱い）	1.6 m以上の音声入出力ケーブルを現地作成する場合に必要です。 注）2芯シールド線は現地調達願います。
単頭プラグ	YPM-KM003BA （サービス部品扱い）	音声入出力ケーブルを現地作成する場合に必要です。 注）2芯シールド線は現地調達願います。
RCAプラグ	YWPP001PLUG （サービス部品扱い）	音声入出力ケーブルを現地作成する場合に必要です。 注）単芯シールド線は現地調達願います。
DINコネクタ変換ケーブル	—	—
キーボード	ミニDINタイプ	放送先選択画面の編集やデータ管理を行うとき、また電子マニュアルを参照するときには使用します。
マウス	PS/2タイプ	

接続できる機器

調整室に設置する機器

品名	備考	接続可能台数	線番号	使用ケーブル	接続図参照 ページ
モニタースピーカー	8 Ω	2	②	スピーカーケーブル	41
テープレコーダー	—	1	⑤	単芯シールド線（ステレオ）	36
CDプレーヤー	—	1	⑥	単芯シールド線（ステレオ）	36
ミュージックチャイム	—	1	⑦	—	42
タイマー （プログラムコントローラー）	—	1		—	42
ワイヤレス受信機	—	1	⑪	単芯シールド線	41
レピーター	—	1	⑫	2芯シールド線	41
AUX 1～3（音声予備1～3）	MDなど	3	⑬	単芯シールド線（ステレオ）	36
カメラ1～3リモートコントロールユニット	—	3	⑳	同軸線（3C-2V） YC分離ケーブル（S映像コード）（カメラ1台のみ）4芯ケーブル	38
V-AUX1～4（映像予備1～4）	—	4	⑯	同軸線（3C-2V）＋単芯シールド線	36
VTR1（映像、音声入出力） VTR2（映像、音声入力） VTR3（映像、音声入出力）	VTR2は再生専用	3	⑰	A 同軸線（3C-2V）＋シールド線（ステレオ）	36
VTR1（YC入出力） VTR2（YC入力） VTR3（YC入出力）	VTR2は再生専用			B YC分離ケーブル（S映像コード）	36
DVDプレーヤー	音声はAUX入力にパラ接続	1	⑱	同軸線（3C-2V）＋シールド線（ステレオ）	36
VTR2	VTR2は前面、後面どちらか切り替えて使用	1	⑲	同軸線（3C-2V）＋シールド線（ステレオ） YC分離ケーブル（S映像コード）	36
ラインモニター	—	3	㉑	同軸線（3C-2V）	37
マスターモニター	—	1	㉒	同軸線（3C-2V）＋シールド線	39
ヘッドエンド	—	1	㉓	同軸線（3C-2V）＋単芯シールド線	37
TVアンテナ信号入力分配器	—	1	㉔	同軸線	37
VTR3 YCモニター	S-VHS仕様	1	㉕	YC分離ケーブル（S映像コード）	39
カメラ4・OHC		2	⑭	同軸線（3C-2V）	11
インカムヘッドセット	MT-12MFB	1	㉖	—	38
ヘッドホン	ステレオ用 8 Ω	1		—	11
端子盤ユニット	WU-Q50Aなど 非常用放送設備と接続しないときに使用	1		—	46
電力増幅器	WU-P51、P52、P53 最大360 W			—	46
リレーユニット	WU-R110	6以下		—	46
映像ミキサー	接続する映像ミキサーの用途により、映像ミキサー専用のモニターテレビ、モニターテレビ接続用ケーブルが必要な場合があります。	1		同軸線（3C-2V） YC分離ケーブル（S映像コード）	40

線番号はシステム接続図（11ページ）の線番号に対応しています。

2006年6月現在

接続できる機器（つづき）

スタジオに設置する機器

品名	備考	接続可能台数	線番号	使用ケーブル	接続図参照 ページ
スタジオスピーカー	8 Ω	1	①	スピーカーケーブル	41
マイクロホン	—	3	③	2芯シールド線	41
カメラ1～4	—	4	⑮	スタジオケーブル	38
スタジオモニターテレビ	—	1	⑳	同軸線（3C-2V）+シールド線	39
ワイヤレス受信機	—	2～4	⑪	同軸線	41
ワイヤレスマイクロホン	—	—	—	—	—
インカムヘッドセット	—	3	—	—	38

線番号はシステム接続図（11ページ）の線番号に対応しています。

2006年6月現在

教室その他に設置する機器

品名	備考	接続可能台数	線番号	使用ケーブル	接続図参照 ページ
単局リモコンマイクまたは 多局リモコンマイク	WR-201または WR-210A、205A	1	⑧ ⑨	2芯シールド線+ビニール線	43
マルチリモコンマイク	WR-MC100	8	⑩	2芯シールド線+対形ケーブル	44
アンテナ（TV用）	—	1	㉔	同軸線	37
アンテナ（FM用）	—	1	㉕	同軸線	11
アンテナ（AM用）	FM混合分配器付のもの	1	㉕	同軸線	11
教室用テレビ	—	—	㉓	同軸線	37
教室用スピーカー	ハイインピーダンス型	—	㉑	耐熱線（非常放送共用のとき）	11
ボリュームボックス	—	—	—	耐熱線（非常放送共用のとき）	11

線番号はシステム接続図（11ページ）の線番号に対応しています。

2006年6月現在

非常用放送設備と接続するときの機器、工事部品

品名	備考	接続可能台数	使用ケーブル	接続図
リレーユニット (端子盤ユニット：中継用)	WU-R72 (一般30局、非常30局) (WU-Q50A) (120端子)	1 1～2	15芯ケーブル	48 50
リレーユニット	WU-R73 (一般10局、非常10局)	—	15芯ケーブル	48

2006年6月現在

設置の前に

本機の端子部について

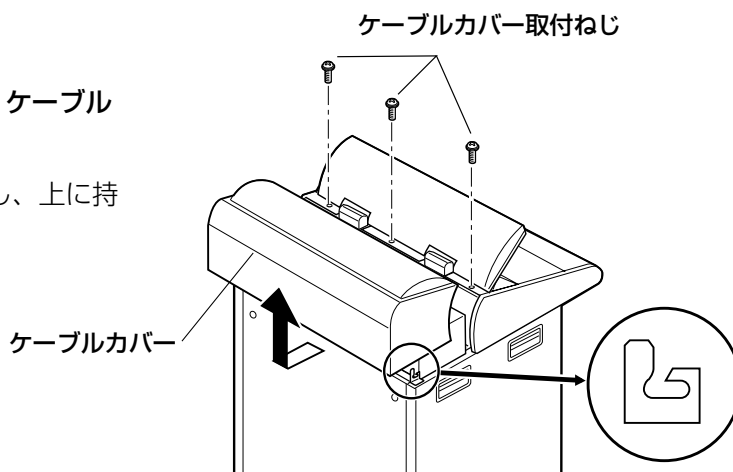
本機の端子部は後ろ側のケーブルカバーの中にあります。ここでは、端子部の出しかたと本機の入出力端子のインピーダンスについて説明します。

端子部の位置と出しかた

図のようにケーブルカバーを取り外します。

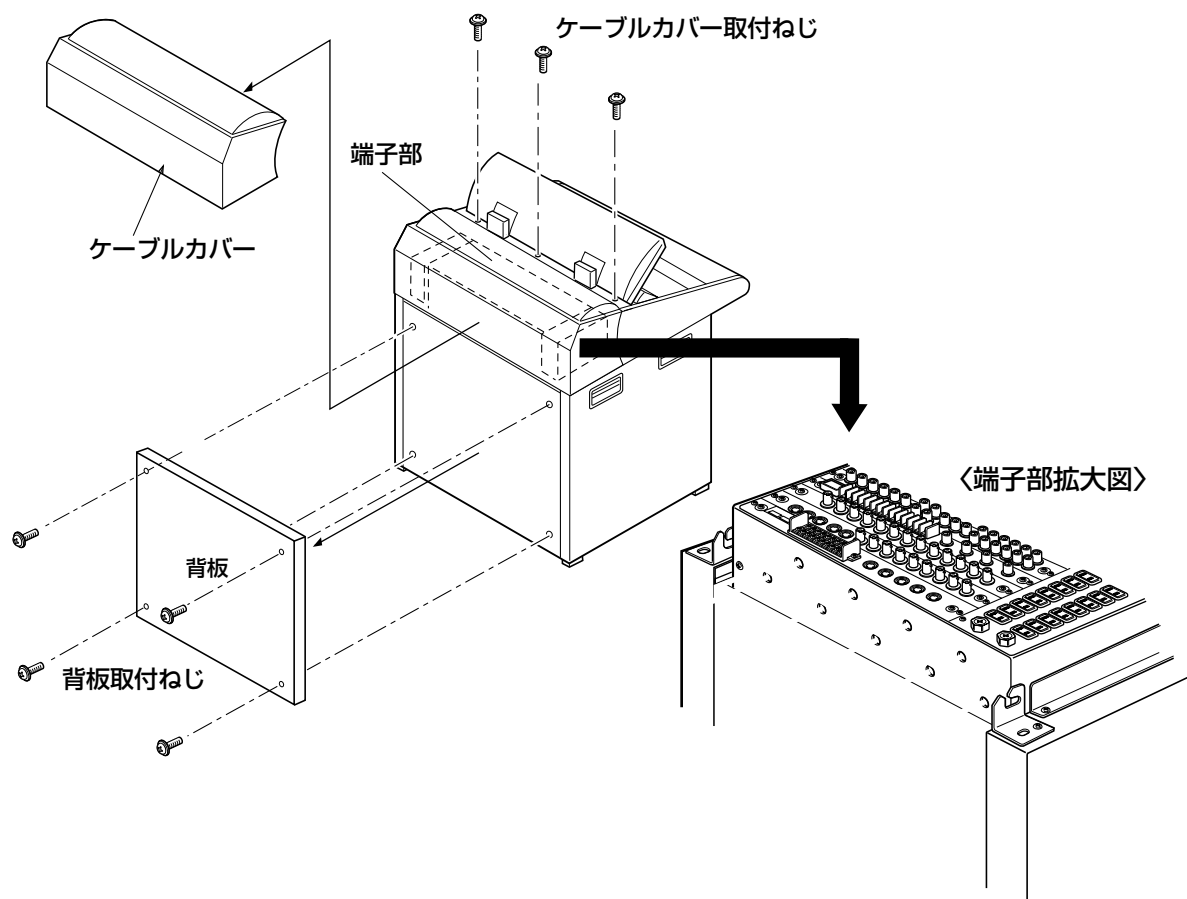
- 1 ケーブルカバー取付ねじ3本を外し、ケーブルカバーを持ち上げて取り外します。

- ケーブルカバーは一度後ろにずらし、上に持ち上げると取り外せます。



- 2 背板取付ねじ4本を外して背板を取り外します。

- ケーブルを配線するときは、背板を取り外し、端子部の後面にある穴にコードクランプを取り付けて、ケーブルをクランプします。コードクランプの取り付けかたについては24ページをお読みください。



設置の前に（つづき）

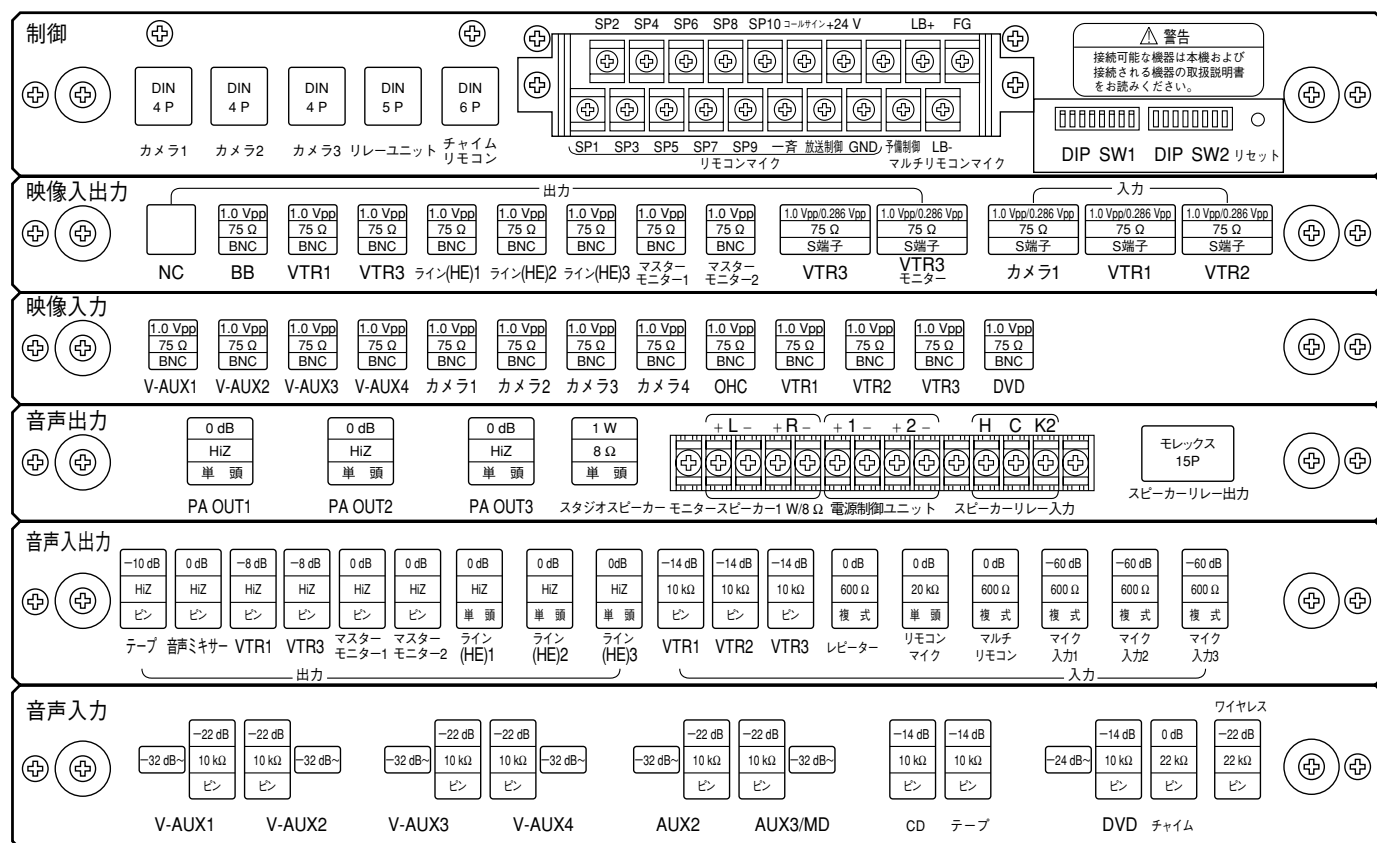
入出力端子の仕様

本機の入出力端子は、端子部と予備入力パネルにあります。

ここでは、その各入出力端子のレベル、インピーダンス、コネクタの形状について説明します。

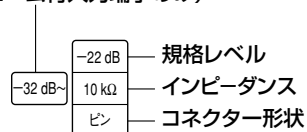
端子部

各端子の規格レベル、インピーダンス、コネクタの形状は以下のようになっています。



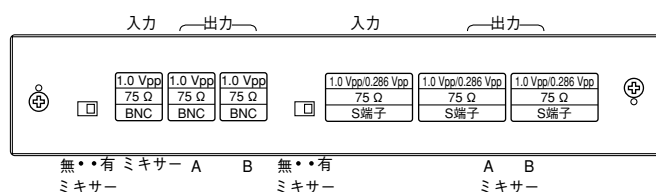
最大入力感度

（ボリューム付入力端子のみ）



映像ミキサー接続端子部

各端子の規格レベル、インピーダンス、コネクタの形状は以下のようになっています。

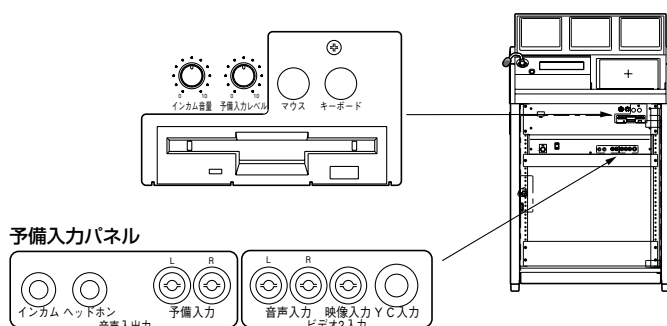


予備入力パネル

予備入力パネルの各端子のレベル・インピーダンス、コネクタの形状は以下のようになっています。予備入力パネルの各端子について詳しくは取扱説明書15ページをお読みください。

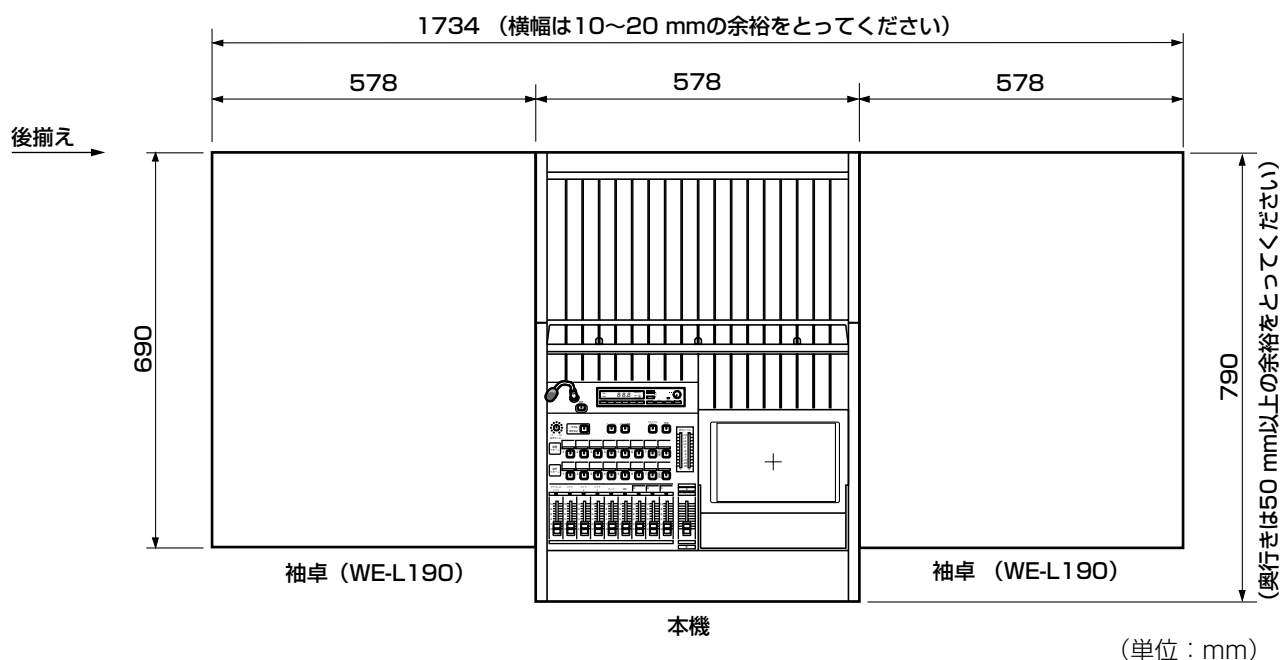
	入力端子名		レベル・インピーダンス	コネクタ形状
パネル表面	予備入力※1		音声：-22 dB、10 kΩ（最大入力感度-32 dB）	ピンプラグ（ステレオ）
	ヘッドホン		音声：3 mW、8 Ω	複式プラグ
	ビデオ2	音声入力	音声：-14 dB、10 kΩ	ピンプラグ（ステレオ）
		映像入力	映像：Y信号1.0 V [P-P] /75 Ω	ピンプラグ
		YC入力	映像：Y信号1.0 V [P-P] /75 Ω C信号 0.286 V [P-P] /75 Ω	S端子
	インカム※1		－	複式プラグ

※1 予備入力パネル右上（FDDふたの上）に音量（レベル）つまみがあります。



本機の設置スペースについて

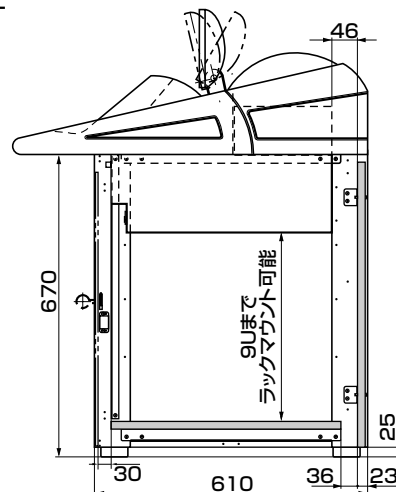
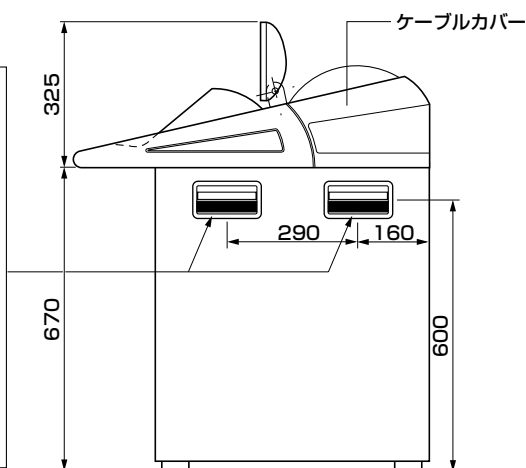
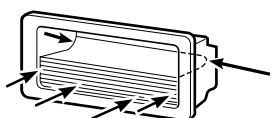
下図は、本機の両側に袖卓（別売品：WE-L190）を設置するときに必要なスペースを示しています。壁から50 mm以上離して設置してください。



通線口の位置について

通線口

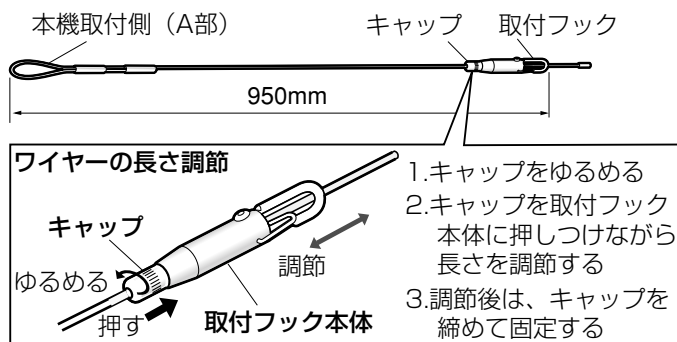
両側面に、通線口を設けてあります。
通線するときは、つなぎ目（矢印）をニッパーなどで切って口を開けてください。



(単位：mm)

固定ワイヤーの取り付けかた

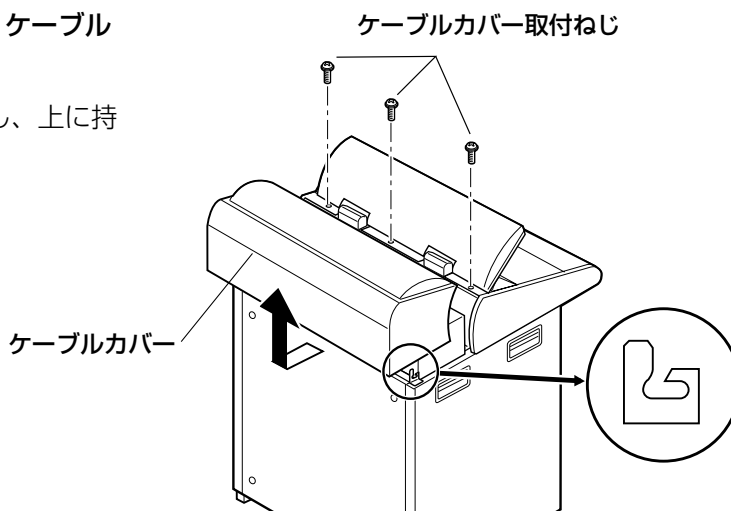
設置場所の床材質により本機本体がすべり移動することがあります。
すべりを防止するための固定ワイヤーを付属していますので、必要に応じて使用してください。



1

ケーブルカバー取付ねじ3本を外し、ケーブルカバーを持ち上げて取り外します。

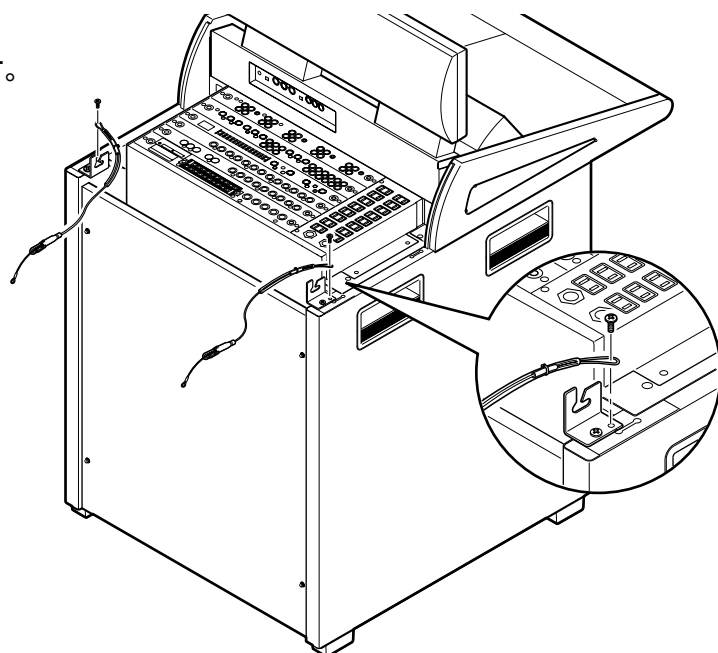
- ケーブルカバーは一度後ろにずらし、上に持ち上げると取り外せます。



2

図のねじをゆるめ、固定ワイヤーのA部を通してから再度ねじを締め、ワイヤーを固定します。

- もう一方の固定ワイヤーも同じように固定します。



3

2本の固定ワイヤーのフックを、取り付け場所に確実に取り付けます。

⚠重要⚠

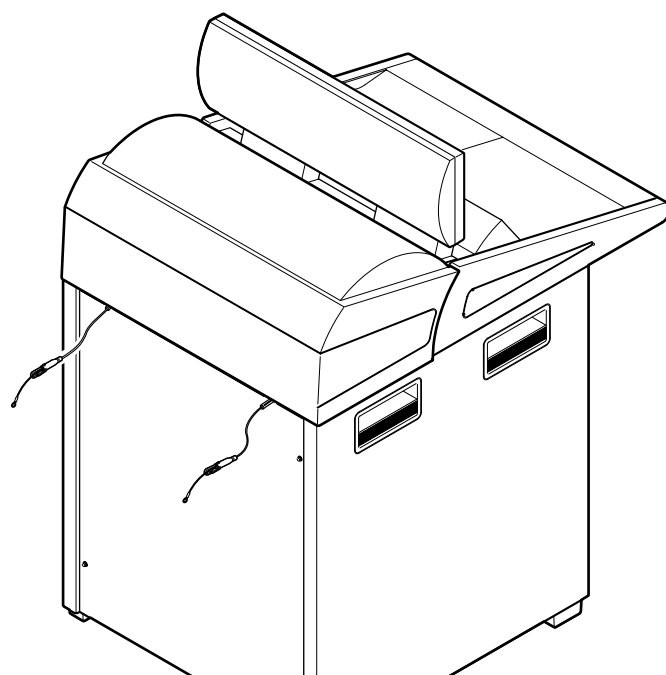
- 取り付け場所は建築物の基礎部分または十分な強度のある部分とし、引抜強度20 kg・f以上を確保してください。
取り付け場所側のアンカーボルトなどは引抜強度5倍以上のものを使用してください。

4

取付フック本体のキャップをゆるめて、フック側のワイヤーの端を引っ張り、たるみを無くします。

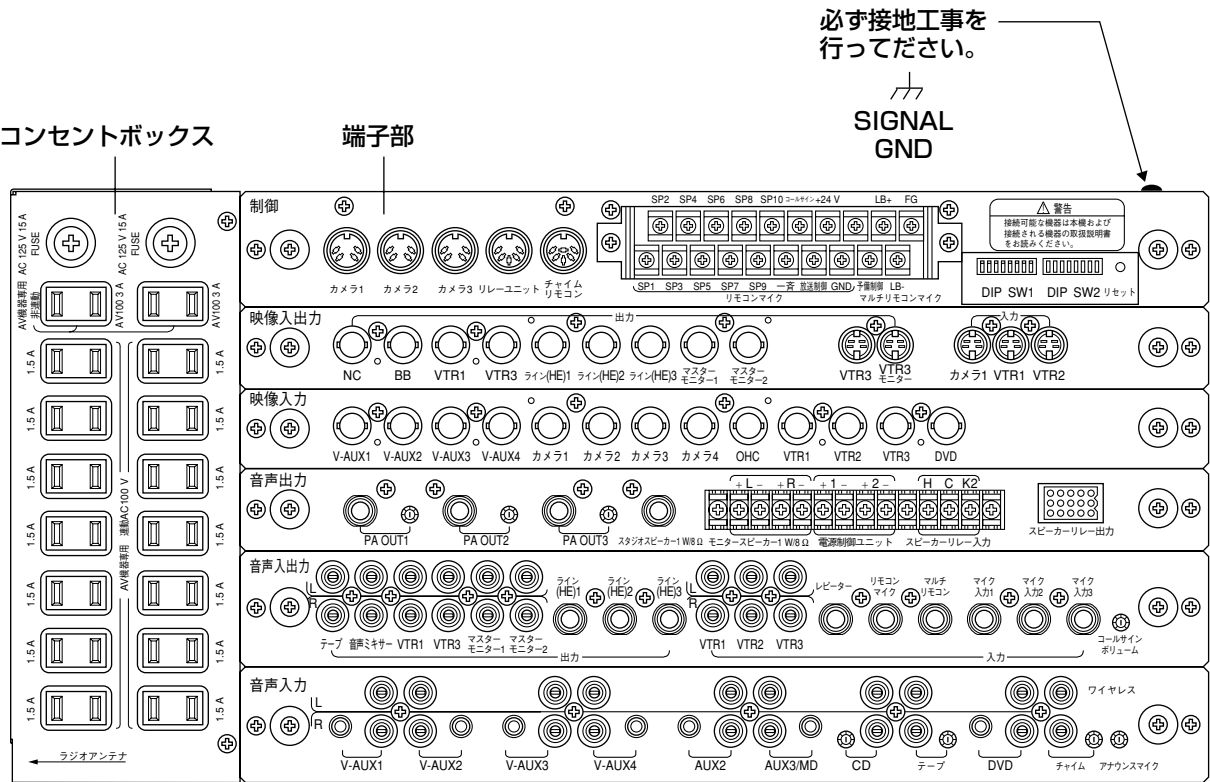
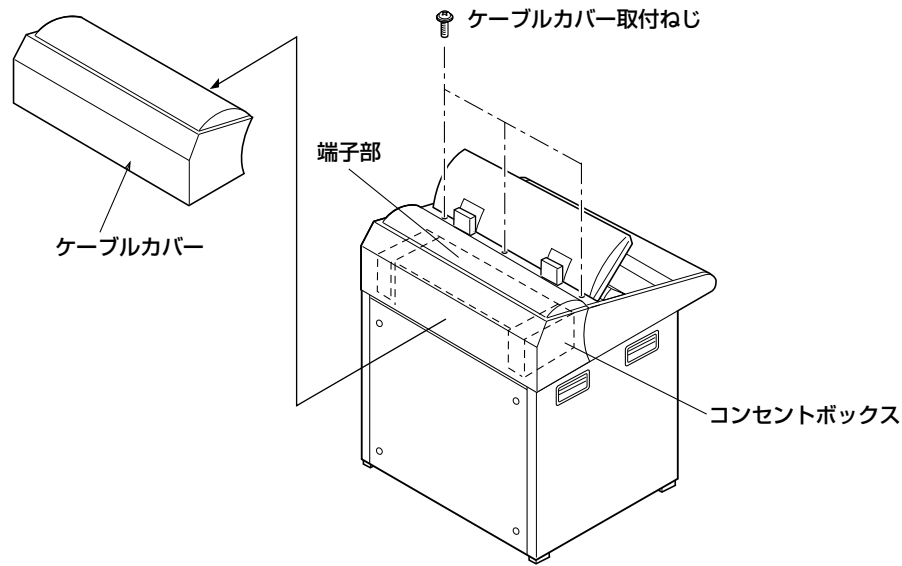
5

手順1で外したケーブルカバーを取り付けます。



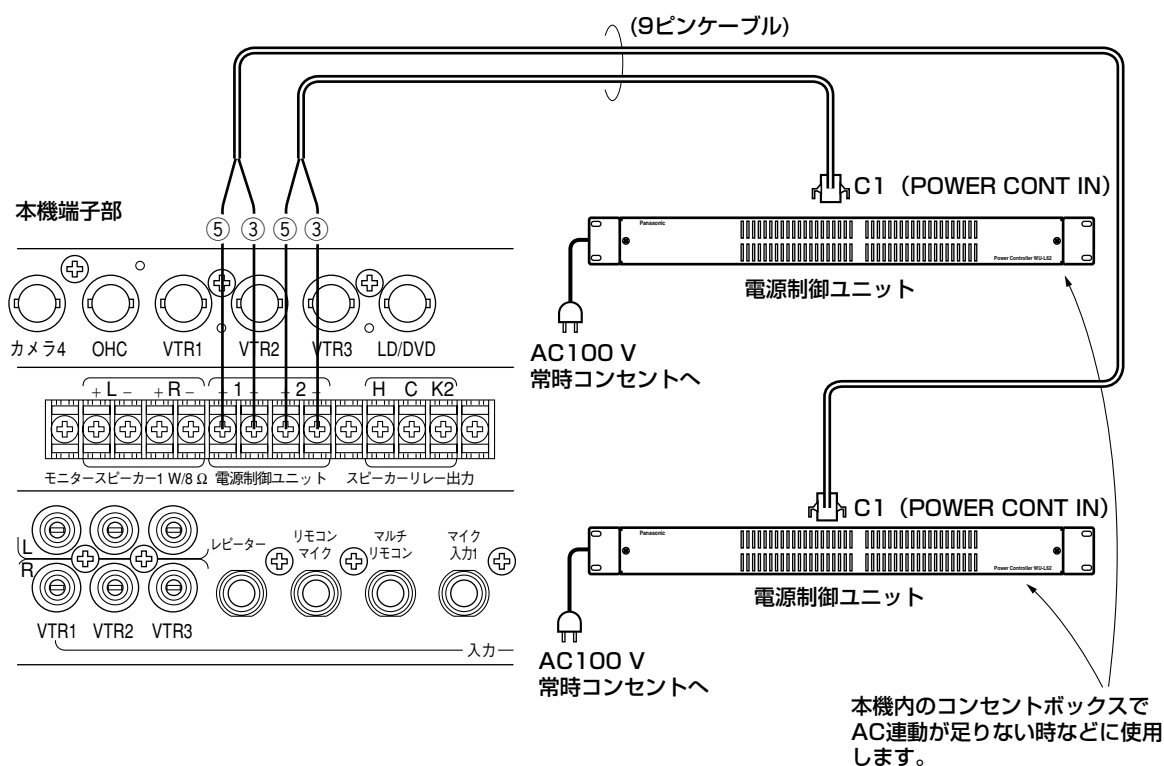
電源コンセントの配線について

本機と連動させて電源を入／切させたい機器は、本機の後ろ側のケーブルカバー内にあるコンセントボックス（連動）から電源をとります。「端子部の位置と出しかた」（17ページ）をお読みください。



AC100 V
ブレーカーか
らの常時電源
に接続してく
ださい。

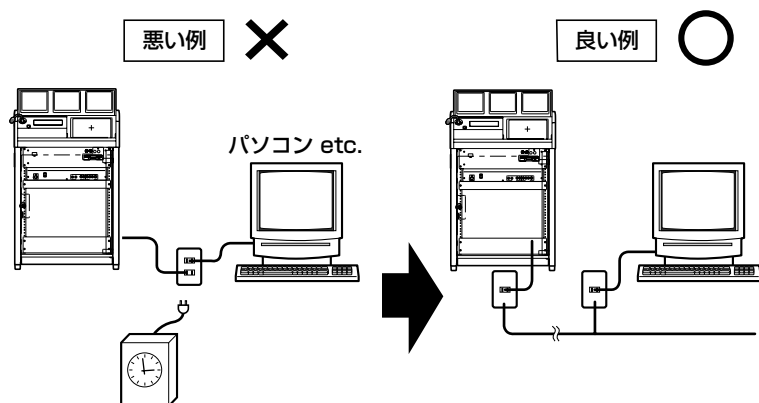
連動コンセントが足りないときは、電源制御ユニット（WU-L62）を別に増設してください。
接続のしかたなど詳しくは、電源制御ユニット（WU-L62）の取扱説明書をお読みください。



電源ノイズの対策

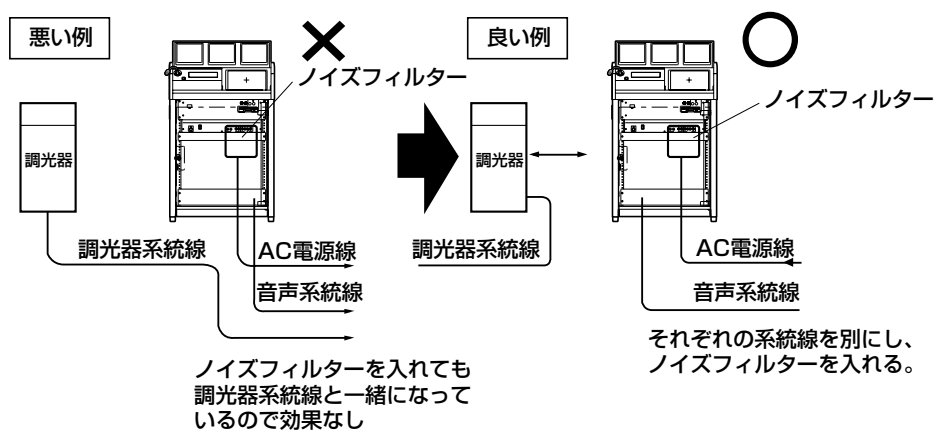
パソコンや調光器などを使用している場合は、以下のノイズ対策をおすすめします。

- ノイズ源となるようなものに供給しているACコンセントと別系統のACコンセントより供給する。



設置の前に（つづき）

- 本機へのAC電源線にノイズフィルターを接続します。また、調光器などのノイズ源となる系統を分離します。



推奨するノイズフィルターは以下になります。

デンセイ・ラムダ株式会社

MBS-1205-22 (5 A) PA 120 Wまで

MBS-1210-22 (10 A) PA 120 W～360 Wまで

2006年現在

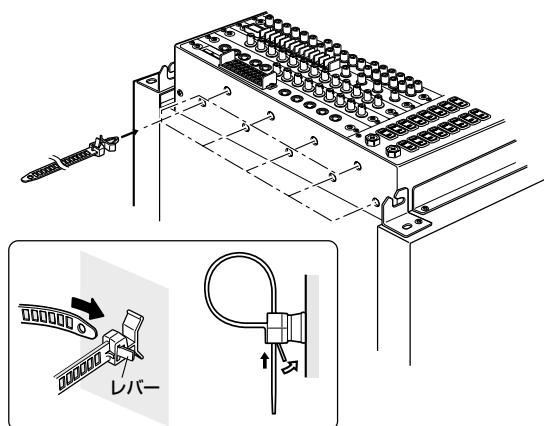
※接地アースを必ず接続してください。

コードクランプの取り付けかた

付属のコードクランプは、端子部の後面にある取り付け穴に差し込んで取り付けます。

端子部の接続が完了したらコードクランプでコードを束ねます。

レバーを動かすことでバンド部分をゆるめたりはずすことができます。

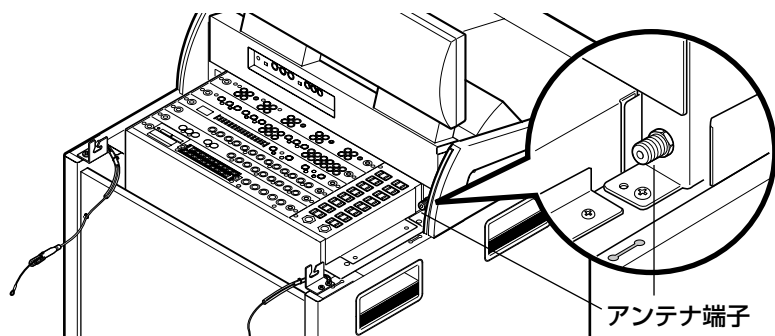


アンテナの接続・設置について

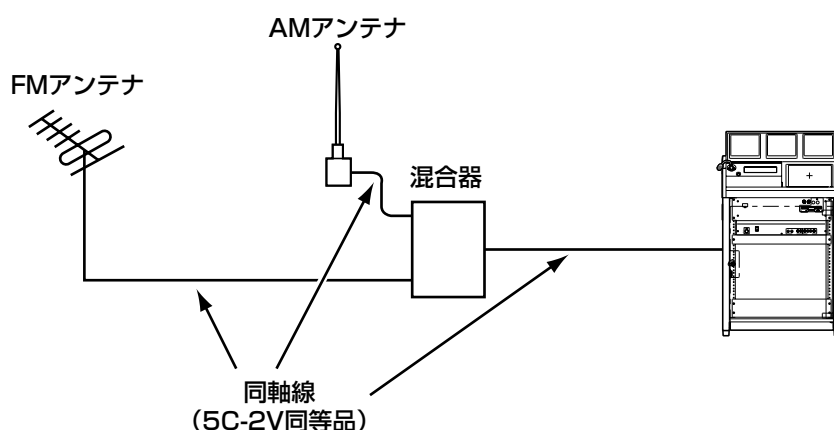
ラジオチューナーユニット（別売品）を使用する場合、アンテナの接続が必要になります。

アンテナを接続する際は、同軸線を使ってアンテナを本機後面のアンテナ端子に接続してください。

アンテナ設置工事の際には、適切なノイズ対策を行ってください。また、AMアンテナの設置については、26ページをお読みのうえ、設置工事を行ってください。



接続例

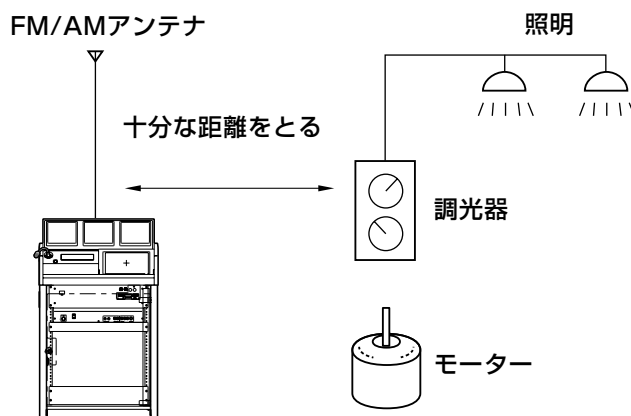


重要

- FM/AMアンテナと混合器、および混合器と本機との接続は、必ず同軸線（5C-2V同等品）を使用してください。

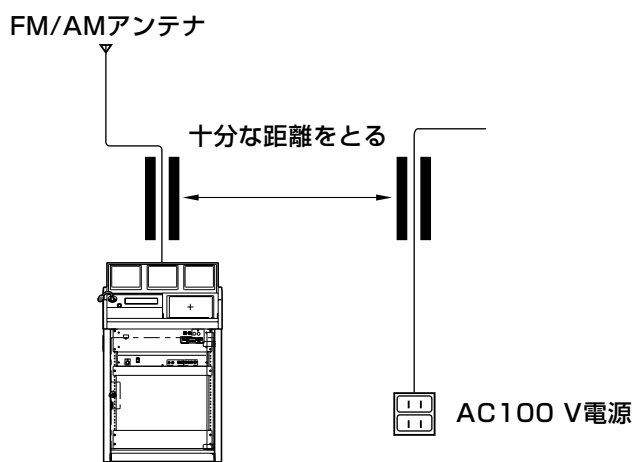
ノイズ対策について

- ノイズ源（照明・モーター・調光器など）を避けて配線してください。



設置の前に（つづき）

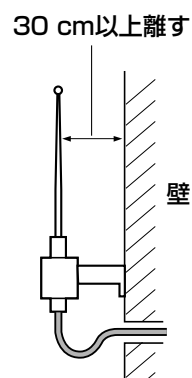
- 同軸線は、AC100 V電源ケーブルと同一配管しないでください。また、十分な距離をとって配管してください。



AMアンテナの設置場所について

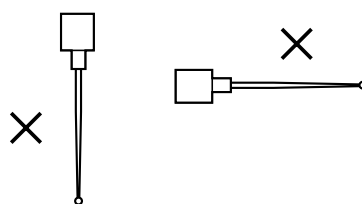
良好な受信をするために、AMアンテナを設置するときは、以下の点に注意してください。

- 電波を遮へいする物（コンクリート壁など）からアンテナを30 cm以上離してください。

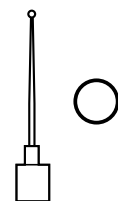


- 必ず見通しの良い場所にアンテナを設置してください。

- アンテナのエレメント部は、必ず上に向けて垂直に設置してください。

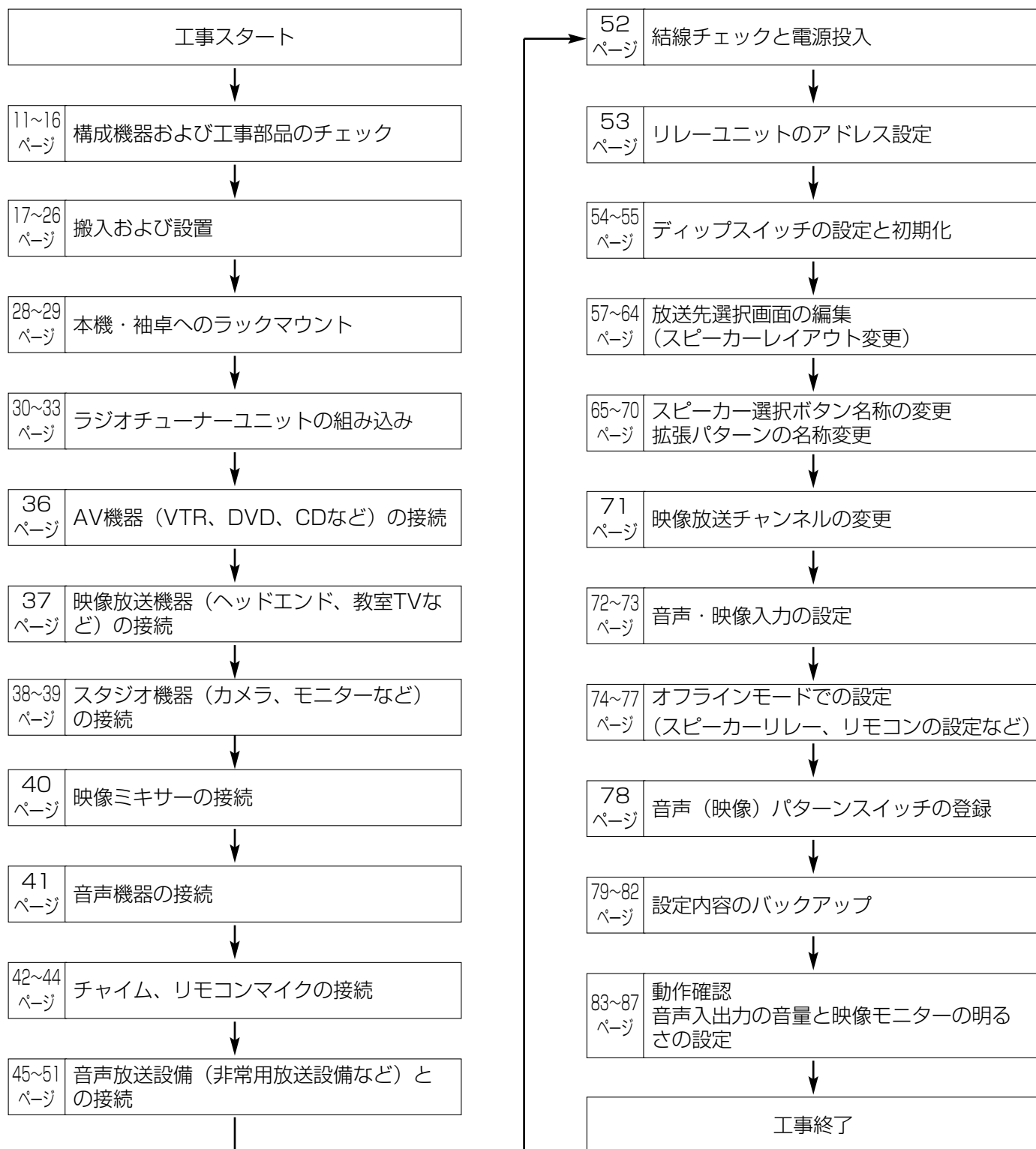


下に向けたり、
横に向けて設置しない



上に向けて
垂直に設置する

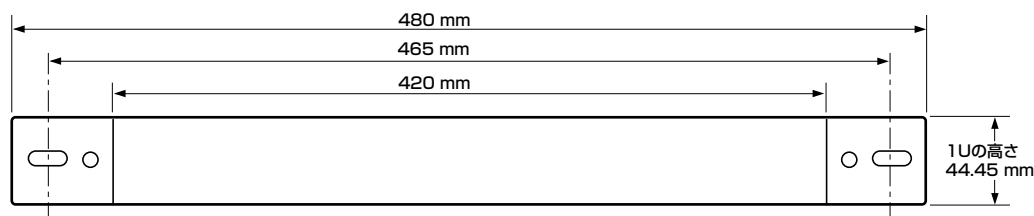
工事手順



ラックに取り付ける

マウント可能なユニットの基本寸法

ユニットの取付ピッチはいずれも、幅465 mm、高さ44.45 mm（EIA規格）です。この44.45 mmを1Uとして、ラックに収納できる機器の高さや収納容量を表しています。



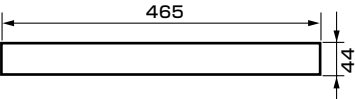
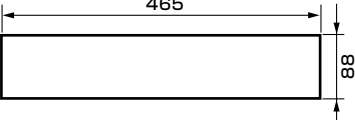
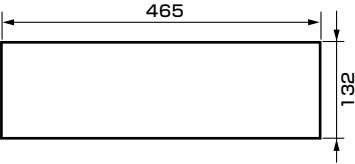
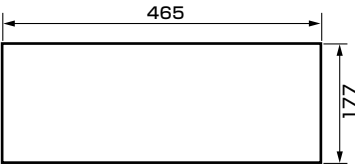
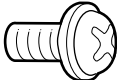
本機・袖卓へのラックマウント

- 電力増幅ユニット（最大360 Wまで）は、袖卓に取り付けてください。電力増幅ユニットの上には必ずブランクパネル（1U）を取り付けてください。
- 袖卓にマウントするときは、袖卓用ラックアングルWL-Q08が必要です（このとき棚板は使えなくなります）。
- ワイヤレス受信機とリモートコントロールユニット（RCU）はできるだけ離してマウントしてください。
- リレーユニットのスピーカー線はアンテナやマイクなどの信号線とできるだけ離して配線してください。
- ラックマウントスペースが不足のときは、別途EIAラックまたはAVコンソール、袖卓（WE-L190）を設置してください。
- 収納部、袖卓のラックマウントスペースに空きがあるときは、危険防止のため、必ずブランクパネルを取り付けてください。

!! 重要 !!

- リレーユニット（WU-R110）は、始めにアドレスNO.設定（53ページ）をしてからマウントしてください。詳しくはWU-R110の取扱説明書をお読みください。

ラックマウントできる機器

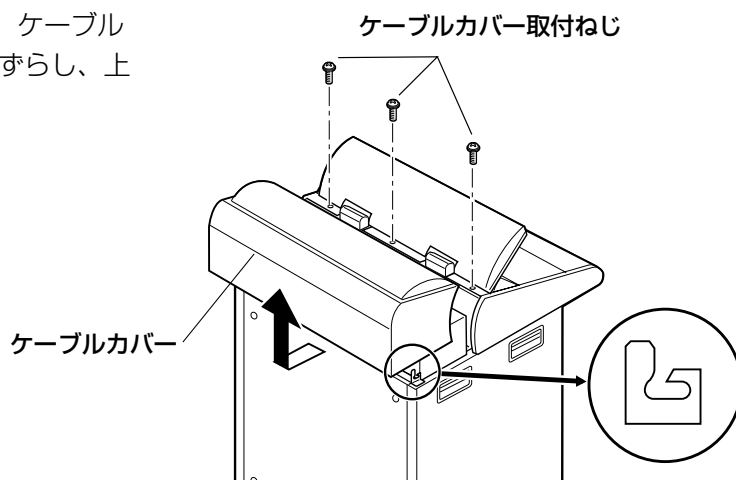
パネル外観寸法図 (単位：mm) () 内は高さ	品 名	品 番	ラックアングル
(1U) 	リレーユニット	WU-R110	付属
	2波用 ワイヤレス受信機	WX-4020	現地調達
	4波用 ワイヤレス受信機	WX-4040	
	ワイヤレス 混合分配器	WX-4910	
	電源制御ユニット	WU-L62	取付済
(2U) 	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 60 W	WU-P51	
	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 20 W	WU-P52	
	プログラム コントローラー	WZ-610	現地調達
(3U) 	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 360 W	WU-P53	取付済
	端子盤ユニット	WU-Q50A	
		WU-Q55	
(4U) 	リレーユニット	WU-R72	取付済
		WU-R73	
 20本組	飾りねじ (銀色)	W2-MSS/5008	—

ラジオチューナーユニットを組み込む

ラジオチューナーユニット（別売品）をご使用の場合は、以下の手順で本機に組み込みます。

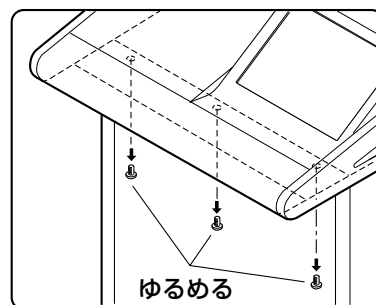
1

ケーブルカバー取付ねじ3本を外し、ケーブルカバーを取り外します（一度後ろにずらし、上に持ち上げます）。



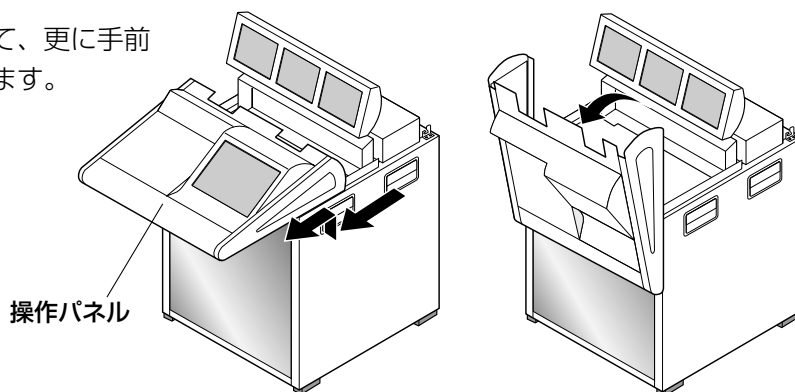
2

操作パネルの取付ねじ3本（手前裏にあるねじのうち一番奥側3本）をゆるめて手前にスライドさせます。



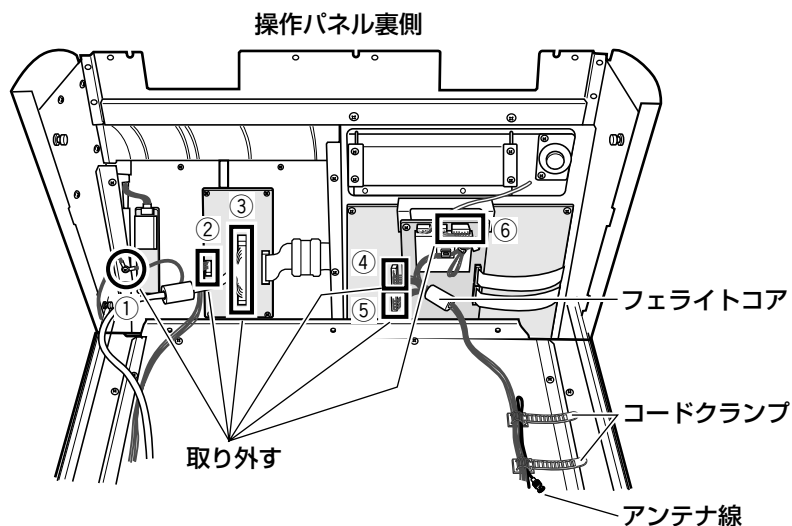
3

操作パネルの手前を少し持ち上げて、更に手前に引き、操作パネルを手前に倒します。



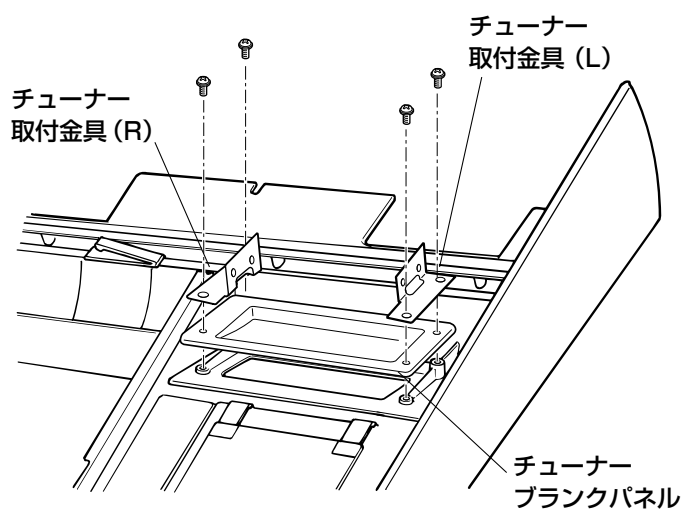
操作パネルを本体から取り外す場合には、操作パネル裏側のケーブル6本を取り外します。

- ①は③のケーブルとともにねじ止めされています。
 - ④⑤⑥はフェライトコアで束ねられています。
 - ⑥は基板に固定されています。また、ラジオチューナー用ケーブルとともに束ねられていますので、ニッパーなどで切り離してください。（手順9参照）
- 操作パネルはそのまま持ち上げると外れます。



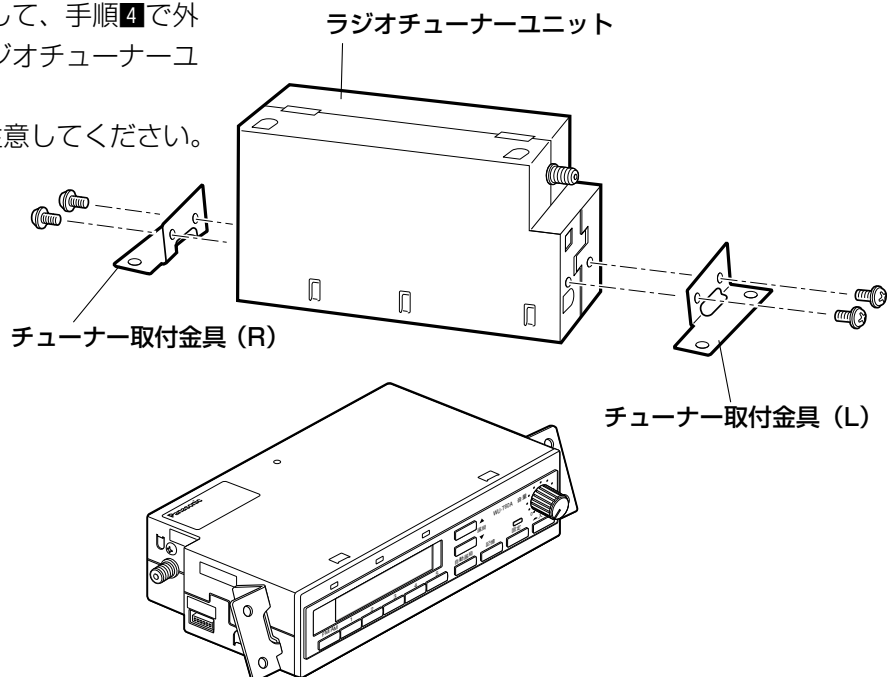
4

操作パネル裏側のチューナーブラックパネル取付ねじ4本を外し、チューナーブラックパネルとチューナー取付金具（L/R）を外します。



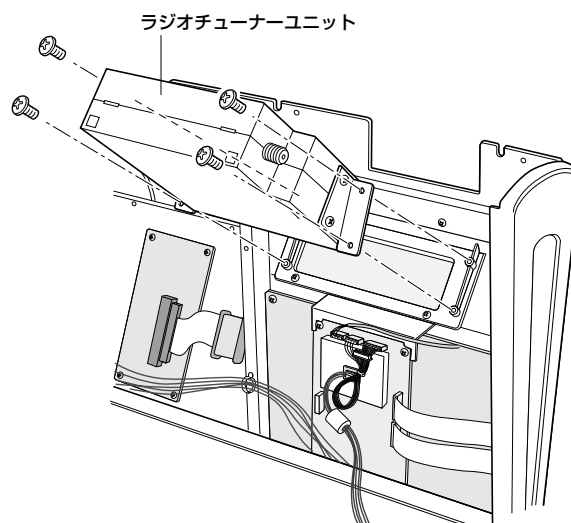
5

ラジオチューナーユニットに付いている取付金具を外し、外したねじを使用して、手順4で外したチューナー取付金具をラジオチューナーユニットに取り付けます。
金具に左右がありますので、注意してください。



6

ラジオチューナーを手順4で外した取付ねじ4本で操作パネル裏側に固定します。



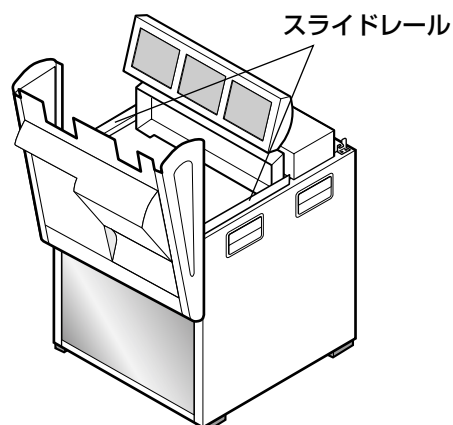
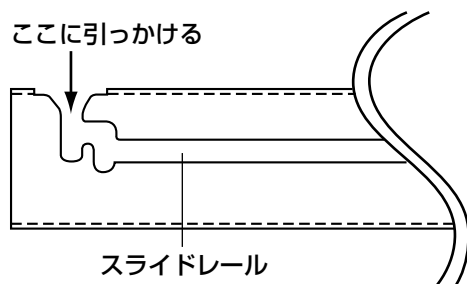
ラジオチューナーユニットを組み込む（つづき）

7

操作パネルを取り外した場合は、操作パネルを本体に取り付けます。

操作パネルを本体のスライドレールに引っ掛け、垂直にした状態にしておきます。

その後、外したケーブルを元どおりに接続します。

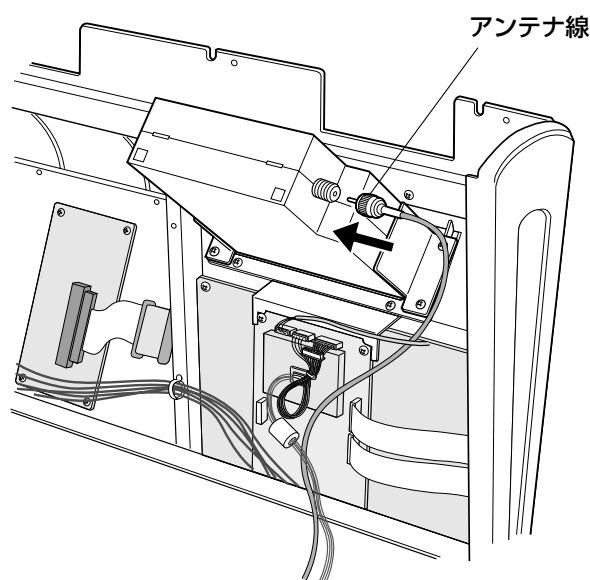


8

ラジオチューナーユニットにアンテナ線を接続します。外れないようナットを締めてください。

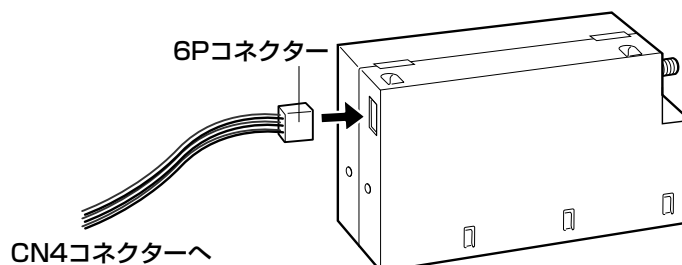
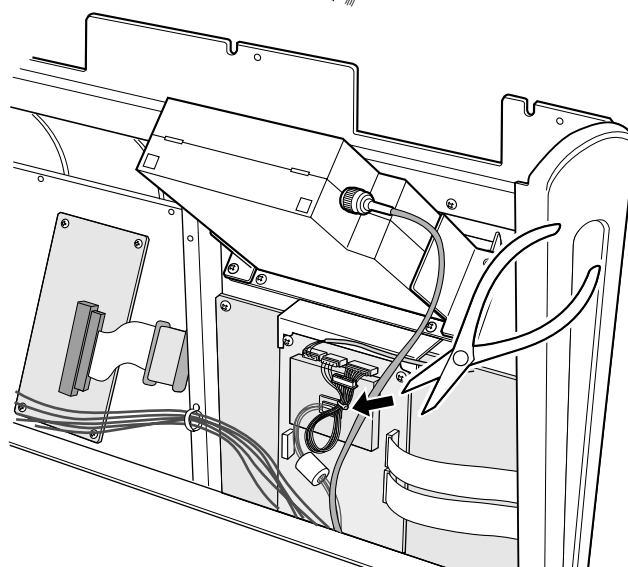
メモ

- アンテナ線は本体側にコードクランプで束ねられています（30ページ3参照）。コードクランプをゆるめて、アンテナ線を引き出して、チューナーユニットに取り付けてください。
- 取り付け後、コードクランプをしっかりとめてください。



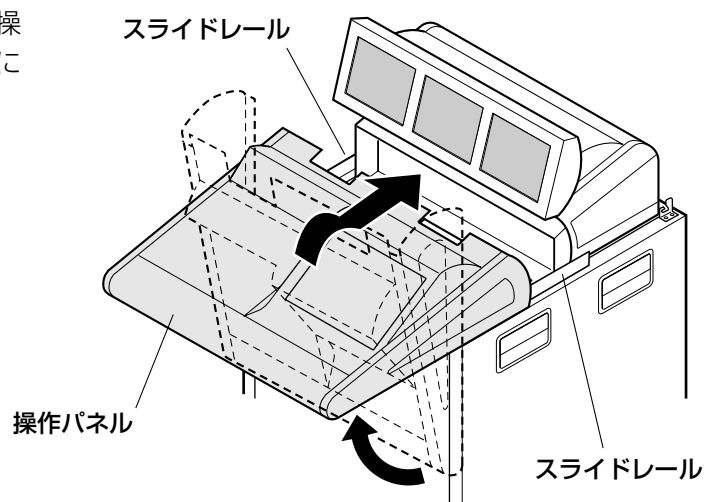
9

ケーブルを束線しているバンドをニッパーなどで切り、CN4に取り付けられている6Pコネクタをラジオチューナーユニットに接続します。



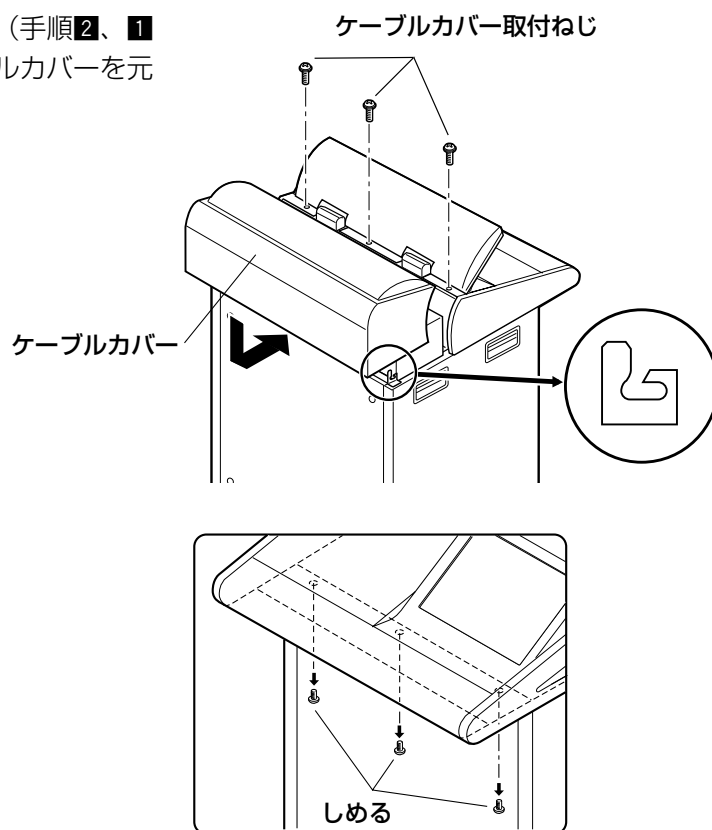
10

操作パネルを水平になるように起こします。操作パネルの手前を持ち上げ、スライドレールに沿って奥に押し込みます。



11

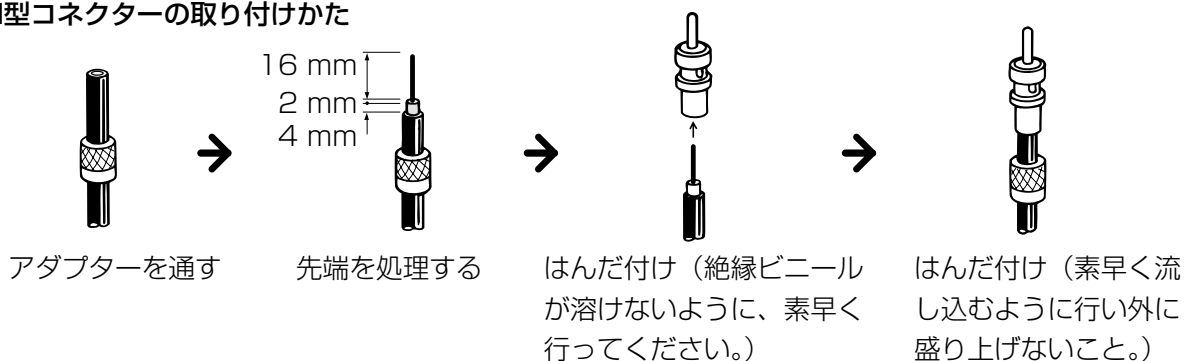
操作パネルを外すときと逆の手順（手順2、1の順番）で、操作パネル、ケーブルカバーを元どおりに取り付けます。



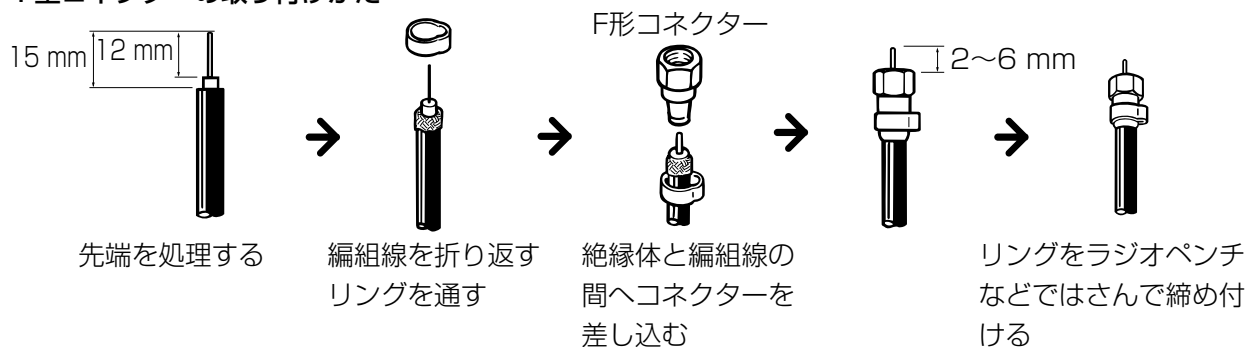
ケーブルのコネクター、プラグを取り付ける

映像ケーブル

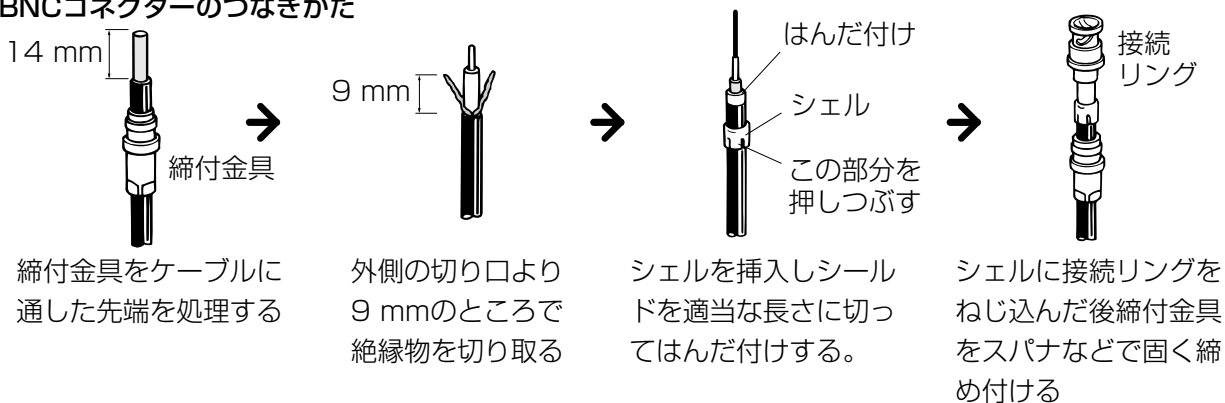
M型コネクターの取り付けかた



F型コネクターの取り付けかた



BNCコネクターのつなぎかた

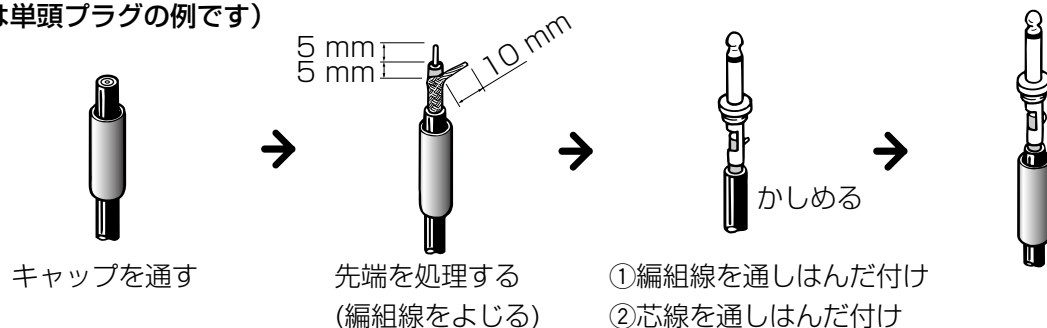


!! 重要 !!

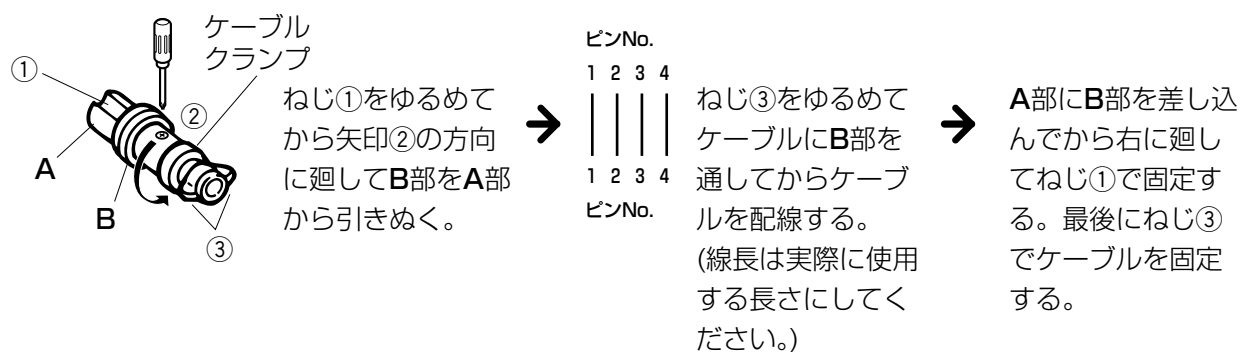
- 使用するケーブルは3C-2Vを推奨します。これよりもケーブル径が大きいとケーブルカバーの内側に当たり、ケーブルカバーが付かないことがあります。その場合は3C-2Vケーブルを中継して接続してください。

その他のケーブル

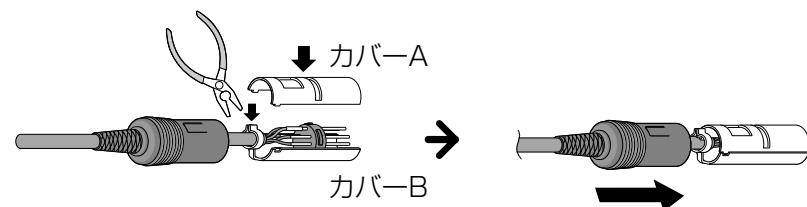
単頭／複式プラグの取り付けかた
(図は単頭プラグの例です)



インカム・タリーケーブルの取り付けかた



DINコネクターの取り付けかた



キャップを通してから、各リード線
をはんだ付けし、カバーBのツメを
ラジオペンチなどでかしめる。
カバーAを取り付ける

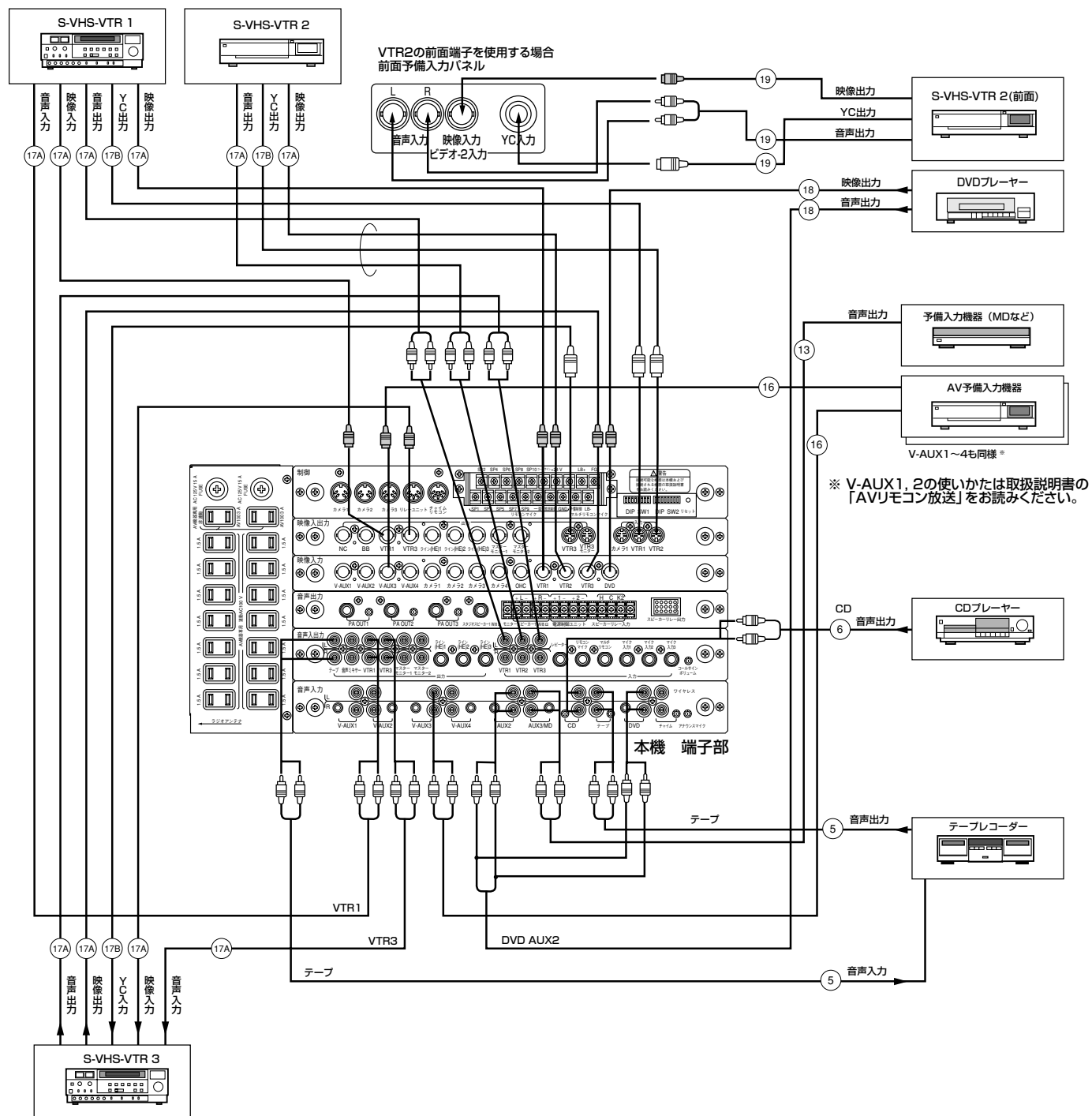
キャップを取り付ける

AV機器を接続する

VTR、DVD、CD、テープレコーダーなどの録画機器は、以下の接続図のように接続します。

映像ミキサー使用時は、DVDの音声が入力されなくなりますので、録画機器はAUX入力端子に並列に接続してください。DVDプレーヤー使用時はCDの入力端子に並列に接続してください（音声が入力されるときはレベルを調節してください）。

接続用ケーブルは各機器に付属のケーブルを使用するか、または別途ご用意ください。

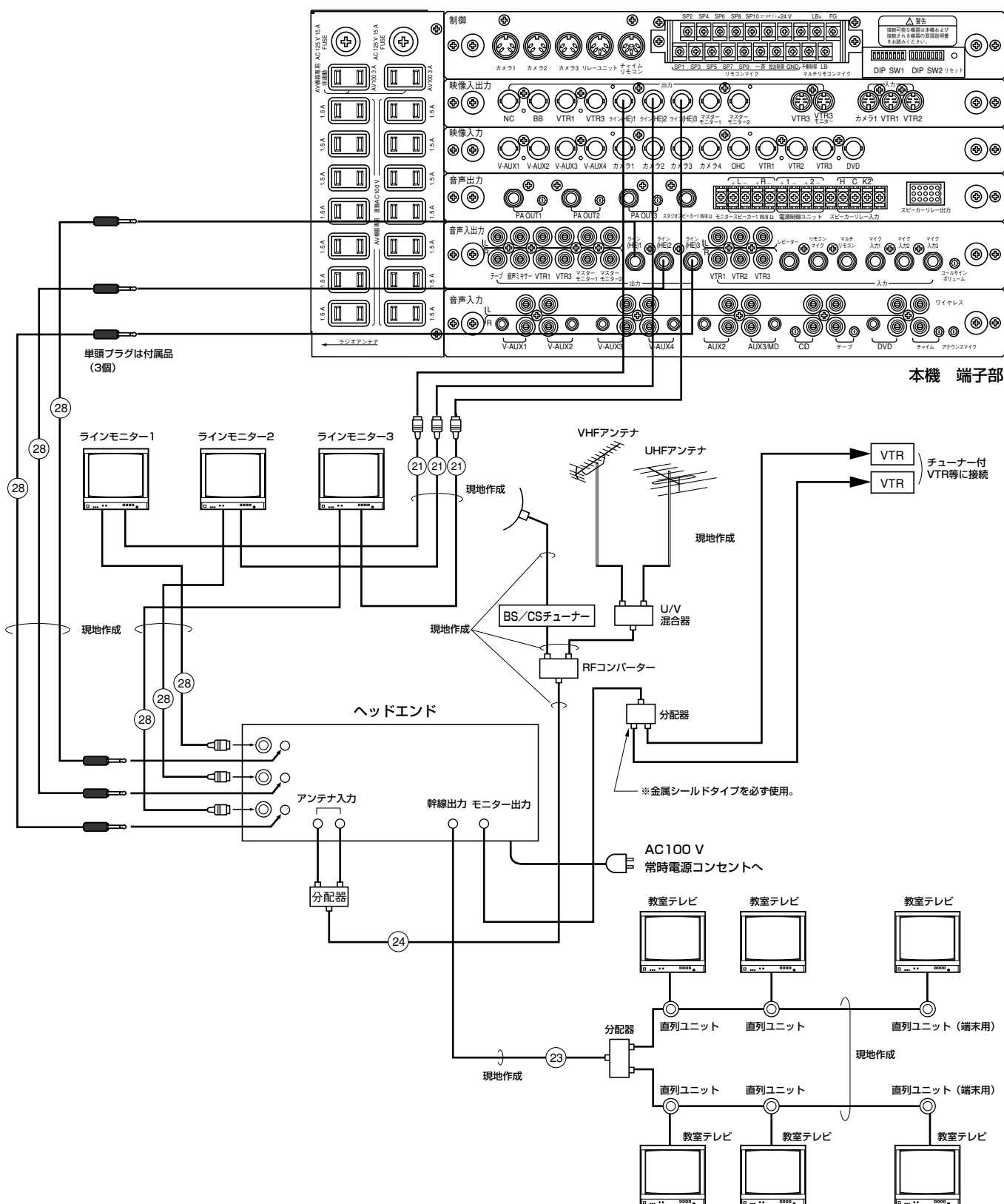


ヘッドエンド、TVアンテナ、教室テレビを接続する

ヘッドエンド、TVアンテナ、教室テレビは、以下の接続図のように接続します。

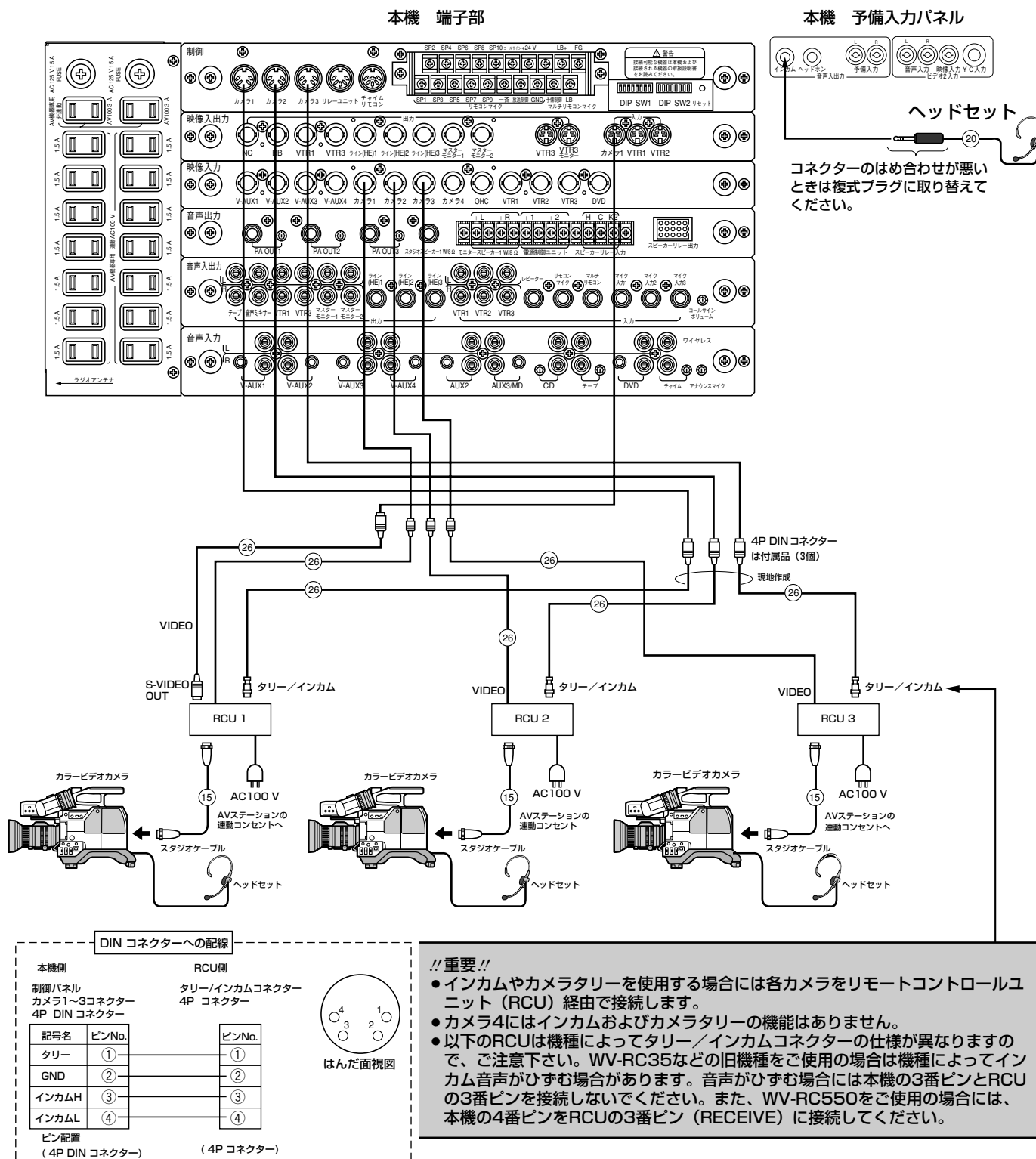
!! 重要 !!

- 以下の接続ではヘッドエンド出力をVTRのテレビチューナー入力としているため、ヘッドエンド出力のチャンネルを選択するとハウリングを起こす場合があります。このような場合はVTRのTVチューナー設定からヘッドエンドの出力チャンネルを消去してください。



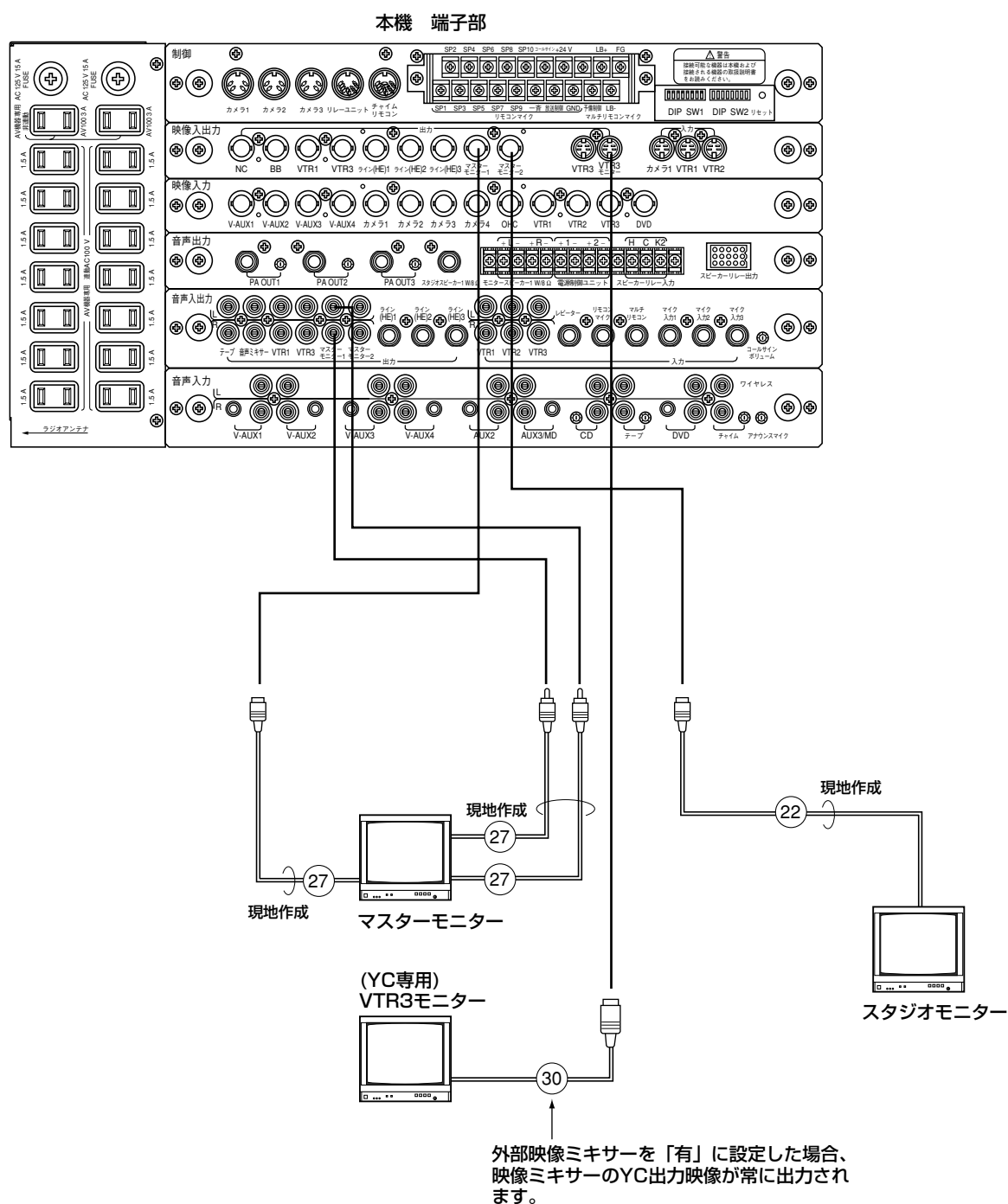
カメラを接続する

カメラは、以下の接続図のように接続します。



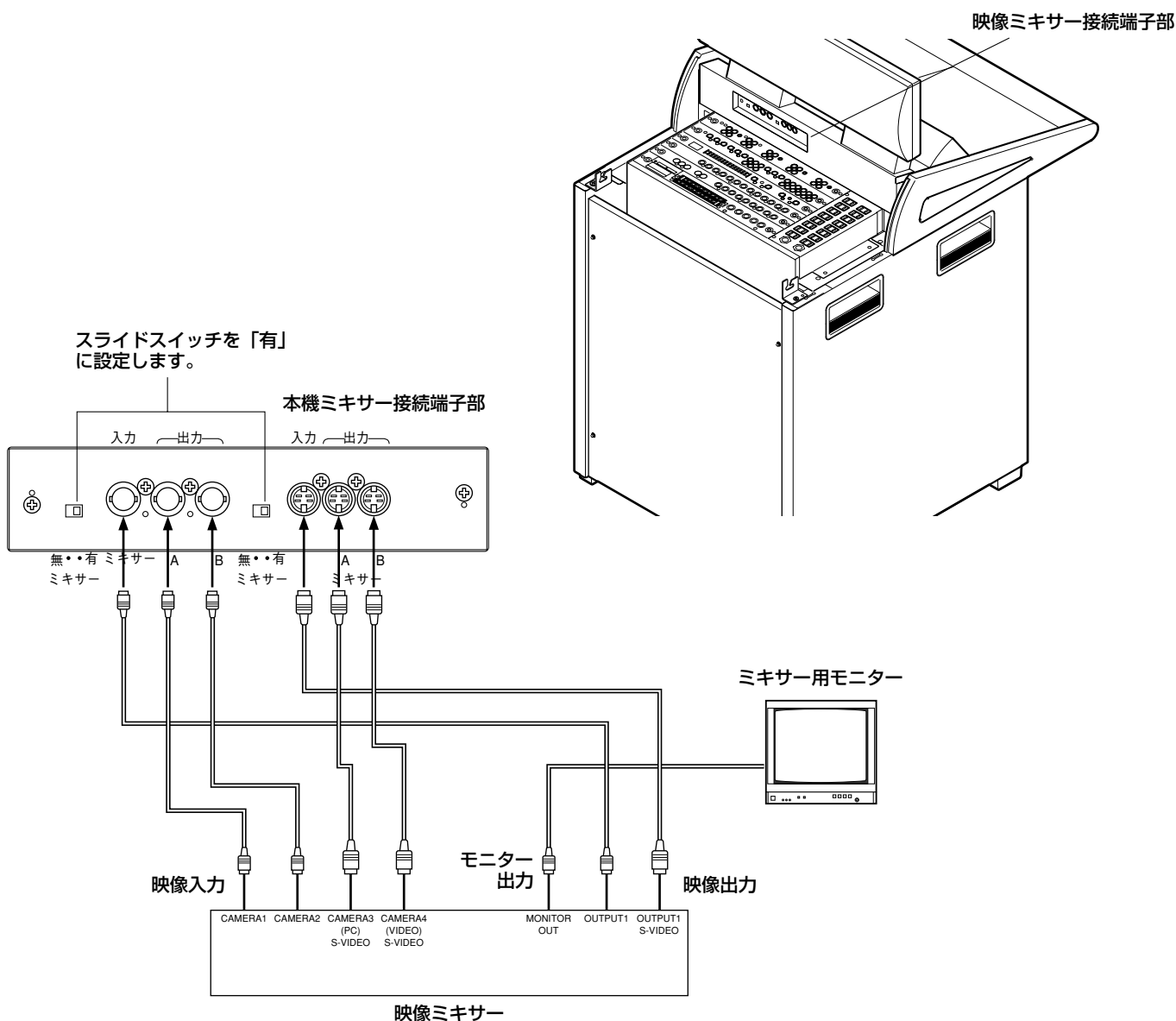
モニターを接続する

マスターモニター、スタジオモニターは、以下の接続図のように接続します。



映像ミキサーを接続する

映像ミキサーやミキサー用モニターは、以下の接続図のように接続します。
接続用ケーブルは各機器に付属のケーブルを使用するかまたは別途ご用意ください。

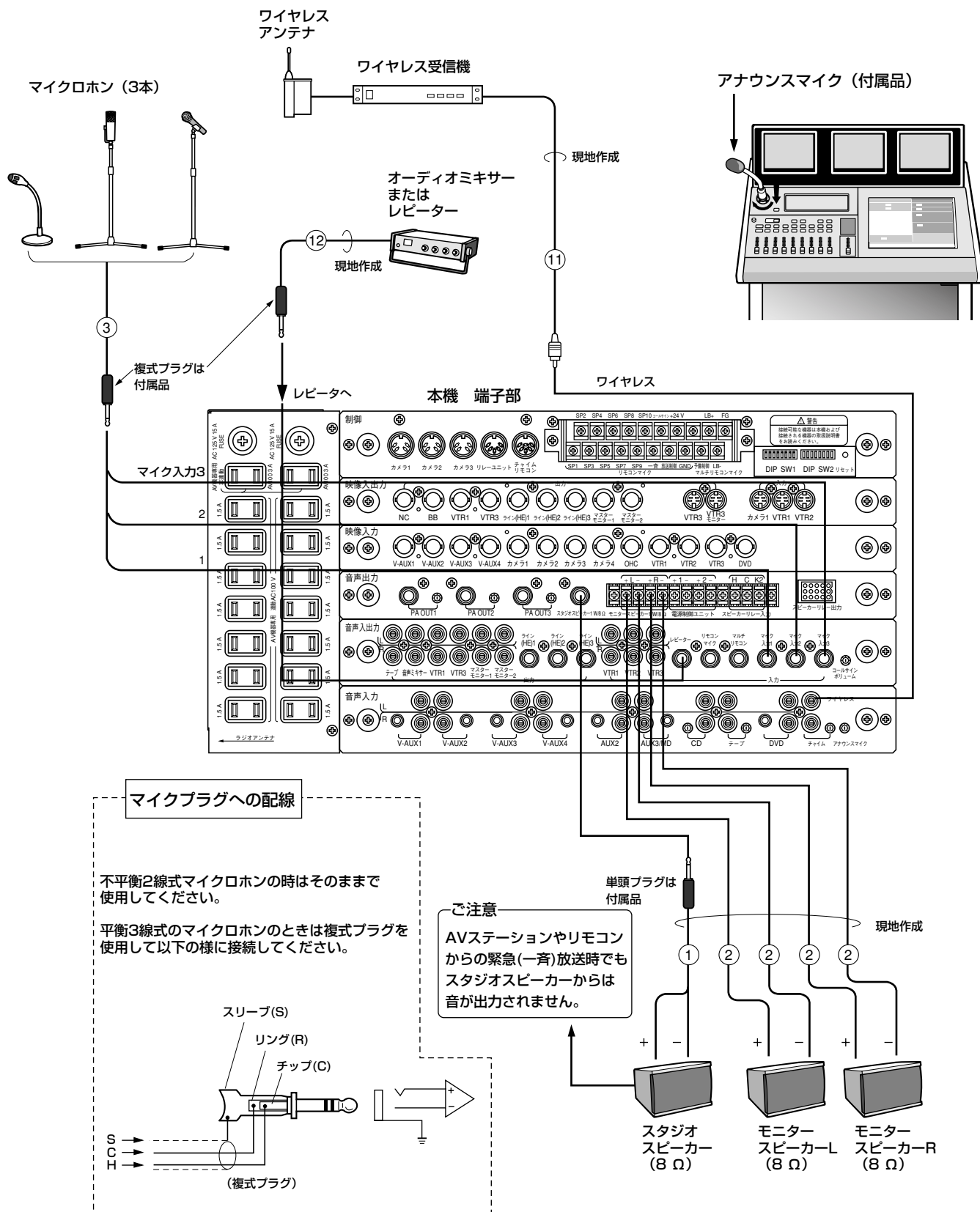


!! 重要 !!

- 映像ミキサーを使用する時は制御パネルの右にあるディップスイッチを「有」に設定してください。
- 上記の図のように4入力の映像ミキサーを使用している場合、BNC2系統/S端子2系統の合計4系統を接続できますが、操作パターンには「映像ミキサー」画面で選択されている系統（A側、B側、各1つの合計2つ）のみが登録されます。
- BNCコネクタは3C-2Vケーブル用（コネクタ長20 mm以下）をお使いください。また、CDプレーヤーやテープレコーダーからの音声入力の接続（36ページ）には各機器に付属のケーブルまたは市販のピンプラグ付きオーディオケーブル（プラグ長30 mm以下）をお使いください。大型のBNCコネクタやピンプラグをお使いの場合、端子部に無理な力がかかり接続不良になる恐れがあります。

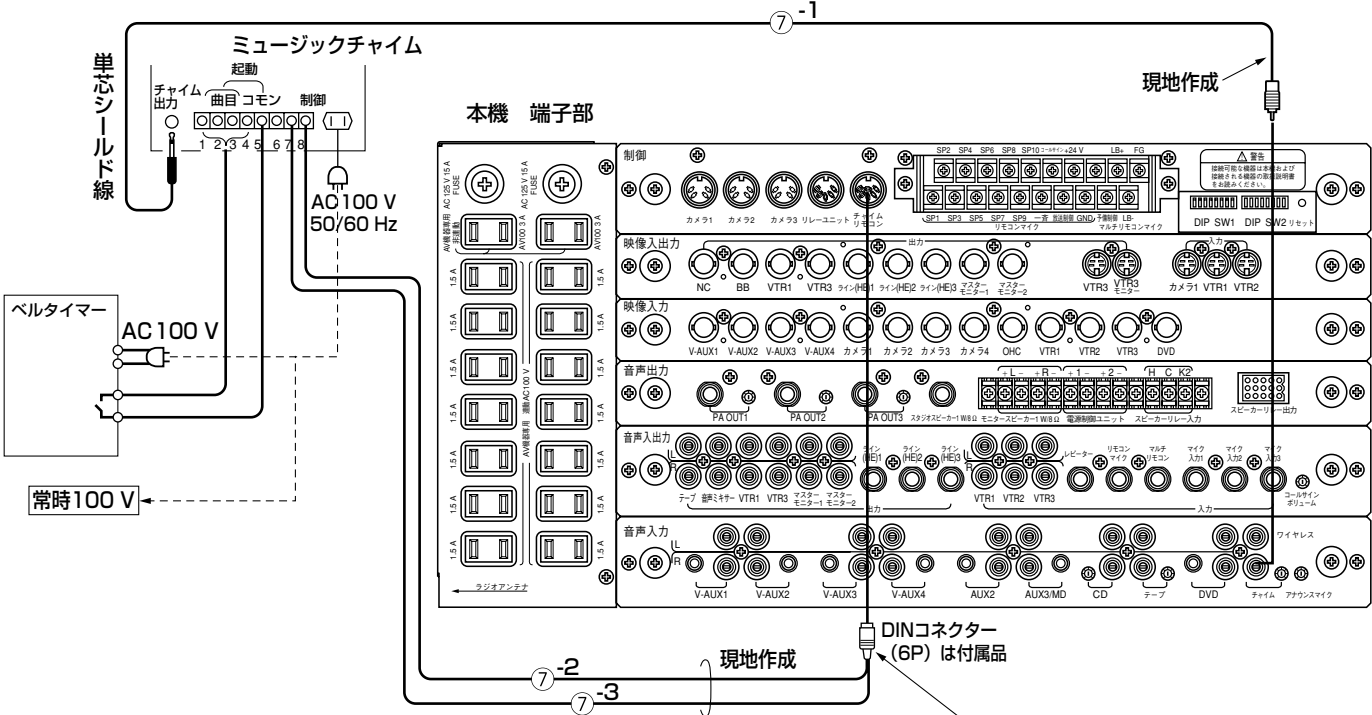
音声機器を接続する

マイクロホン、ワイヤレス受信機、レピーター、スタジオスピーカー、モニタースピーカーは以下の接続図のように接続します。



ミュージックチャイムを接続する

ミュージックチャイムは以下の接続図のように接続します。



接続

!!重要!!

- タイマー・チャイムのAC100 V電源は本機のAC連動コンセントから供給しないでください。常時AC100 Vの出ているコンセントへ接続してください。
- ミュージックチャイム用のタイマーには、プログラムコントローラーまたは松下電工（株）製ベルタイマーをお使いください（プログラムコントローラーをお使いの際はプログラムコントローラーの取扱説明書をご参照ください）。
- 出荷時は、チャイム放送を優先した一般放送とのミキシング状態に設定してありチャイム起動時、一般放送は小さくなります。（約20 dBダウン）ただし一斉放送になりますので放送していない場所でもミキシング放送が聞こえます。
- チャイム優先放送（一般放送はカットされ、チャイム放送のみ一斉になる）にするには、制御パネル右のディップスイッチ1-4をOFF（0：上側）、1-5をON（1：下側）にしてください。（54ページ）
- 完全ミキシング放送（チャイム放送と一般放送の一斉ミキシング放送になります。ただし、一斉放送になりますので一般放送をしていない場所でもミキシング放送が聞こえます。）にするには、制御パネル右のディップSW1-4をON（1：下側）、1-5をOFF（0：上側）にしてください。（54ページ）
- 54ページの「重要」もあわせてご確認ください。

DINコネクタへの配線

ピン配置 (6P-DINコネクタ)



ハンダ面視図

1チャンネルのみチャイム放送をするとき

チャイムリモコン (1系統)

ピンNO.	信号名
①	チャイム 1
②	チャイム 2
③	チャイム 3
④	GND
⑤	GND
⑥	+24 V

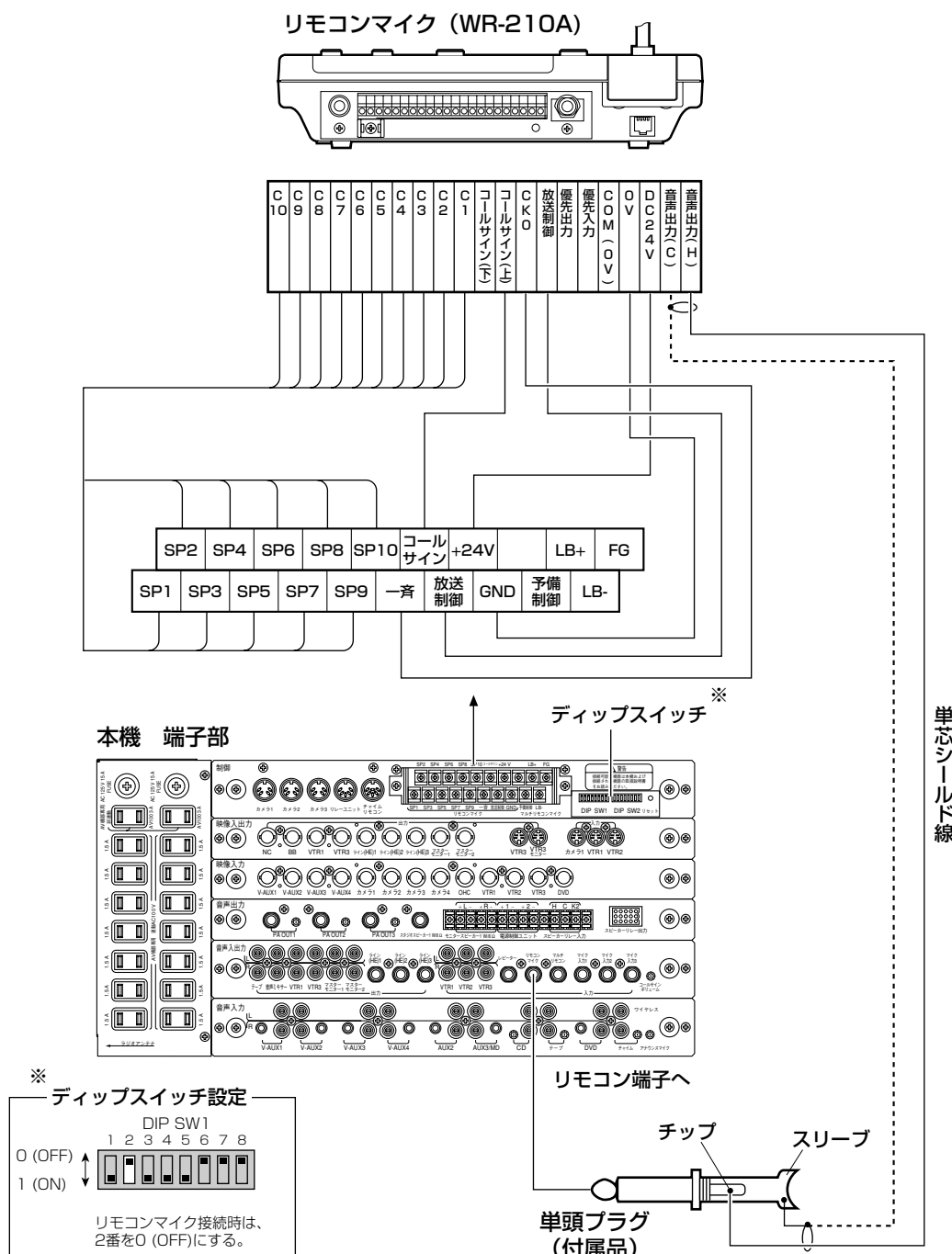
3チャンネルともチャイム放送をするとき

チャイムリモコン (3系統)

ピンNO.	信号名
①	チャイム 1
②	チャイム 2
③	チャイム 3
④	GND
⑤	GND
⑥	+24 V

多局リモコンマイク (WR-205A,WR-210A) を接続する

多局のリモコンマイク (WR-205A、WR-210A) は以下の接続図のように接続します。



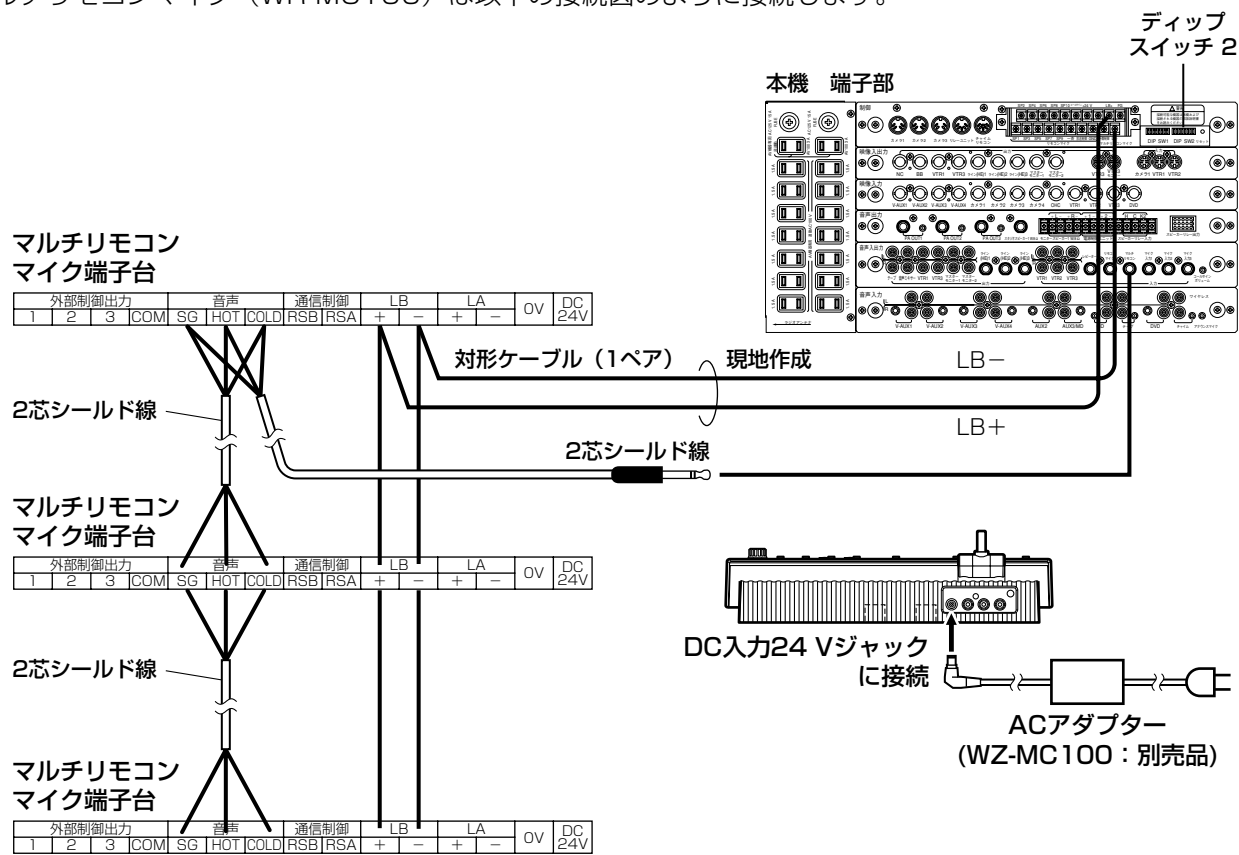
!! 重要 !!

- 主電源を入れたままケーブルを接続しないで下さい。スタンバイ状態では制御パネルに電源が供給されているため、ケーブル接続時に基板上のヒューズが切れることがあります。制御パネル基板のヒューズ交換は販売店にご相談ください。
- 接続ケーブルは調光器／電動機等ノイズ源となる機器との配線と束ねたり同一配管しないで下さい。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

接続

マルチリモコンマイク (WR-MC100) を接続する

マルチリモコンマイク (WR-MC100) は以下の接続図のように接続します。

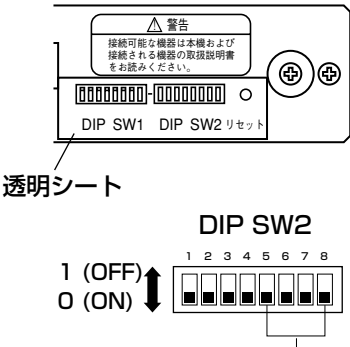


!! 重要 !!

- 接続したケーブルは、マルチリモコンマイクの近くで束ねたり、たるませたりしないでください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

また、本機の端子部制御パネル右側にあるディップスイッチ2 (DIP SW 2) の5~8を接続する台数に合わせて設定する必要があります。

- 1 ディップスイッチの上に貼られている透明シートをはがします。(設定後、貼り直しますので捨てないでください。)
- 2 ディップスイッチを設定します。
- 3 設定後、はがした透明シートを元の位置に貼ります。



マルチリモコンマイク WR-MC100の台数	
台数	設定
なし	5 6 7 8
1台	5 6 7 8
2台	5 6 7 8
3台	5 6 7 8
4台	5 6 7 8
5台	5 6 7 8
6台	5 6 7 8
7台	5 6 7 8
8台	5 6 7 8

!! 重要 !!

- 接続したケーブルは調光器／電動機など、ノイズ源となる機器との配線と束ねたり同一配管しないで下さい。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

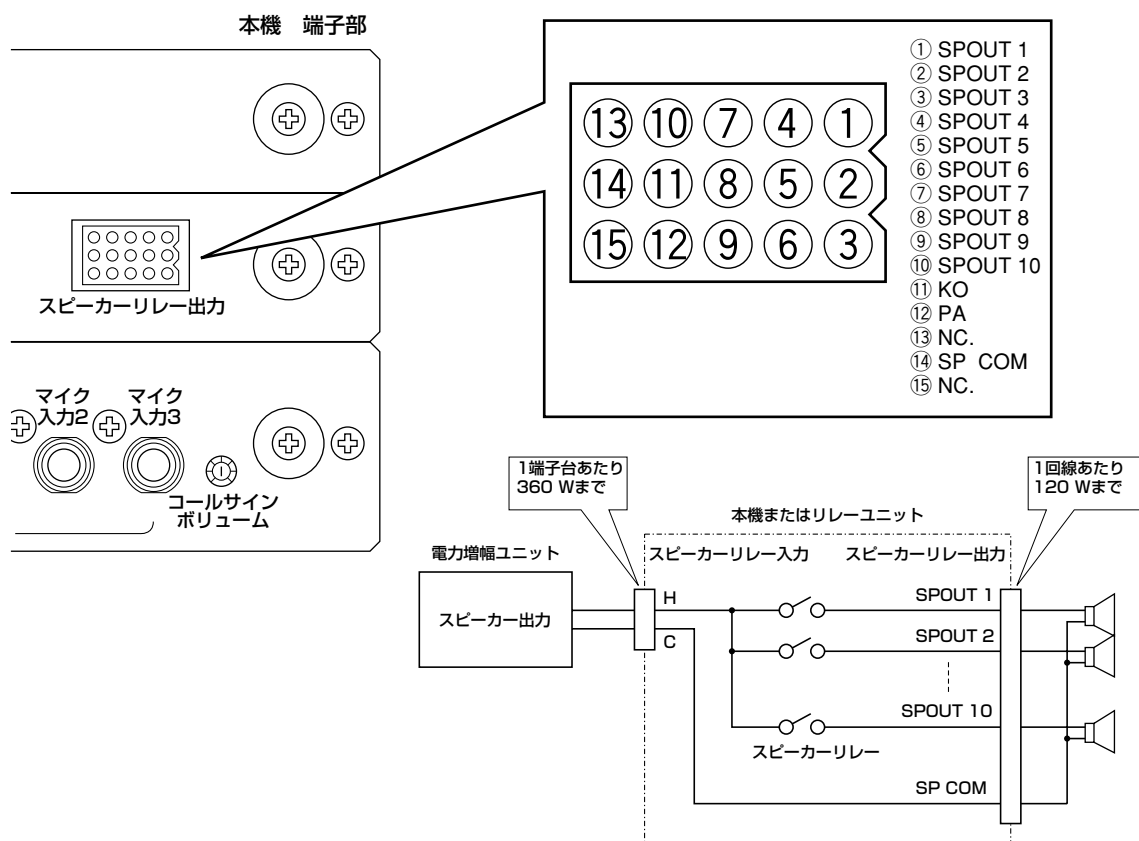
音声放送設備と接続する

本機の音声放送系統①②③はPA OUT1～3の各端子から出力されます。本機には10局スピーカーリレーを内蔵しており、音声放送1系統の設定では外部リレーユニット（WU-R110）の追加なしで10局までの放送先制御が可能です。リレーユニット（WU-R110）は6台まで増設でき、最大70局まで拡張できます。

非常放送設備と接続しない場合には、PA OUT1～3の出力を電力増幅ユニット（WU-P51～53）に入力し、電力増幅ユニットのスピーカー出力を本機のスピーカーリレー入力（端子台）にいったん戻し、本機のスピーカーリレー出力（15Pコネクター）スピーカーを接続します（本ページの接続例参照）。リレーユニットを増設する場合は、46ページをお読み下さい。

非常放送設備と接続しない場合

リレーユニット（WU-R110）、電力増幅ユニット（WU-P51～53）、スピーカーの接続時に使用する本機のスピーカーリレー出力端子の出力コネクターの信号名と最大許容出力は以下のようになっています。



!! 重要 !!

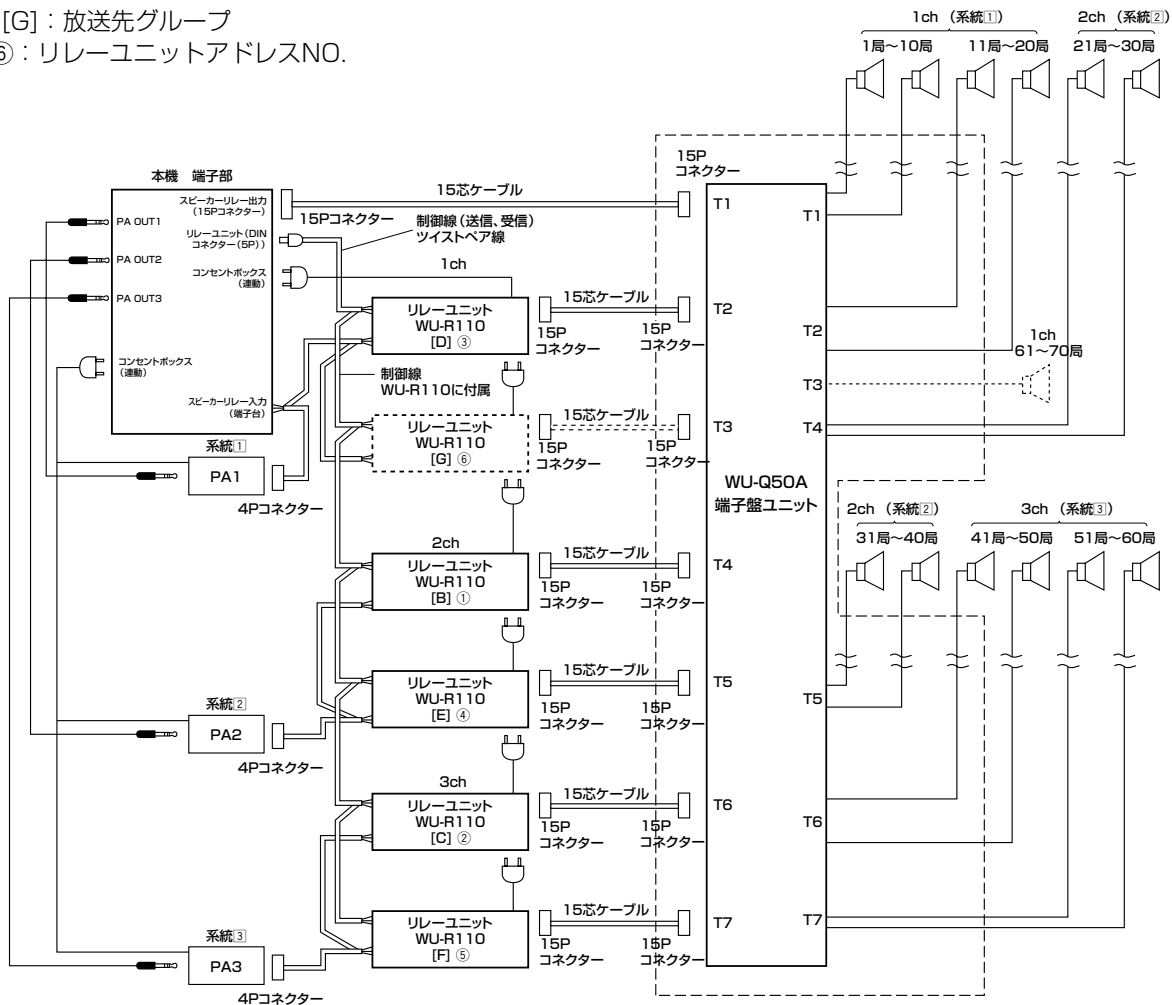
- リレーユニット、電力増幅ユニット、スピーカーの接続では、次のことにご注意ください。
 - ・ 各機器の配線長はユニットを引き出せるくらいの余裕をとってください。
 - ・ 本機端子部のスピーカーリレー入力端子（CとK2間）、およびWU-R110のPA IN端子（CとK2間）に付いているショート金具は外さないでください。
 - ・ WU-R110のアドレス設定（53ページ）と、本機のディップスイッチ設定（54ページ）を忘れずに行ってください。

リレーユニットを増設する

- 電力増幅ユニット（WU-P51～53）
入力ジャック → 本機端子部のPAアウトへ
PA OUT → 系統①のPA OUTはAV-ステーション端子部のスピーカーリレー入力を通り、系統①のリレーユニットWU-R110のPA INを並列接続する。
系統②、③のPA OUTは、各々系統②、③のリレーユニットWU-R110のPA INを並列接続する。
- リレーユニット（WU-R110）
制御端子（送信、受信） → 本機端子部のリレーユニットコネクタ（5P DIN）から、全部のリレーユニットを次々に接続する。
（本機とリレーユニット間はツイストペア線2本、各リレーユニット間はWU-R110の付属ケーブル使用）
スピーカーリレー入力（PA IN） → 電力増幅ユニットPA OUTへ
スピーカーリレー出力（15Pコネクタ） → 端子盤ユニットWU-Q50Aへ

（注）[A]～[G]：放送先グループ
①～⑥：リレーユニットアドレスNO.

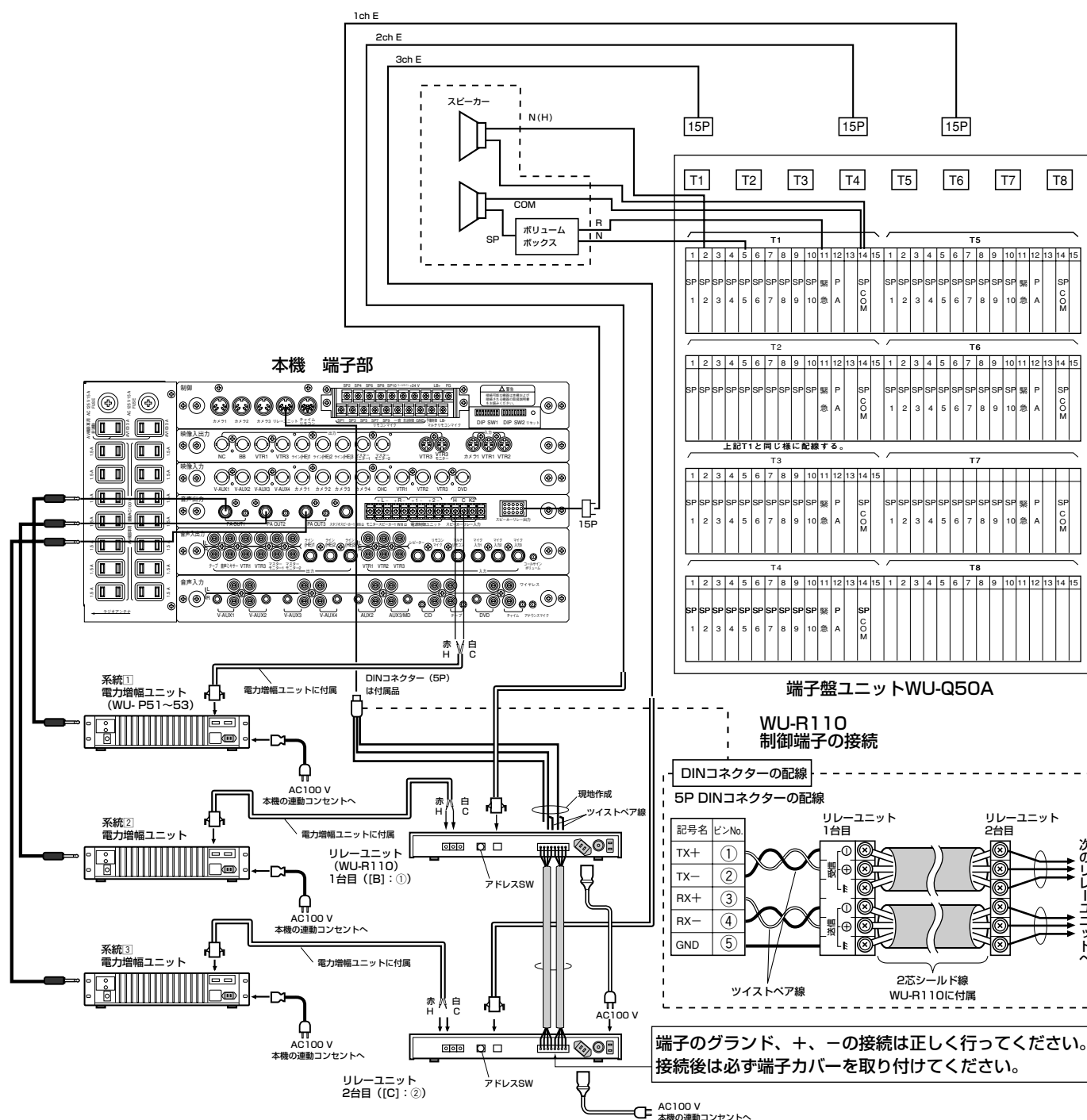
接続



メモ

- 本機の放送先グループ [A]～[G] は、それぞれ以下のように割り当てられます。
 - グループ [A] : 本機内蔵のスピーカーリレー
 - グループ [B] : 外部リレーユニット (WU-R110) ユニットアドレス NO.1
 - グループ [C] : 外部リレーユニット (WU-R110) ユニットアドレス NO.2
 - ⋮
 - グループ [G] : 外部リレーユニット (WU-R110) ユニットアドレス NO.6
- 本機のディップスイッチ (54ページ) で使用するリレーユニットの台数を設定し、各リレーユニットのユニットアドレス (53ページ) を設定する必要があります。

音声放送3系統、リレーユニット2台増設、WU-Q50Aを使用する場合の接続例

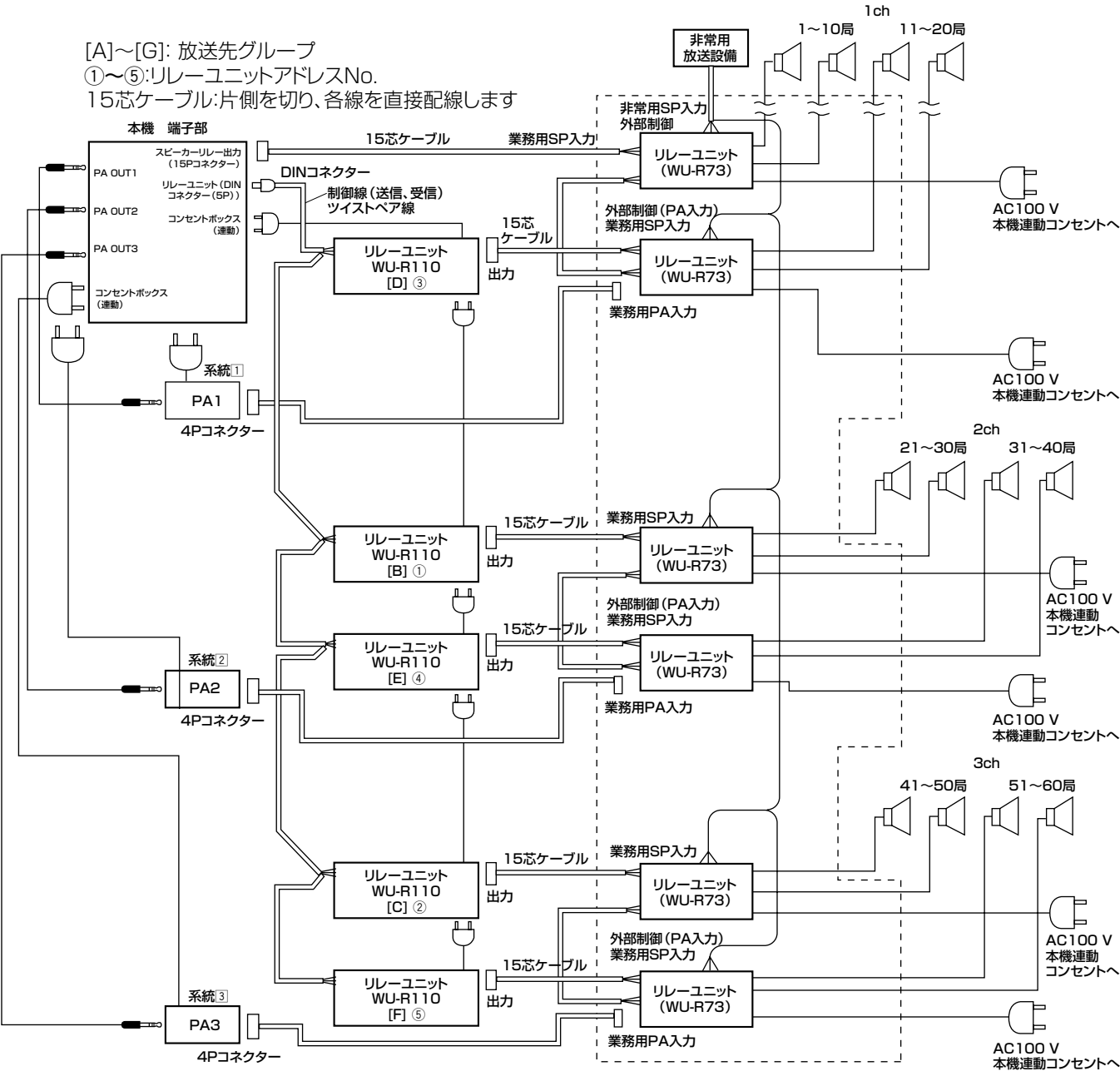


壁掛形非常用放送設備と接続する場合

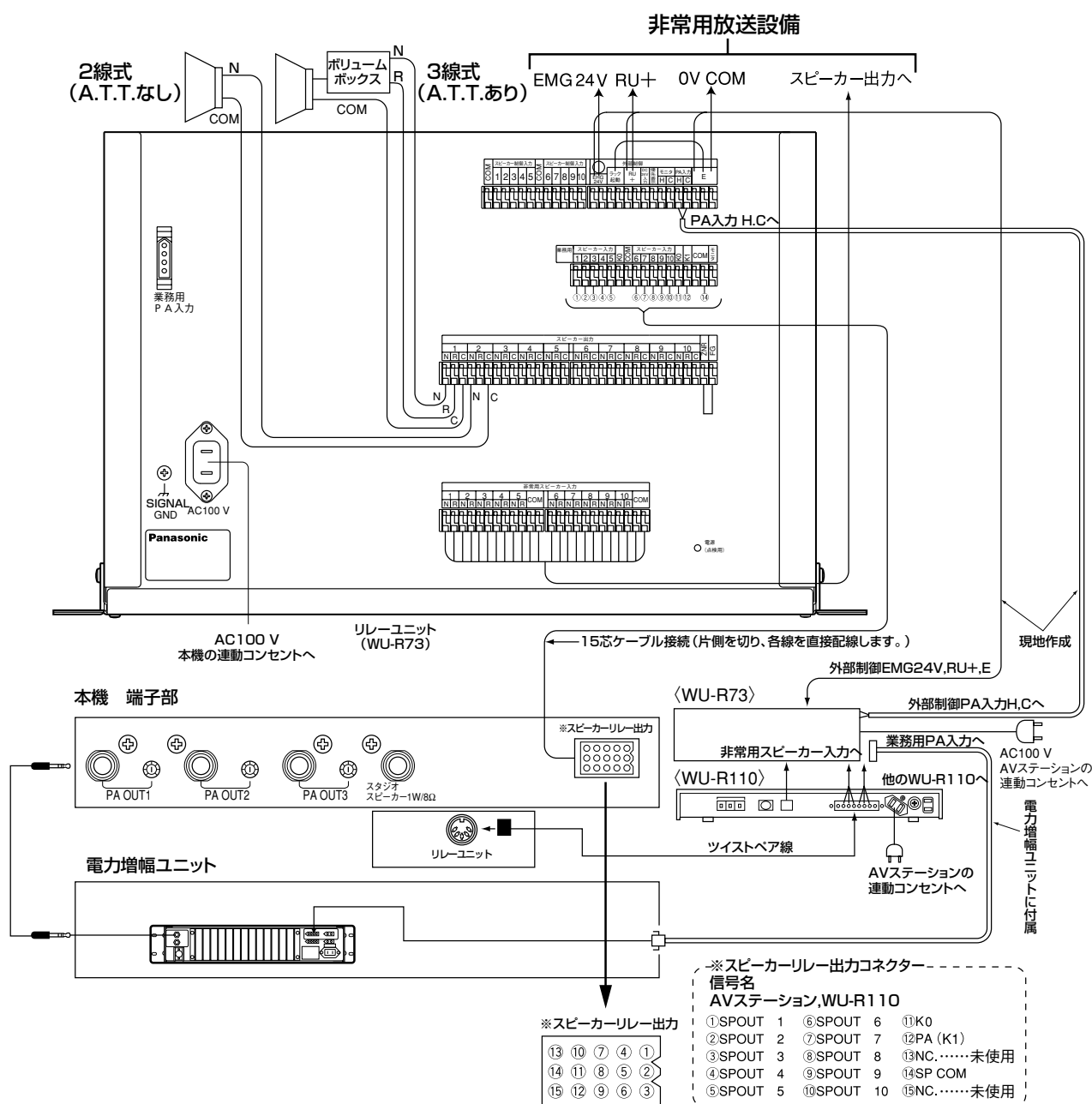
各機器は以下のように接続します。

- 電力増幅ユニット（PA）は壁掛形非常用放送設備、本機の両方に設置します。
- 非常系統、本機の出力は360 Wまでです。
- 電力増幅ユニット（PA）
入力ジャック→本機端子部のPAアウトへ。
PA OUT→WU-R73の業務用PA入力または外部制御PA入力へ。
（本機とWU-R110のスピーカーリレー入力には接続しません。）
- リレーユニット WU-R110
制御端子（送信、受信）→前ページ参照。
スピーカーリレー入力（PA IN）→接続しない
スピーカーリレー出力（15Pコネクター） ..→WU-R73の業務用スピーカー入力へ。

接続



音声放送1系統、リレーユニット増設1台の場合の接続例



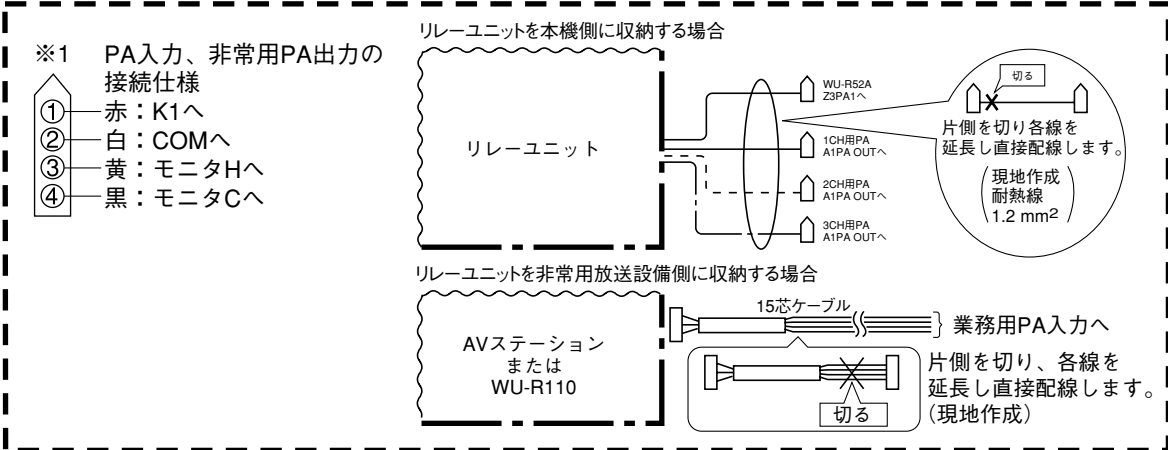
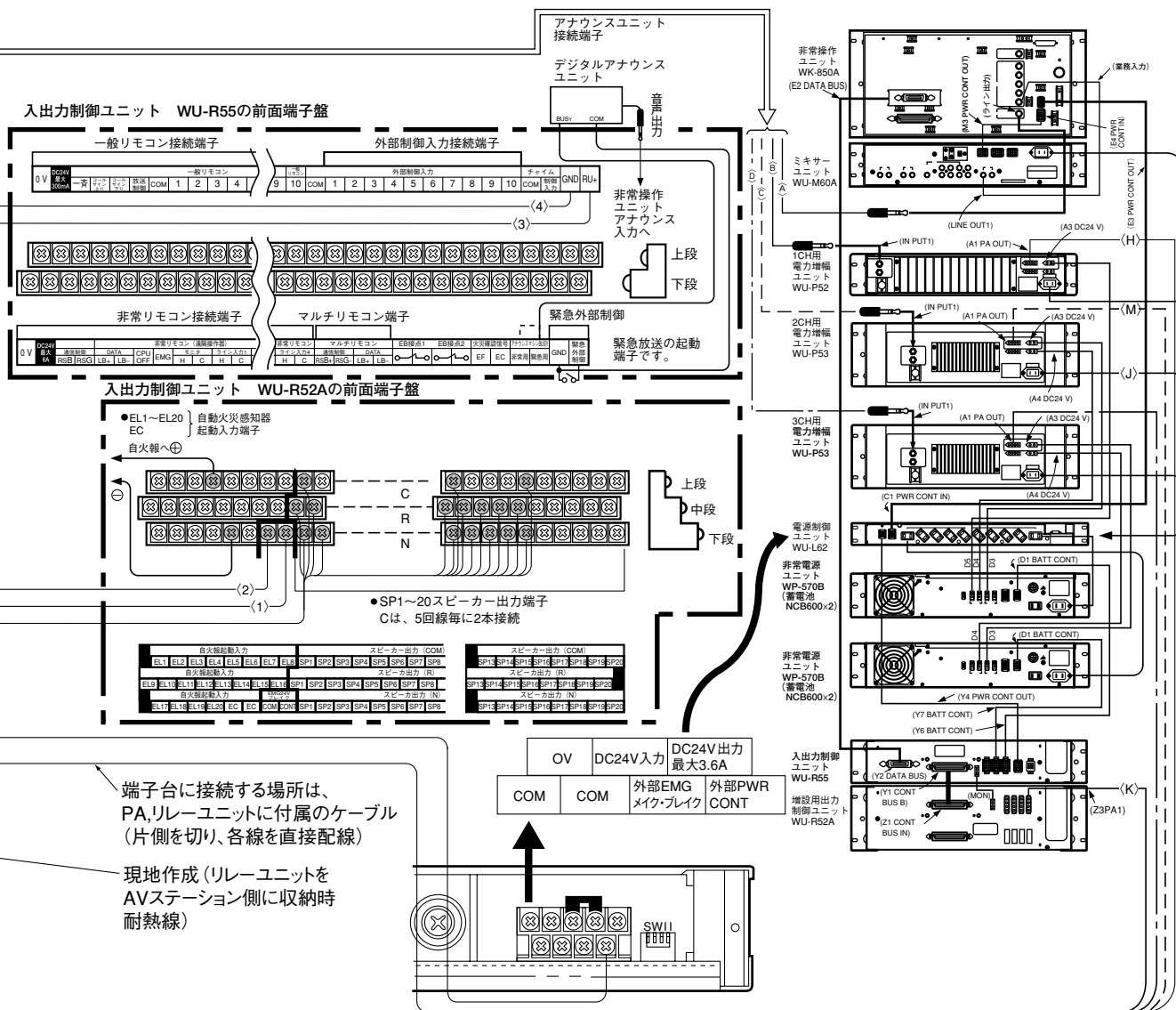
!! 重要 !!

- リレーユニット (WU-R73) 内部基板のCN105を **ラック** 側にします。
出荷時は、**デスク** 側になっています。
- リレーユニット (WU-R73) 外部制御の起動端子とE端子をジャンパー線で接続します。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
- 本機のスピーカーリレー入力端子 (CとK2間)、およびWU-R110のPA IN端子 (CとK2間) に付いているショート金具は外さないでください。
- WU-R110のアドレス設定 (53ページ) と、本機のデイプスイッチ設定 (54ページ) を必ず行ってください。
- リレーユニットを本機に収納する場合は、非常用放送設備との接続に耐熱線 (現地調達) を使用してください。

- 非常系統の出力は1 080 Wまでです（1 chあたり出力は360 Wまでです）
- 一般放送30局、非常放送30局までです。
- 放送室に非常専用のスピーカーが必要です。（放送室の階の系統へ接続）



- リレーユニット（WU-R72）の内部ジャンパーの設定が必要です。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
- 本機端子部のスピーカーリレー入力端子（CとK2間）、およびWU-R110のPA IN端子（CとK2間）に付いているショート金具は外さないでください。
- WU-R110のアドレス設定（53ページ）と本機のディップスイッチ設定（54ページ）を必ず行ってください。
- リレーユニットを本機に収納する場合は、非常用放送設備との接続に、耐熱線（現地作成）を使用してください。
- WU-R110のスピーカーリレー入力（PA IN）は接続しません。
- WU-R110の制御端子（送信・受信）の配線は、45ページをお読みください。

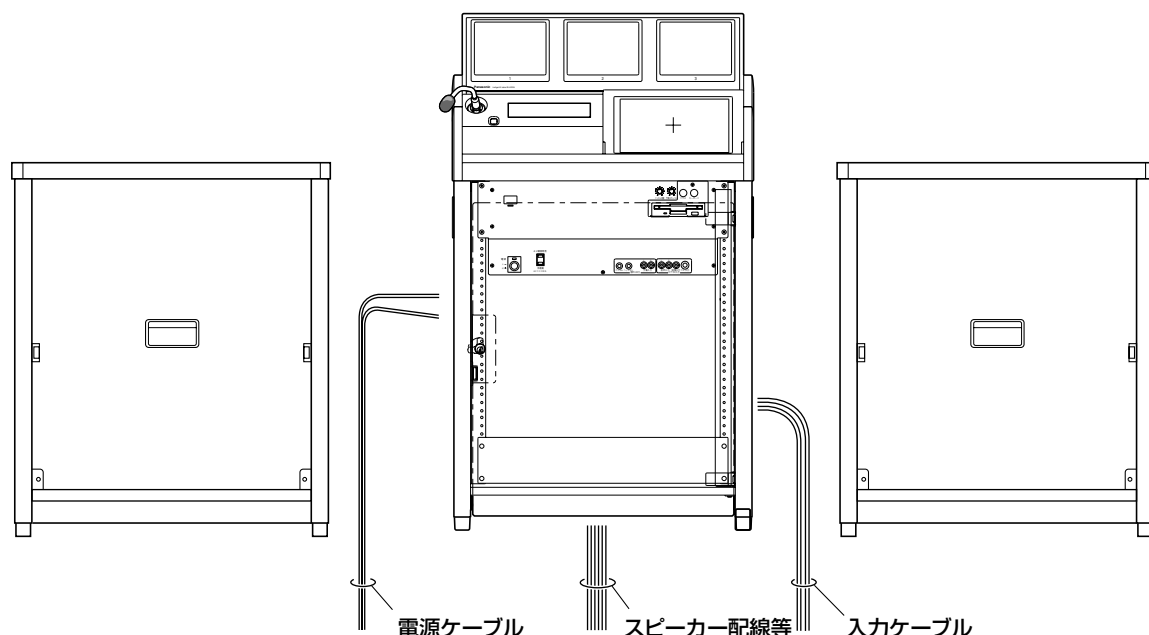


接続後の確認事項

各機器を接続したら、以下に記載する事項を点検、確認してください。

束線時のお願い

- 以下の図のように、電源ケーブル、スピーカーケーブル、入力ケーブルをそれぞれ別々に束線してください。
- 電源ケーブルやスピーカーケーブルと入力ケーブルなどの信号レベルの極端に異なるケーブルを一緒に束線しないでください。
- 束線はある程度余裕をとり、ユニットが前へ引出せる位の長さにしてください。



接続・配線の点検

すべての接続が終了したら、本機の電源を入れる前に再度配線・接続を点検してください。
また、各ユニット間、リモコンマイクやチャイムの接続ミスや配線忘れが無いか確認してください。
本機のディップスイッチ設定（54ページ）を再確認してください。

電源の確認

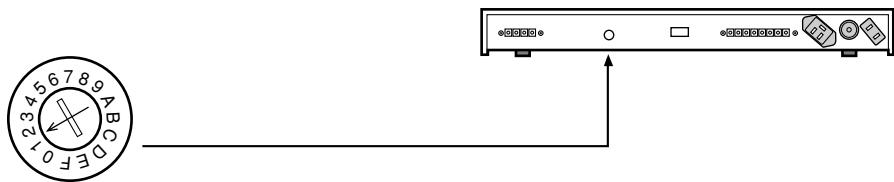
以下の順序で各機器の電源を入れてください。

- 1** 主電源スイッチを「入」にしてヒューズが切れたりしないか確認します。
- 2** テスターでAC電圧を確認してください。
- 3** 各機器の電源を1つずつ入れてください。
異常があれば、すぐにすべての機器の電源を切って、接続を再確認してください。



リレーユニット (WU-R110) のアドレスを設定する

リレーユニット (WU-R110) のアドレスを設定します。アドレスはリレーユニット (WU-R110) の後面のアドレス設定スイッチを回して設定します。



ドライバーで回し、矢印を番号に合わせる。

リレーユニット (WU-R110) は本機のディップスイッチ (SW2-2, 3,4) で設定した数だけ、操作モニターに表示され、動作します。

リレーユニットの音声放送の接続先の割り当てを変更する場合は、本機オフライン機能 (74ページ) で行います。出荷時、アドレスは次のように割り当てられています。

リレーユニット	アドレスNo.	1系統	3系統		
A	本機内蔵分	合計6台70局	ch 1	—	—
B	1		—	ch 2	—
C	2		—	—	ch 3
D	3		ch 1	—	—
E	4		—	ch 2	—
F	5		—	—	ch 3
G	6		ch 1	—	—

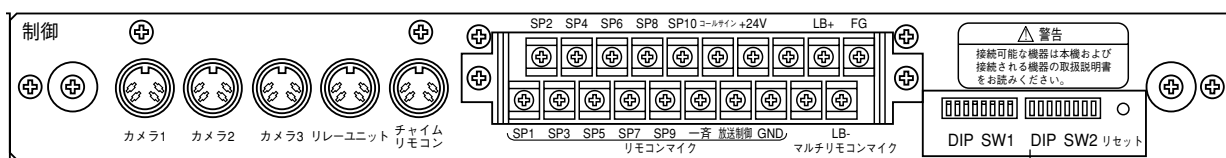
!! 重要 !!

- アドレス設定は1番 (B) から6番 (G) まで、順に間をあげずに設定してください (例：1台のときは1、3台のときは1、2、3とする)。
- 0、7～Fは設定しないでください。
- アドレスの設定、変更は必ず電源プラグを抜いて行ってください。
- 本機端子部の制御パネル右のディップスイッチ (SW2-2,3,4) を、リレーユニット (WU-R110) の台数に合わせて必ず設定してください (54ページ)。

ディップスイッチを設定する

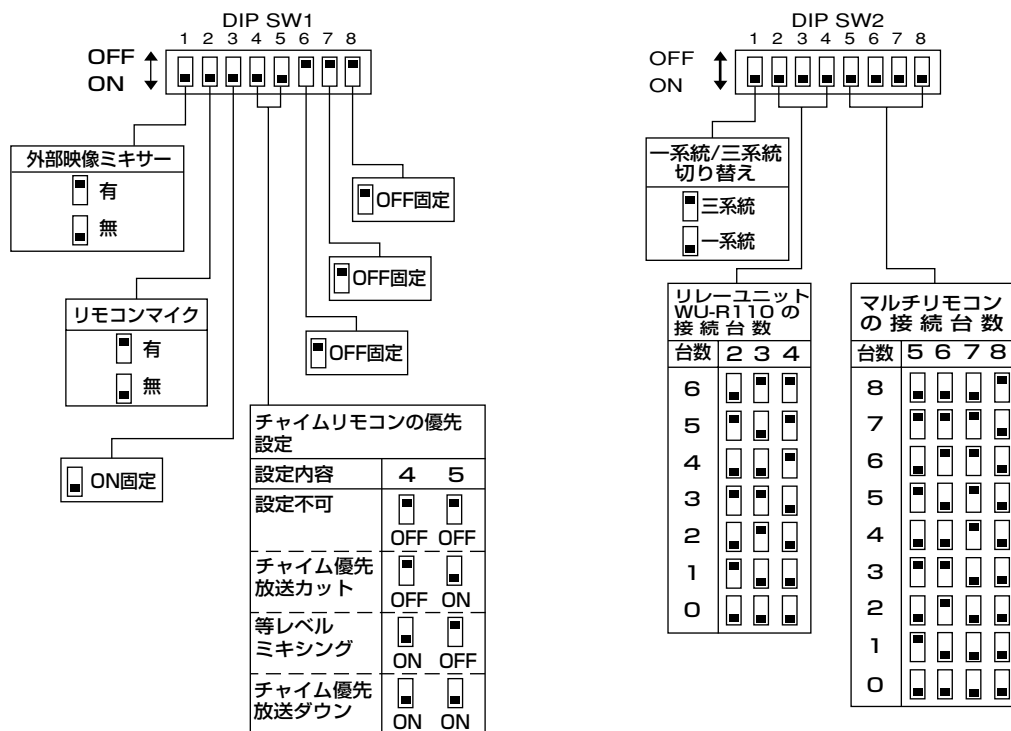
ディップスイッチを設定する

システムの機器構成に従って、端子部の制御パネル右にあるディップスイッチを設定します。

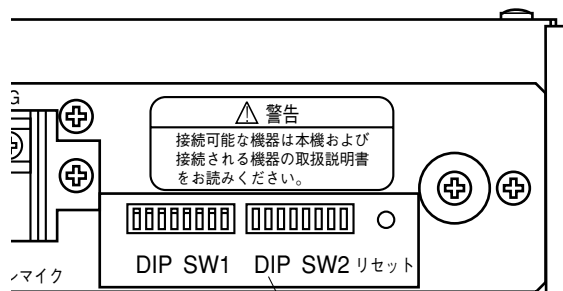


ディップスイッチ

出荷時は以下のように設定されています。



- 1 主電源スイッチが「入」になっている場合は「切」にします。
- 2 ディップスイッチの上に貼られている透明シートをはがします。
- 3 ディップスイッチを設定した後、再び透明シートを元の位置に貼ります。(再度貼付可能です。)



透明シート

// 重要 //

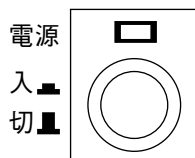
- ディップスイッチ設定変更後は必ず初期化の操作（55ページ）をしてください。
- チャ임リモコンのディップスイッチ設定（SW1 - 4, 5）の際は、42ページの「重要」をあわせてご覧ください。
- リモコンマイクはディップスイッチのOFF側で有効となります。
- 映像ミキサー「有」に設定する場合は、ミキサー接続端子部のスライドスイッチも「有」に設定する必要があります（40ページ）。

データを初期化する

本機端子部のディップスイッチを出荷時の状態から変更（前ページ）したら、次の操作を行い初期化を行ってください。主電源が切れている状態でディップスイッチの設定をします。

1 主電源スイッチを「入」にします。

→セットアップ完了後、操作モニターにメッセージが表示され、スタンバイ状態になります。

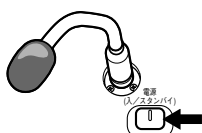


メモ

- セットアップには約1分かかります。
- セットアップ中は操作パネルの電源スイッチのランプが点滅し、音声（映像）パターンスイッチのランプが順番に点灯します。セットアップが完了すると、操作モニターと操作パネルの全てのランプが消灯します。

2 スタンバイ状態になったら、登録スイッチ→スタジオ連絡スイッチ→ラストワンメモリースwitchの順に押します。

登録スイッチを押したときにスイッチのランプが点灯しなかった場合は、再度登録スイッチを押してください。



②



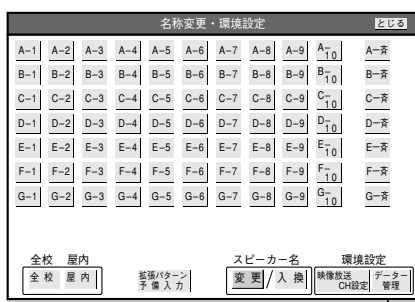
③



①

3 操作パネルの電源スイッチを「入」にします。

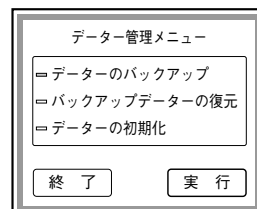
→名称変更・環境設定画面が開きます。



4 [データ管理] ボタンを押します。

5 [データ管理] ボタンを押します。

→確認画面が表示されます。



6 [初期化] ボタンを押します。

→初期化が終了します。

データの初期化終了後、引き続き制御部の初期化を行います。

7 主電源スイッチを「切」にし、数秒間待って入れ直します。

8 スタンバイ状態になったら、登録スイッチ→スタジオ連絡スイッチ→一斉放送スイッチの順に押します。

→操作パネルのランプがすべて点灯後、消灯します。パターンスイッチが順番に点灯し、少し待つとすべてのパターンスイッチが消灯したままになります（初期化完了）。

9 主電源スイッチを「切」にし、数秒間待って入れ直します。

10 セットアップ完了後、数秒間待って操作パネルの電源スイッチを「入」にします。

11 取扱説明書のパターン操作のしかた（18～31ページ）を参照して、音声パターンと映像パターンの内容を確認します。操作画面が取扱説明書どおりになっていれば完了です。

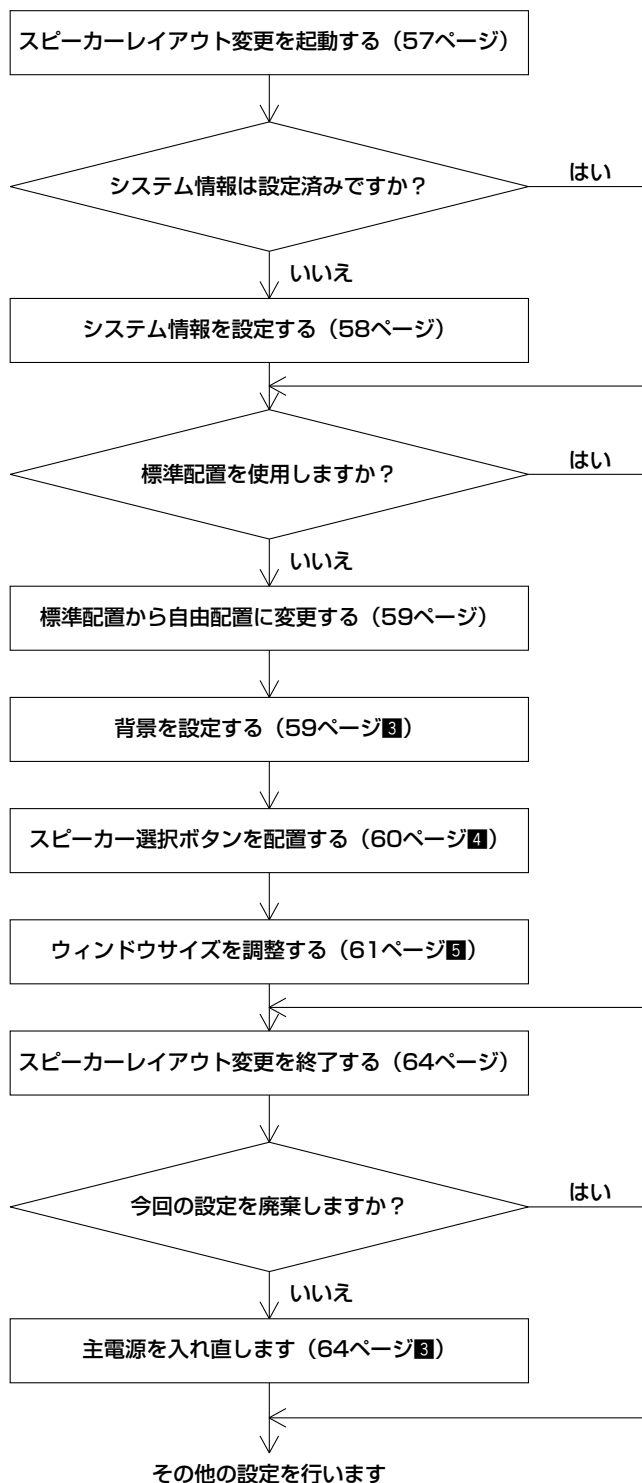
!! 重要 !!

- この初期化操作を行わないと、取扱説明書と操作画面の内容が合わなくなりますので必ず実施してください（ディップスイッチの変更は、54ページ参照）。
- 増設時などに既設のディップスイッチを変更し、本初期化を行う場合、音声・映像パターンで設定している内容はすべて消去されますので再設定してください。

放送先選択画面を編集する

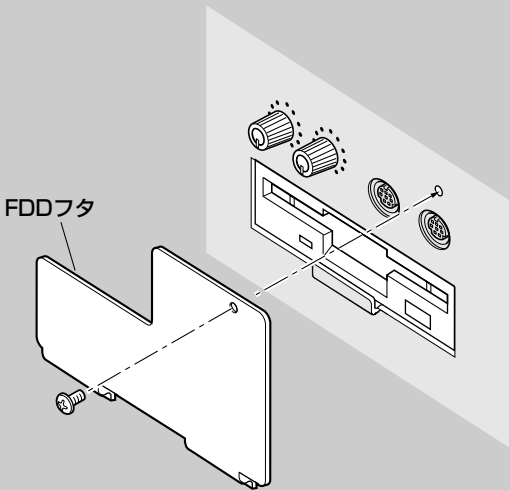
放送先選択画面の編集手順

音声放送の「えらぶ」ボタンで表示する放送先選択画面のボタン配置などを編集します。以下の手順で行ってください。



スピーカーレイアウト変更を起動する

- !! 重要 !!**
- 主電源を入れる前にマウス（別売品）とキーボード（別売品）を本機前面予備入力パネル部のそれぞれのコネクタに接続しておく必要があります。。
 - マウスとキーボードを接続するコネクタは予備入力パネルのFDDフタを外して使用します。



- 1

主電源スイッチを「入」にします。
→システムが起動します。
- 2

システムが起動すると、操作モニターの表示が消え、スタンバイ状態になります。表示が消えてから数秒後に、操作パネルの電源スイッチを「入」にします。
- 3

マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[小物] メニューの [スピーカーレイアウト変更] を左クリックで選択します。

メモ
ポップアップメニューの内容はシステムの状態により変化しますので、この画面どおりに表示されない場合があります。

表示
ウィンドウ
小物

スピーカーレイアウト変更
マニュアル参照
ディスク集め
原紙集め
FD複製
タッチパネル調整
HDインストーラ

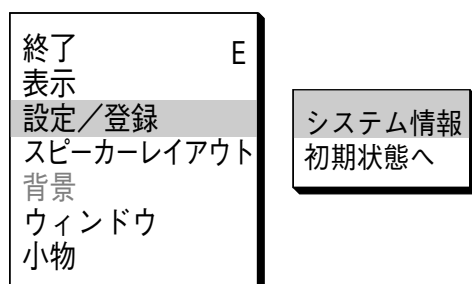
→スピーカー選択ボタンの標準配置画面が開き、スピーカー選択ボタン配置が表示されます（すでに設定されたものがあるときは、その配置が表示されます）。

標準配置												
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	—	A-斉	
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	—	B-斉	
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	—	C-斉	
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	—	D-斉	
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	—	E-斉	
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F-10	—	F-斉	
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G-10	—	G-斉	

システム情報を設定する

システム情報には音声放送1系統／3系統、リレーユニットの接続台数の設定があります。必ずシステムに合わせて設定してください。

- 1 マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[設定/登録]メニューの[システム情報]を左クリックで選択します。



→システム情報の設定画面が表示されます。

出荷時は上記の設定になっています。次回の起動時、設定した値が初期値として表示されます。

- 2 以下の項目を設定します。

- 音声1系統／3系統切り替え
- オプションリレーユニットの台数
- リレーユニットの割当（1系統のときは設定できません）
選択するとインジケーターが点灯します。

!!重要!!

- これらの項目は「ディップスイッチの設定」と「オフラインモードのリレー接続先の設定」での設定内容と一致させる必要があります。

- 3 設定が終わったら[設定]ボタンを押します。
→確認画面が表示されます。

- 4 いずれかを選択します。

取り消し : 確認画面を閉じ、システム情報の設定に戻ります。

廃棄して終了: 今回の設定を無効にしてシステム情報の設定を終了します。

保存して終了: 今回の設定を保存してシステム情報の設定を終了します。

→ [保存して終了] ボタンをクリックした場合、設定した内容に従って標準配置されます。

標準配置															
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	—	A-11	A-12	A-13	A-14	A-15
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	—	B-11	B-12	B-13	B-14	B-15
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	—	C-11	C-12	C-13	C-14	C-15
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	—	D-11	D-12	D-13	D-14	D-15

例：1系統でオプションリレーユニットの台数を3に設定した場合

!!重要!!

- すでに自由配置で設定されたものがある場合、その内容は削除され、保存した内容に従って標準配置されます。

標準配置から自由配置に変更する

音声放送画面「どこへ」の「えらぶ」ボタンを押したときに表示される画面のスピーカーレイアウトを変更します。スピーカーレイアウトには「標準配置」と「自由配置」があります。

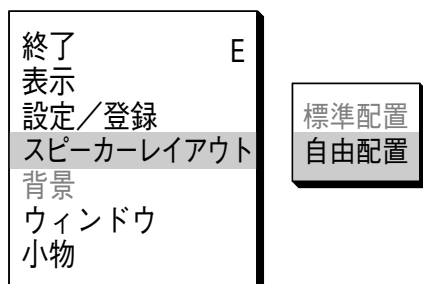
標準配置：スピーカー選択ボタンが行と列に整然と並びます。

自由配置：建物内の実際の配置に合わせたスピーカー配置で表示することができます。またあらかじめ作成した背景図を貼り込めば、より実際に近いレイアウトにすることができます。

これらのレイアウトについては導入する学校などの要望を聞いて決めてください。

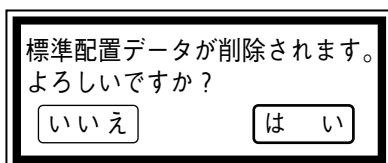
現在の状態が標準配置で自由配置に変更する場合、以下の操作を行います。

- 1 マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[スピーカーレイアウト] メニューの「自由配置」を左クリックで選択します。



→すでに標準配置で設定されたものを起動しているときは確認画面が表示されます。

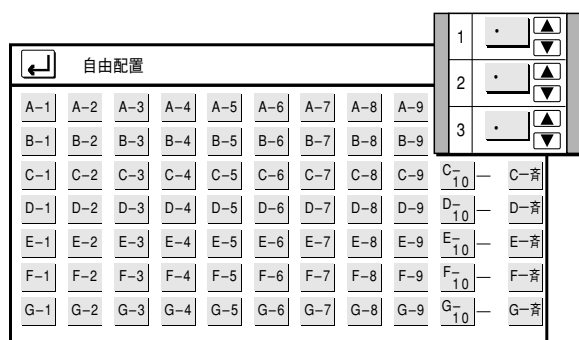
- 2 どちらかを選択します。



はい : 標準配置の設定内容を削除し、自由配置の設定画面が表示されます。

いいえ : 何もせずに確認画面を閉じます。

→ [はい] ボタンをクリックした場合、標準配置画面が閉じ、自由配置画面が表示されます。



- スイッチの配置を表示する画面が自由配置画面として表示されます。
- スイッチを選択するスイッチ選択画面がサブ画面として表示されます。
- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。

!!重要!!

- システム情報設定 (58ページ) で1系統が設定されているときスイッチ選択画面の2、3は動作しません。

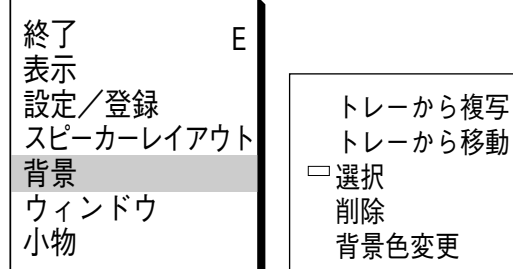
- 3 背景を設定します。

背景の作成

自由配置で使用する背景は、基本エディタの「基本図形編集」で作成した図形を使用します。図形の作り方は、電子マニュアル (89ページ) の「自由配置の背景の作り方」や「基本図形編集」をご覧ください。

ただし、背景図形のデータサイズが64Kバイトを超える場合はイメージデータのみが使用可能です。

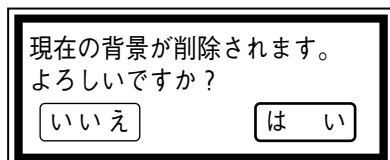
作成した背景図形を背景として設定するには、マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[背景] メニューから各項目を左クリックで選択します。



放送先選択画面を編集する（つづき）

背景の貼り込み

作成した図形はドラッグもしくはトレー経由で自由配置画面に貼り込みます。画面の左上を原点とし、スピーカー選択ボタンの図形の背景に表示されます。すでに背景がある場合、背景を貼り込むと確認画面が表示されますので、「はい」または「いいえ」を選択してください。



はい : 背景を削除し、確認画面を閉じます。
いいえ : 何もせずに確認画面を閉じます。

// 重要 //

- データサイズが大きすぎたり、ウィンドウより大きな背景は貼り込むことができません。

背景の移動

背景の位置を変更したいときは、背景を画面内で移動させます。背景が設定されている状態で「背景」メニューの「選択」を選択すると、背景の矩形がちらつき枠で示されます。ちらつき枠内部で左ボタンを押しながらマウスをドラッグ移動します。

- ドラッグ移動中に自由配置画面の外で左ボタンをリリースするとドラッグ移動は無視されます。
- 背景が選択されている状態でちらつき枠外部で左ボタンをクリックすると選択状態は解除されます。
- 画面からはみ出した位置への移動はできません。

背景の削除

背景を削除したいときは、背景が選択されている状態で「背景」メニューの「削除」を選択します。

背景色の変更

背景色（背景の地の色）を設定する場合は「背景」メニューの「背景色変更」を選択します。色設定のパネルが表示されますので、設定する色と濃さをクリックにより選択し、「設定」ボタンをクリックします。



4

スピーカー選択ボタンを配置します。

自由配置画面にスピーカー選択ボタンを配置していきます。

自由配置画面／スイッチ選択画面（サブ画面）の上にスピーカー選択ボタンをドラッグして移動／貼り込みします。あらかじめ、使用していないスピーカー選択ボタンは先に削除しておくことをおすすめします。

メモ

- スピーカー選択ボタンは系統ごとに色分けされています。

ボタンの削除

自由配置画面上のスピーカー選択ボタン選択後、キーボードの「Delete」キーを押して、そのスピーカー選択ボタンを削除します。削除されたスピーカー選択ボタンは自動的にスイッチ選択画面（サブ画面）内に移動されます。3系統のときはスピーカー選択ボタンのアドレスにより自動的に1から3系統を認識します。

ボタンの選択

自由配置画面またはスイッチ選択画面（サブ画面）上のスピーカー選択ボタンをクリックすることでそのスピーカー選択ボタンを選択します。

ボタンの移動

自由配置画面上のスピーカー選択ボタンをドラッグで移動し、自由配置画面上でリリースすると、移動が確定します。現在の自由配置画面からはみ出した位置への移動はできません。

ボタン貼り込み

スイッチ選択画面（サブ画面）上の三角形をクリックするたびにスピーカー選択ボタンのアドレスがアップ／ダウンします。貼り込みたいアドレスのスピーカー選択ボタンをドラッグで移動し、自由配置画面上でリリースすると、貼り込みが確定します。ただし、使用するスピーカー選択ボタンのアドレスがすべて自由配置画面上にある場合、貼り込みできません。

!!重要!!

- スピーカー選択ボタンの移動／貼り込みで、スピーカー選択ボタンが重なり合うことはできません。
- スピーカー選択ボタンの配置後、背景を貼り込むと、1番下に貼り込まれます。

メモ

- スピーカー選択ボタンをきれいに整列したいときは

〔表示〕メニューの〔格子点拘束〕を選択すると、以降のスピーカー選択ボタンの配置を格子点で拘束することができます。そのため、スピーカー選択ボタンを整然と配置することができます。自由配置の編集集中のみ有効で、4ドット間隔の格子点です。

5

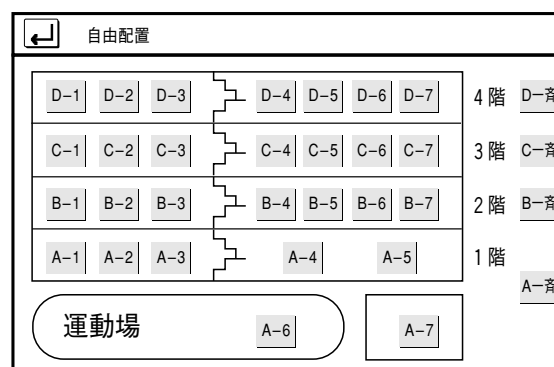
自由配置画面をスピーカー選択ボタン数に応じた見やすいウィンドウサイズに変更します。画面右下部分をドラックして、ウィンドウサイズを変更します。

このとき変更可能な範囲は以下の通りです。

最大：横幅：画面サイズ

縦幅：画面サイズの上から5/6位まで

最小：スピーカー選択ボタンがはみ出さないサイズ。横幅は標準配置でスピーカー選択ボタン約4個分以下にはなりません。

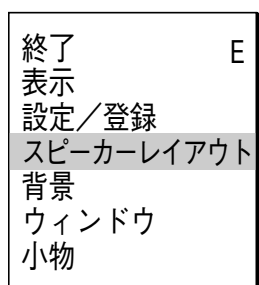


<自由配置の一例>

自由配置から標準配置へ変更する

現在の状態が自由配置で標準配置に変更する場合、以下の操作を行います。

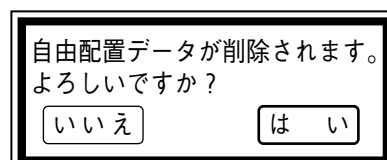
- 1** マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[スピーカーレイアウト]メニューの[標準配置]を左クリックで選択します。



標準配置
自由配置

→すでに自由配置で設定されたものを、再び起動しているときは確認画面が表示されます。

- 2** どちらかを選択します。



はい : 自由配置の設定内容を削除し、標準配置画面が表示されます。

いいえ : 何もせずに確認画面を閉じます。

→ [はい] ボタンをクリックした場合、自由配置画面が閉じ、標準配置画面が表示されます。

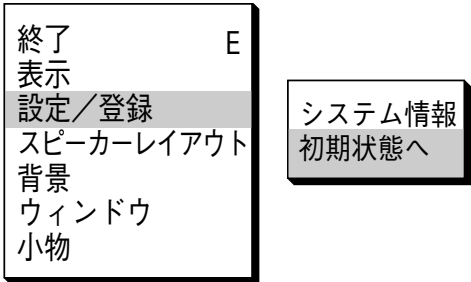
標準配置												
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	—	A-斉	
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	—	B-斉	
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	—	C-斉	
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	—	D-斉	
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	—	E-斉	
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F-10	—	F-斉	
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G-10	—	G-斉	

- 画面にマトリクス状の配置で表示されます。
- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。

初期状態に戻す

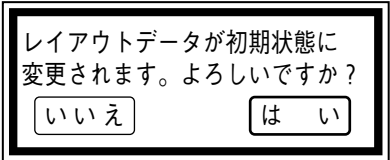
スピーカー選択ボタンの配置を出荷時の状態に戻します。

- 1
- マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[設定／登録]メニューの[初期状態へ]を左クリックで選択します。



→確認画面が表示されます。

- 2
- 「はい」または「いいえ」を選択します。



はい : 設定されている内容を削除し、出荷時のスピーカー選択ボタンの配置に戻します。

いいえ : 何もせずに確認画面を閉じます。

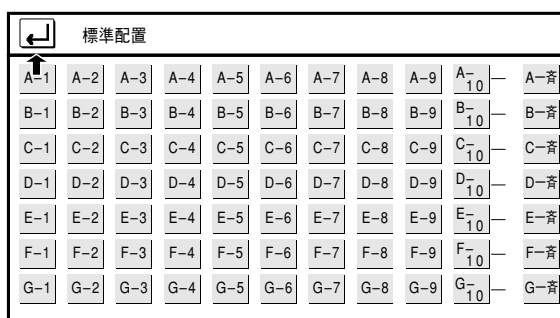
→ [はい] ボタンをクリックした場合、出荷時のスピーカー選択ボタンの配置が表示されます。

標準配置													
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	A-10	A-10	A-10	A-10
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-10	B-10	B-10	B-10
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	C-10	C-10	C-10	C-10
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	D-10	D-10	D-10	D-10
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	E-10	E-10	E-10	E-10
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F-10	F-10	F-10	F-10	F-10
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G-10	G-10	G-10	G-10	G-10

スピーカーレイアウト変更を終了する

1

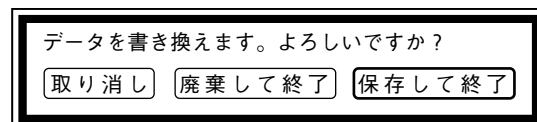
自由配置画面または標準配置画面の左上にある【↶】ボタンをクリックします。



→システム情報、自由または標準配置、背景色に変更があれば、確認画面が表示されます。

2

いずれかを選択します。



取り消し : 確認画面を閉じ、自由配置または標準配置の設定に戻ります。

廃棄して終了 : 今回の設定を無効にして自由配置または標準配置の設定を終了します。

保存して終了 : 今回の設定を保存にして自由配置または標準配置の設定を終了します。

3

主電源スイッチを「切」にし、数秒待って入れ直します。

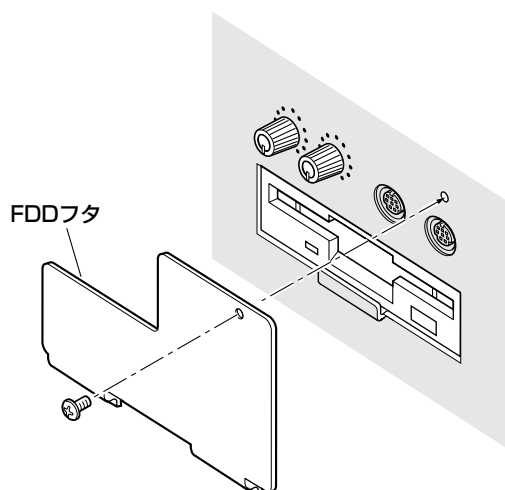
保存したデータがシステムに反映されます。

!!重要!!

- スピーカーレイアウト変更の実行中は、電源スイッチや音声・映像パターンスイッチなどの操作モニター（マウス、キーボード）以外の操作は行わないでください。誤動作を起こす可能性があります。

メモ

- マウス、キーボードを外す場合は、主電源スイッチを「切」にして外し、取付ねじ（1本）で FDDフタを取り付けてください。
- 名称変更・環境設定（65ページ）とデータのバックアップ（79ページ）にはキーボードが必要です。



スピーカー選択ボタンの名称変更・環境設定

クラス替えなどでスピーカー選択ボタンの名前の変更や入れ替えを行いたい場合に操作します。

次のボタンの名前表示を変更できます。

- スピーカー選択ボタン
- 音声・映像拡張パターン選択ボタン
- 音声・映像予備入力

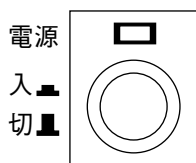
// 重要 //

- 主電源を入れる前にキーボードを接続しておく必要があります。
- 本画面の操作中は、以降の説明で指示された場合を除き、操作モニター以外（電源スイッチや音声・映像パターンスイッチなど）は操作しないでください。誤動作を起こす可能性があります。

名称変更・環境設定を起動する

1

主電源スイッチが「入」ならスイッチを押し「切」状態にします。



2

予備入力パネルにキーボードを接続し操作可能な状態にします。

キーボード接続については、57ページをお読みください。

3

主電源スイッチを「入」にし、システムを起動します。

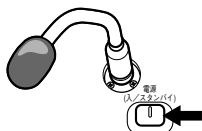
→起動すると、操作モニターの画面が消えスタンバイ状態になります。

4

以下のスイッチを順番に押します。

登録スイッチ（ランプの点灯を確認）→スタジオ連絡スイッチ→ラストワンメモリースイッチ→電源スイッチ

登録スイッチのランプが点灯しない場合は、再度、登録スイッチを押してください（スタジオ連絡、ラストワンメモリースイッチは押しても点灯しません）。



②

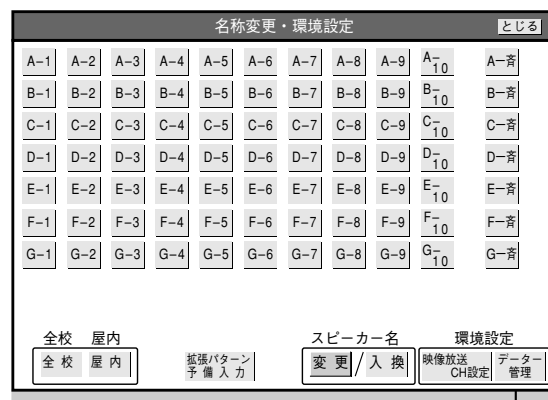


③



①

→名称変更・環境設定画面が表示されます。
(スピーカー表示の数はオプションのリレーユニットによって変化します。またレイアウトによってすでに設定された機器がある場合はその配置で表示されます。)

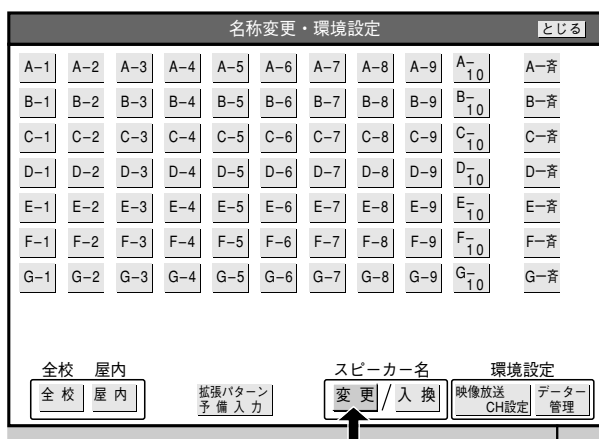


この画面では以下の設定が行えます。

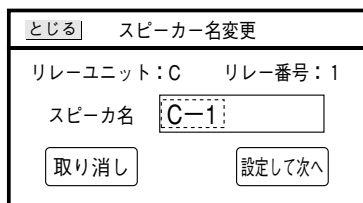
- 名前変更 : 全角1～6文字までの範囲 (66ページ) で名前が変更できます。
- 名前入れ替え : 指定した2箇所の名前を (67ページ) 入れ替えます。
- 拡張パターン予備入力 (68ページ) : 拡張パターン選択ボタンと予備入力の名前を変更できます。
- 映像放送CH設定 : 映像放送チャンネル表示 (71ページ) の設定ができます。
- データ管理 : 各種データのバックアップ・復元・初期化を行う (79ページ) ことができます。

スピーカー選択ボタンの名称を変更する

- 1** 名称変更・環境設定画面を表示し（65ページ）、[変更] ボタンが緑色になっていない場合は[変更] ボタンを押し緑色にします。次に名前を変更したいスピーカー選択ボタンを押します。

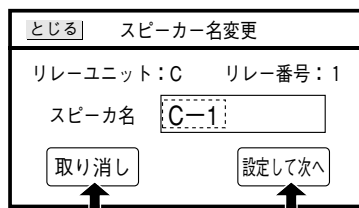


→押したスピーカー選択ボタンが緑色に変わり、スピーカー名変更画面が表示され、名前が変更できる状態になります。



- 2** キーボードを使って文字を入力します。
- 全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力することができます。
 - 全角文字で3または6文字すべて入力しないときは、スペースキーで文字の位置を調整します。

- 3** 文字入力後、内容を確認してスピーカー名変更画面の[設定して次へ] ボタンまたは[取り消し] ボタンを押します。



設定して次へ：自動的に入力した名前を登録し、次の放送場所の名前入力状態になります。

移動方向：[A-1] → [A-2]
→ … [A-8] →
[B-1] …

取り消し：名前を元に戻して、名前入力状態を継続します。

- 4** 手順**1**～**3**を繰り返して、他のスピーカー選択ボタンの名称を入力します。

- 5** 変更が終了したら、スピーカー名変更画面の[とじる] ボタンを押します。

→名称変更・環境設定画面に戻ります。

!!重要!!

- 本機の文字入力、ローマ字かな変換方式です。
- かなを直接入力することはできません。
- 文字はすべて全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（89ページ）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

スピーカー選択ボタンの名称を入れ替える

- 1** 名称変更・環境設定画面を表示し（65ページ）、[入換] ボタンを押し緑色にします。
[入換] ボタンが緑色になったら、名前の入れ替え元と入れ替え先のスピーカー選択ボタンを押します。

名称変更・環境設定											とじる
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	A-斉	
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-斉	
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	C-斉	
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	D-斉	
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	E-斉	
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F-10	F-斉	
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G-10	G-斉	

全校	屋内	拡張パターン 予備入力		スピーカー名 変更 / 入換	環境設定 映像放送 CH設定		データ 管理
----	----	----------------	--	-------------------	----------------------	--	-----------

→押したスピーカー選択ボタンが緑に変わり、
スピーカー名入れ換え画面が表示され、名
前が入れ替えできる状態になります。

スピーカー名入れ換え	
入れ換え元	C-1
入れ換え先	D-1
取り消し	設定

- 2** 内容を確認して[設定] ボタンまたは[取り消し] ボタンを押します。

設定：入れ替え元と入れ替え先が入れ替わり、
スピーカー名入れ換え画面が消えます。
そして次の放送場所の入れ替え状態に
なります。

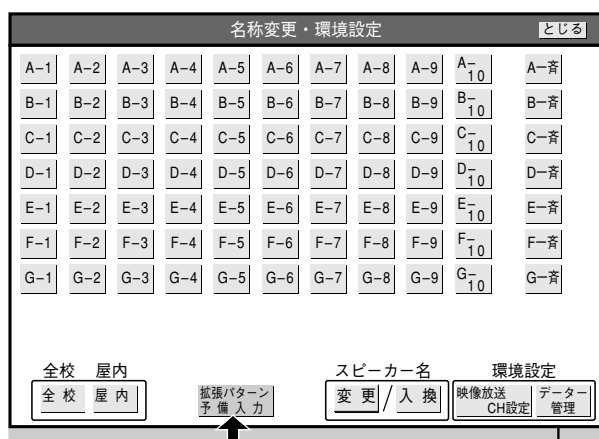
取り消し：入れ替えられずに、スピーカー名
入れ換え画面が閉じ、名称変更・
環境設定画面に戻ります。

- 3** 継続して行う場合は手順**1**～**2**を繰り返します。

拡張パターン・予備入力のパターン名称を変更する

本機はあらかじめ放送や録音、録画の操作を音声・映像各37個（標準7個、拡張30個）の音声（映像）パターンスイッチに登録しておく、音声（映像）パターンスイッチを押すことでその内容呼び出して動作することができます。音声（映像）拡張パターンは、操作モニターで選択できます。名称変更・環境設定画面では、操作モニターに表示する拡張パターンの名称を変更することができます。

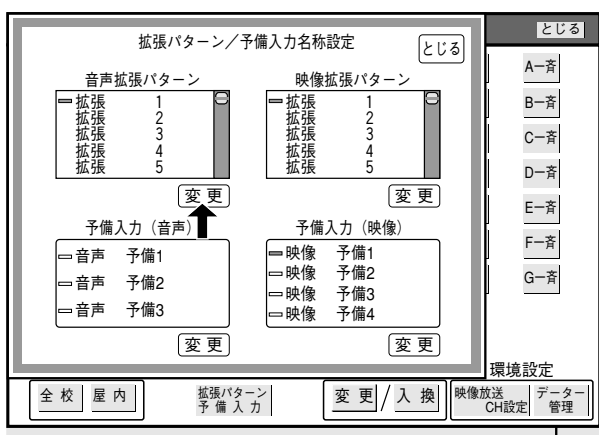
- 1 名称変更・環境設定画面を表示し（65ページ）、名称変更・環境設定画面で「拡張パターン 予備入力」ボタンを押します。



→拡張パターン／予備入力名称設定画面が表示されます。

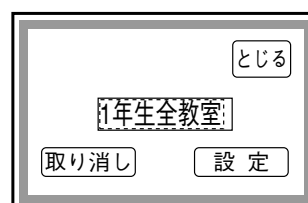
- 2 「音声拡張パターン」欄には、現在設定されている音声拡張パターンの名称が一覧表示されます。名称変更したいパターンを選択して、「変更」ボタンを押します。

変更したい名称が表示されていない場合は、スクロールバーを操作して表示させてください。



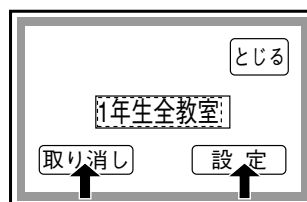
→名称入力画面が表示されます。

- 3 新しい名称をキーボードから入力します。



- 全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力する事ができます。
- 全角文字で3または6文字すべて入力しない時は、スペースキーで文字の位置を調整します。

- 4 入力したら「設定」ボタンまたは「取り消し」ボタンを押します。



設定：自動的に入力した名称を登録し、次のパターンの名称入力状態になります。
取り消し：現在入力中の名称を元に戻して、名称入力状態を継続します。

- 5 手順3～4を繰り返して他のパターンの名称を入力します。

- 6 変更が終了したら【とじる】ボタンを押します。

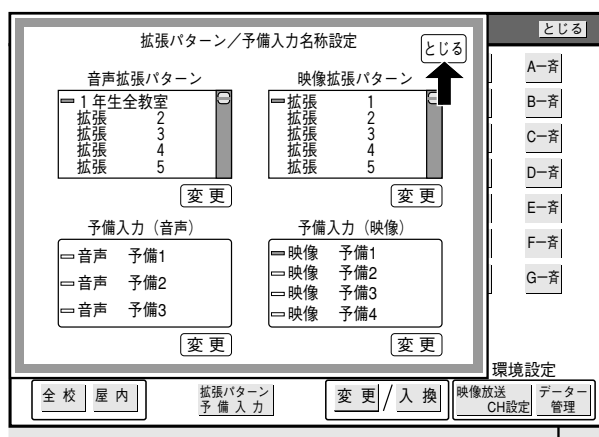
→名称入力画面が閉じ、拡張パターン／予備入力名称設定画面に戻ります。

7

手順1～6と同様の操作を行い、拡張映像パターン・予備入力（音声）・予備入力（映像）のうち必要なものの名称変更を順次行います。

8

すべてのパターンの名称変更が終了したら、拡張パターン／予備入力名称設定画面の【とじる】ボタンをクリックします。



→名称変更・環境設定画面に戻ります。

!! 重要 !!

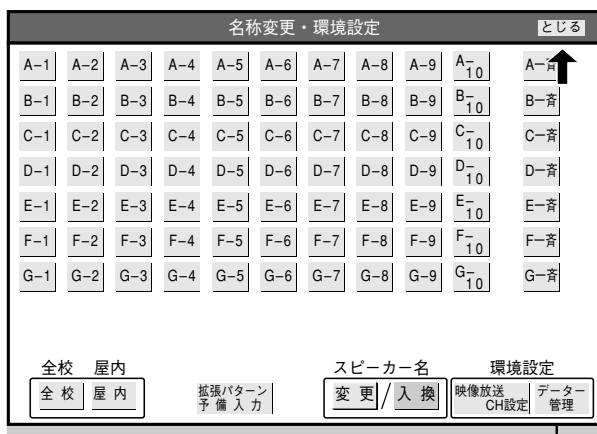
- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。
- かなを直接入力することはできません。
- 文字はすべて全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（89ページ）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

名称変更・環境設定を終了する

名称変更・環境設定画面を閉じて、元の状態に戻します。

1

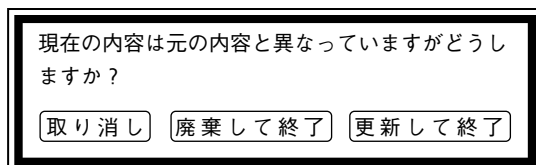
名称変更・環境設定画面の【とじる】ボタンを押します。



→内容に変更があった場合は、確認画面が表示されます。

2

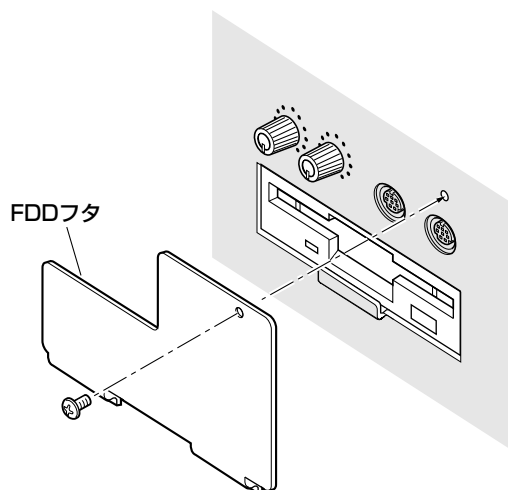
いずれかを選択します。



- 取り消し : 確認画面を閉じ、名称変更・環境設定画面に戻ります。
- 廃棄して終了 : 今回の設定を無効にして名称変更・環境設定画面を終了し、音声・映像放送画面に戻ります。
- 更新して終了 : 今回の設定を保存して名称変更・環境設定画面を終了し音声・映像放送画面に戻ります。

メモ

- キーボードを外す場合は、主電源スイッチを「切」にして外し、取付ねじ（1本）でFDDフタを取り付けてください。
- スピーカーレイアウト変更（57ページ）にはマウスとキーボードが、データバックアップ（79ページ）にはキーボードが必要です。



!!重要!!

- 内容を変更したら、必ず名称変更・環境設定画面の【とじる】を押して終了してください。電源を切るなど、【とじる】を押さずに終了すると、変更内容をバックアップすることはできません。また、この状態で、主電源スイッチを「切」にすると変更内容は破棄されます。

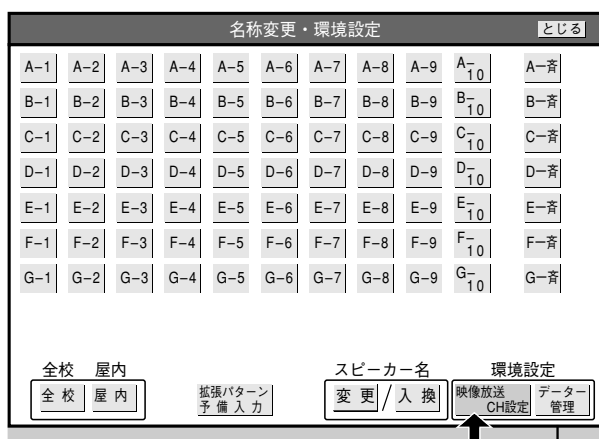
映像放送チャンネルを設定・変更する

映像放送画面の「どこへ」のCH番号など、映像放送チャンネルに関する内容を設定・変更します。
ヘッドエンドのCH番号に合わせるときなどに操作します。

!! 重要 !!

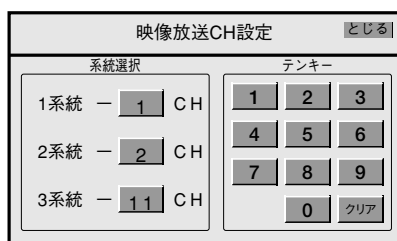
- 本設定では画面に表示されているチャンネルの設定のみ行います。実際の放送チャンネルはヘッドエンド側で設定します。

- 1 名称変更・環境設定画面を表示し（65ページ）、[映像放送CH設定] ボタンを押します。



→映像放送CH設定画面が表示されます。

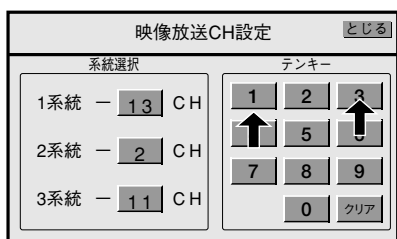
- 2 1系統— [1] CHを押します。



→ボタンの色が緑色に変わります。

- 3 テンキーでCH番号（2ケタ、00～62）を入力します。

1ケタのch番号は最初のケタを0とします。



例：13chに設定する場合

→入力すると、入力した番号に画面のCH表示が変わります。

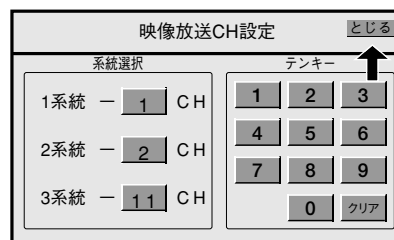
- 4 2系統— [2] CHを押します。
→ボタンの色が緑色に変わります。

- 5 テンキーでCH番号（2ケタ）を入力します。
（手順3と同じ）

- 6 3系統— [3] CHを押します。
→ボタンの色が緑色に変わります。

- 7 テンキーでCH番号（2ケタ）を入力します。
（手順3と同じ）

- 8 [とじる] ボタンを押します。



→名称変更・環境設定画面に戻ります。

メモ

内部エラー画面が表示されることがあります。この場合、内部エラー画面の[確認] ボタンを押して内部エラー画面を閉じてから、映像放送CH設定画面を閉じてください。

- 9 名称変更・環境設定画面の[とじる] ボタンを押します。



→名称変更・環境設定画面を終了し、音声・映像放送画面に戻ります。

入力設定

音声ミキサーの音量つまみの入力設定と有効／無効の設定、VTR2の入力に関する設定を行います。

ラジオ・予備入力・レピーター入力などの音声を放送・録音する

音声ミキサー（音量つまみA、B、C）の入力設定を行います。ラジオや予備入力、レピーター入力などの音声を放送・録音する際にこの設定が必要になります。

音声ミキサーの音量つまみA、B、Cは、次のように3入力の中から1つを選択することができます。

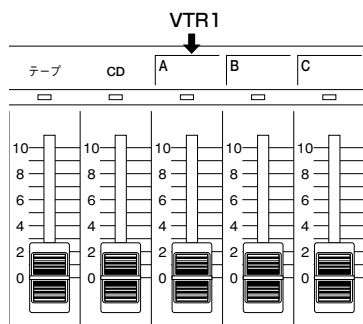
A：VTR1、音声予備1*、音声予備3*の中から1つ選択。

B：VTR2、ワイヤレス、音声予備2*の中から1つ選択。

C：VTR3、ラジオ、レピーターの中から1つ選択。

※ 予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

ここでは、入力AをVTR1に設定する方法を例に説明します。

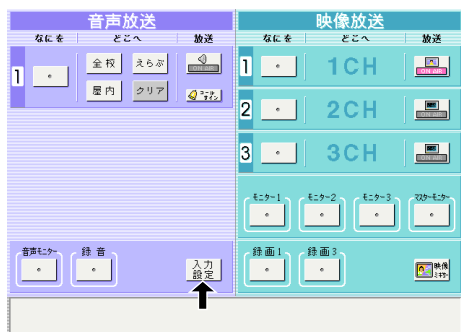


!!重要!!

- この画面を用いて「音声A、B、C設定」を変更して、電源を切ると、次に電源を入れた時からその内容が反映されます。
音声パターン（登録された内容）により変更された場合は一時的なもので上記の内容は保持されます。
- 音声ミキサーA、Bに予備入力1～3を設定して使用する場合は、あらかじめ予備入力レベル調整つまみを回して正常な音量になるように調節してください。このとき、音声ミキサーのつまみA、Bは中央付近に設定してください。

1

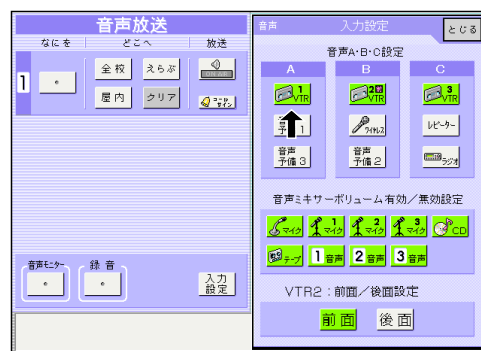
音声放送画面の【入力設定】ボタンを押します。



→入力設定画面が表示されます。

2

【VTR1】ボタンを押します。



→【VTR1】ボタンが緑色に変わります。
B、C入力も変更したい場合は、Aと同様に選択します。

3

【とじる】ボタンを押します。

→音声・映像放送画面に戻ります。

音声ミキサーの音量つまみの有効／無効を設定する

音声ミキサーの音量つまみを個別に有効または無効にできます。無効にすると、該当する音量つまみを操作しても音が出なくなります。

- 1 音声放送画面の【入力設定】ボタンを押します。

→入力設定画面が表示されます。

押すたびに表示が緑（有効）と白（無効）に入れ替わります。「有効」に設定すると、操作パネルの音声ミキサーの音量つまみ有効表示ランプがそれぞれ点灯します。

- 2 音声ミキサーボリューム有効／無効設定のそれぞれのボタンを押して設定します。



- 3 設定が終わったら【とじる】ボタンを押します。

→音声・映像放送画面に戻ります。

VTR2入力コネクタを切り替える

VTR2は、本機の予備入力パネルと後面に入力コネクタがあります。どちらを使用するかを設定します。

- 1 音声放送画面の【入力設定】ボタンを押します。

→入力設定画面が表示されます。

- 3 設定が終わったら【とじる】ボタンを押します。

→音声・映像放送画面に戻ります。

- 2 「VTR2：前面／後面設定」にある【前面】ボタンまたは【後面】ボタンを押します。



オフラインモードでの設定

スピーカーリレーの音声放送システムとの関連付け、リモコンの優先順位の設定、および各リモコンで制御するスピーカーリレーの設定など運用中にできない設定はオフラインモードで設定します。

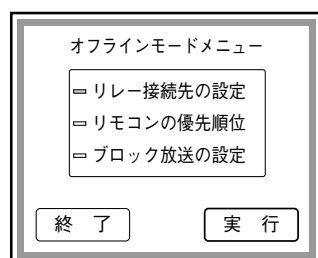
オフラインモードで起動する

1 主電源スイッチを「入」にし、システムを起動します。

→起動すると、操作モニターの画面が消え、スタンバイ状態になります。

2 以下のスイッチを順番に押します。
登録スイッチ（点灯を確認）→スタジオ連絡
スイッチ→コールサインスイッチ→電源ス
イッチ

→オフライン機能が立ち上がると、下図のよ
うなオフラインモードメニューが表示され
ます。



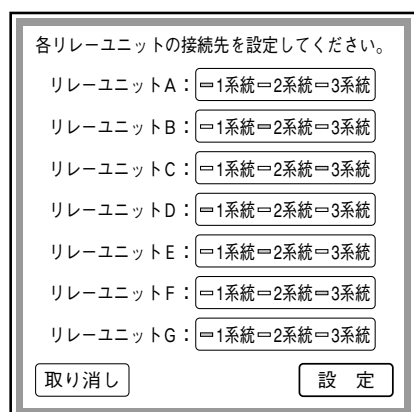
3 オフライン機能を終了するときはオフライン
モードメニューの【終了】ボタンを押します。
→スタンバイ状態になります。

リレー接続先を設定する

本機では最大7台までのリレーユニット（6台増設のとき、本体内蔵分を含む）をシステムに接続できます。各リレーユニットが音声放送のどの系統に属するのかを設定します。

1 オフラインモードメニューを表示し、【リレー
接続先の設定】を選択して【実行】ボタンを
押します。

→リレー接続先設定画面が表示されます。



2 各リレーユニットの接続先の系統を選択し
ます。

リレーユニットAが本体内蔵のリレーユニット
を、リレーユニットB～Gが増設リレーユニッ
トを示します。

増設リレーユニットの項目は、増設した台数
（ディップスイッチで設定した台数）に応じて
表示されます。例えば、3台増設した場合、リ
レーユニットE～Gはグレー表示になり設定で
きません。

また、音声系統が系統①に設定されている場合、
すべて【1系統】が選択状態となり、他の選択
肢はグレー表示になり選択できません。

3

すべてのリレーユニットの接続先を設定したら、[設定] ボタンを押します。

→設定内容が保存され、オフラインモードメニューのパネルに戻ります。
 なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し] ボタンを押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューに戻ります。

!!重要!!

- 出荷時、音声標準パターン1～3は、標準のリレー接続先設定を前提にした動作を行います。
 このため、リレー接続先の設定を変更すると、これらのパターン動作内容が変わります。リレー接続先の設定に合わせて、音声パターンを再設定（78ページ）してください。

リモコンの優先順位を設定する

リモコンの優先順位を設定します。優先順位は1～3まであり、数字が少ないほど優先して動作します。複数のリモコンを同じ優先順位にすることも可能です。優先順位が同じに設定された場合、動作時は後押し優先となります。

1

オフラインモードメニューを表示し（74ページ）、[リモコンの優先順位] を選択して [実行] ボタンを押します。

→リモコン優先順位設定画面が表示されます。

各リモコンブロックの優先順位を設定してください。
 （1：最高、3：最低）

AVステーション： 一般リモコン：

チャイムリモコン：

マルチ1： マルチ5：

マルチ2： マルチ6：

マルチ3： マルチ7：

マルチ4： マルチ8：

2

各リモコンの優先順位を設定します。

「マルチ1」～「マルチ8」は、接続されているマルチリモコンの数に応じて表示されます。例えば、4台のマルチリモコンが接続されている場合、マルチ5～8のはグレー表示になり選択できません。

3

すべてのリモコンの接続先を設定したら、[設定] ボタンを押します。

→設定内容が保存され、オフラインモードメニューのパネルに戻ります。
 なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し] ボタンを押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューに戻ります。

!!重要!!

- チャイムリモコンの優先順位は、ディップスイッチの設定（54ページ）に影響されます。
 「チャイム優先放送カット」の場合：上記設定が有効になります。（通常はチャイムリモコンを最優先に設定します。）
 「等レベルミキシング」「チャイム優先・放送ダウン」の場合：音声はミキシングとなるため、本機とチャイムリモコンの優先関係は無効となります。
 なお、42ページ「重要」もあわせてご確認ください。

設定

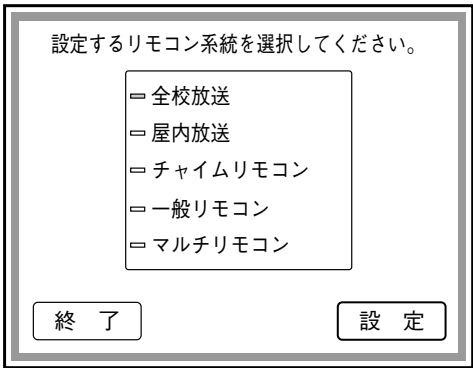
放送先（ブロック放送）の設定を行う

全校放送、屋内放送、チャイムや各リモコンからの放送先として制御するリレーを設定します。

- 1

オフラインモードメニューを表示し（74ページ）、[ブロック放送の設定] を選択して [実行] ボタンを押します。

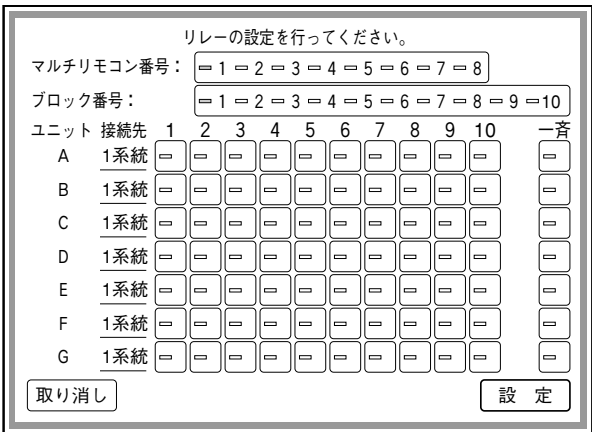
→リモコン系統選択画面が表示されます。



- 2

リレー設定するリモコン系統を選択し、[設定] ボタンを押します。

→リレー設定の画面が表示されます。



マルチリモコン番号
リモコン系統選択画面で [マルチリモコン] が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はグレー表示になり選択できません。また、[マルチリモコン] が選択されても、接続されているマルチリモコンの台数を越える番号はグレー表示になり選択できません。

ブロック番号
リモコン系統選択画面で [一般リモコン] または [マルチリモコン] が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はグレー表示になり選択できません。

ユニットA～G
各リレーユニットに対応しており、増設台数に応じて表示されます。例えば、リレーユニットが3台増設されている場合は、E～Gの各行のボタンはグレー表示になり操作できません。

- 3

全校放送、屋内放送、チャイムの設定を行う場合は手順4に進みます。マルチリモコンの設定を行う場合は、マルチリモコン番号を選択します。

一般リモコンまたはマルチリモコンの設定を行う場合は、更にブロック番号を選択します。

- 4

接続されているリレーユニットの個々のリレーについて、制御するかどうかを設定します。

ボタンが押されてインジケータが点灯している状態は、そのリレーを制御対象にすることを示します。インジケータが消灯の状態は、そのリレーを制御対象にしないことを示します。インジケータの点灯／消灯は、そのボタンを押すたびに切り替わります。

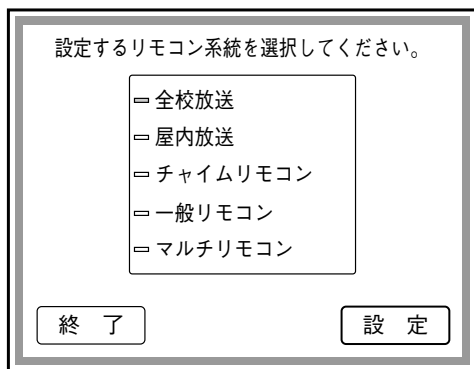
- 5

すべてのリレーを設定したら、[設定] ボタンを押します。

→設定内容が保存されてリモコン系統選択の画面に戻ります。
一般リモコンやマルチリモコンの場合は、[設定] ボタンを押さずにブロック番号やマルチリモコン番号を選択し直すことで、他のブロックや他のマルチリモコンに対する設定を一度に行うこともできます。
なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し] を押してください。設定内容を廃棄してリモコン系統選択画面に戻ります。

続いて他の放送先の設定を行う場合は、次のリモコン系統を選択して【設定】ボタンを押します。

リモコン系統の設定を終わる場合は、【終了】ボタンを押します。



!! 重要 !!

- オフライン機能の操作中は、電源スイッチや音声・映像パターンスイッチなどの操作パネル以外の操作は行わないでください。誤作動を起こす場合があります。

パターン操作の内容を登録・変更する

本機はあらかじめ放送や録音、録画の操作を音声・映像各37個（標準7個、拡張30個）の音声（映像）パターンスイッチに登録しておく、音声（映像）パターンスイッチを押すことでその内容呼び出して動作させることができます。出荷時は、音声7つ・映像6つの標準パターンが登録されています。登録内容について取扱説明書（18～31ページ）をお読みください。

音声（映像）パターンスイッチに登録されている操作とは異なるパターン操作を使用したい場合、その操作内容を音声（映像）パターンスイッチに登録します。登録されているパターンを一部変更して登録しなおすこともできます。工事内容により取扱説明書の内容と実際が異なる場合があります。取扱説明書の内容と実際の操作方法が異なる場合には、別途設定内容をお客様にご提示ください。必要に応じて、取扱説明書の「操作パターン／拡張パターンの登録内容記述シート」をご利用ください。

1

操作パネルの電源スイッチを押します。

→操作モニターに音声・映像放送画面が表示されます。

2

音声放送、映像放送、録画についてなど、パターン操作として登録したい操作・設定を行います。登録されているパターンを一部変更する場合には、音声（映像）パターンスイッチを押してパターン操作を実行し、「なにを」「どこへ」などの設定を変更します。

!!重要!!

- 音声（映像）パターンスイッチに登録すべき内容がない状態で以下の登録操作を行うと、その音声（映像）パターンスイッチの登録内容が削除され、その音声（映像）パターンスイッチを押してもランプが点灯しなくなり、使用できなくなります。再度操作・設定してから登録操作を行ってください。

3

登録スイッチを押します。



→登録スイッチのランプが点灯します。

4

スタジオ連絡スイッチを押します。

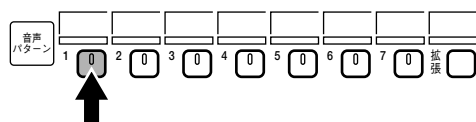
（本来のスタジオ連絡の機能は動作しません。）



5

【音声パターン1～8】【映像パターン1～8】のいずれかのスイッチを押します。

（例）音声パターン1に登録する場合、「音声パターン1」スイッチを押します。



→スイッチのランプが3秒間点滅します。

メモ

- 音声パターンの登録の場合、「コールサイン」スイッチを押してから音声パターンスイッチを押して登録作業を行うと、パターン操作を実行するときに、音声パターンスイッチを押すと自動的にコールサインが流れます。

6

ランプ点滅中に再度手順5で選択した音声（映像）パターンスイッチを押します。

→ランプの点滅が止まり、登録されます。
前に登録されていた内容は削除されます。

メモ

- 拡張パターンに登録する場合は、手順5で、[拡張]スイッチを押して拡張パターン選択画面を表示し、登録したいパターン番号のボタンを押します。登録確認の画面が表示されますので、登録するときは[設定]ボタンを、取り消すときは[取り消し]ボタンを押してください。
パターン実行時にコールサインが流れるようにするには、登録したいパターン番号のボタンを押す前に、画面左上の[コールサイン]ボタンを押して緑色にしておきます。

!!重要!!

- 映像放送の「なにを」「モニター」「録画」のどこにも「映像ミキサー」が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容は映像パターンスイッチには登録されません。
- 音声・映像パターン登録時に、入力設定の音声ミキサーのA、B、C入力の設定を変更して登録したい場合は、音声パターンごとに、A、B、C入力の設定を変更することができます。また音声放送画面の「なにを」、「録音」、「モニター」で「音声ミキサー」を選択してある場合、入力設定の音声ミキサーボリューム有効／無効（73ページ）と音声A、B、C入力の設定内容（72ページ）が登録されます。

7

登録した内容を確認するには、操作パネルの電源スイッチを「切」にし、数秒後に再び電源を入れてから、登録した音声（映像）パターンスイッチを押します。

→登録した内容が音声放送画面に表示されます。

データを管理する

パターン操作の登録内容やスピーカー選択ボタンの名称など本機の設定データのバックアップ、復元、初期化を行います。

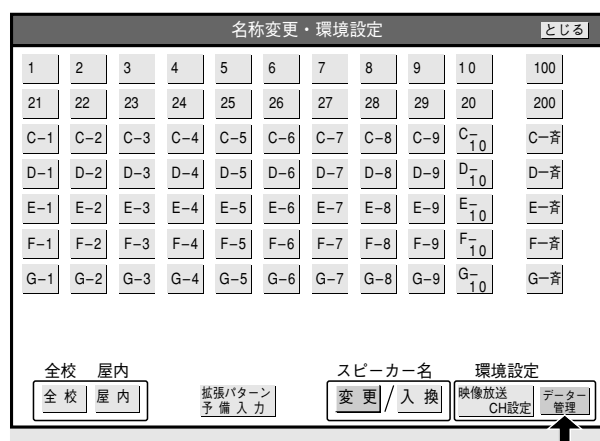
// 重要 //

- 操作にはキーボード（別売品）が必要です。キーボードの接続のしかたは、57ページをお読みください。
- データー管理メニューを表示して操作するときは、説明中に指示されているボタンまたはスイッチ以外操作しないでください。誤動作の原因となります。

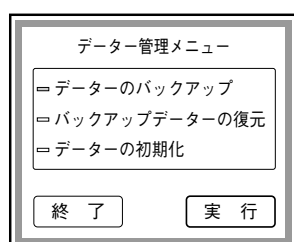
データー管理メニューを表示する

1 名称変更・環境設定画面を表示します（65ページ）。

2 [データー管理] ボタンを押します。



→データー管理メニュー画面が表示されます。



データのバックアップをとる

以下のデータを、フロッピーディスクにバックアップすることができます。

- パターン操作の登録内容／パターン名称
- スピーカー選択ボタンの名称（全校・屋内含む）
- スピーカー選択ボタンの配置（背景図のデータを含む）
- 外部入力機器の名称

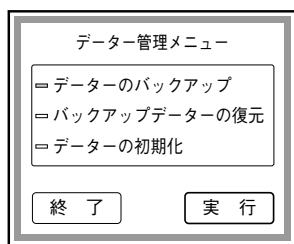
データを管理する（つづき）

!!重要!!

- 音声・映像の標準パターンに登録されたデータは、バックアップできません。92～93ページの「打ち合わせシート」に音声・映像パターンの設定内容を記入しバックアップディスクとともに保管してください。
- 3.5インチ2HDタイプのフロッピーディスクが1枚必要です。あらかじめ、ご用意ください。

1

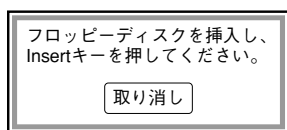
データ管理メニュー画面の【データのバックアップ】を選択して【実行】ボタンを押します。



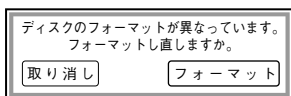
→ディスク挿入の画面が表示されます。

2

フロッピーディスクを挿入します。挿入したら、キーボードの【Insert】キーを押します。

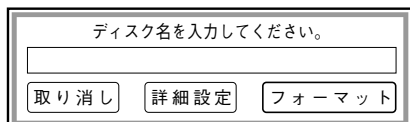


未フォーマットのフロッピーディスクや、他のPCなどでフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、以下のような画面が表示されます。



パネルの表示内容は、ディスクの状態により異なる場合があります。
フォーマットしてもよい場合は、【フォーマット】ボタンを押してください。
フォーマットしたくない場合は、【取り消し】ボタンを押してください。データのバックアップが中止されます。

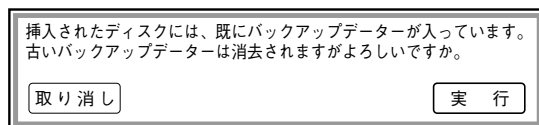
【フォーマット】ボタンを押した場合は、更に次のような画面が表示されます。



適当なディスク名をキーボードで入力し、【フォーマット】ボタンを押してください。

【取り消し】ボタンを押すと、データのバックアップを中止します。

また、以前バックアップに使用したことがあるディスクを挿入した場合は、次のような画面が表示されます。



古いバックアップデータを消去してもよい場合は、【実行】ボタンを押してください。
消去したくない場合は、【取り消し】ボタンを押してください。バックアップを中止します。

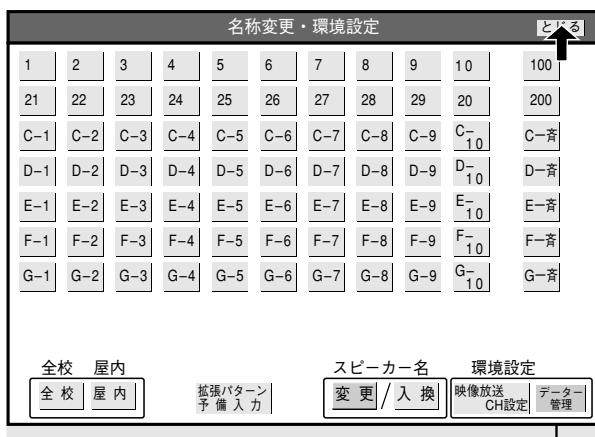
3

バックアップが完了すると、ディスクを取り出す旨のメッセージが画面下に表示されます。指示に従ってディスクを取り出します。

→スピーカー名称変更・環境設定画面に戻ります。

4

【とじる】ボタンを押します。



!!重要!!

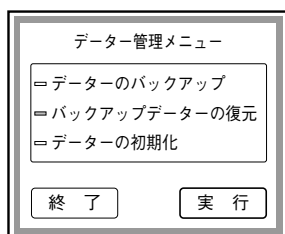
- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。かなを直接入力することはできません。
- 文字はすべて全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（89ページ）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

バックアップデータを復元する

バックアップした以下データをフロッピーディスクから読み込んで本機に復元することができます。

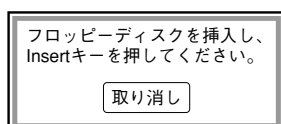
- パターン操作の登録内容／パターン名称
- スピーカー選択ボタンの名称（全校・屋内含む）
- スピーカー選択ボタンの配置（背景図のデータを含む）
- 外部入力機器の名称

- 1 データー管理メニュー画面の【バックアップデータの復元】を選択して【実行】ボタンを押します。



→ディスク挿入の画面が表示されます。

- 2 フロッピーディスクを挿入します。挿入したら、キーボードの【Insert】キーを押します。



未フォーマットのフロッピーディスクや、他のPCなどでフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、フォーマット確認の画面が表示されますので【取り消し】ボタンを押して画面を一度閉じ、ディスクを確認してもう一度手順1から操作をやり直してください。

- 3 復元が完了すると、ディスクを取り出す旨のメッセージが画面下に表示されます。指示に従ってディスクを取り出します。

- 4 画面の指示に従い、主電源スイッチを「切」にしてください。

データの初期化

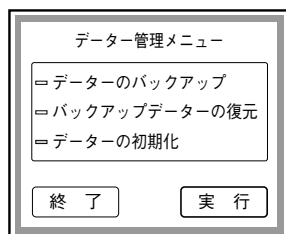
下記のデータを、出荷時の状態に戻します。

- パターン操作の登録内容／パターン名称
- パターン操作のデータの一部（残りのデータは、制御部の初期化で初期化されます。）
- スピーカー選択ボタンの名称（全校・屋内含む）
- スピーカー選択ボタンの配置（背景図のデータを含む）
- 外部入力機器の名称
- ラストワンメモリーの設定内容

!! 重要 !!

- データの初期化を行うと、設定されていた内容は削除されます。
削除されたデータを復元する必要がある場合は、必ず事前にバックアップを行っておいてください。
ただし、音声・映像の標準パターン操作のデータおよびラストワンメモリーの設定内容はバックアップを行っても復元できません。92～93ページの「打ち合わせシート」に音声・映像パターンの設定内容を記入しバックアップディスクとともに保管してください。
- 本初期化の操作を行った後は、必ず制御部の初期化（55ページ**7**～**10**）を行ってください。どちらか片方だけの初期化しか行わないと、一部のデータが初期化されない場合があります。

- 1 データー管理メニュー画面の【データーの初期化】を選択して【実行】ボタンを押します。



→確認画面が表示されます。

- 2 内容を確認し、【初期化】ボタンを押します。
【取り消し】を押すと操作を中止できます。

- 3 データの初期化完了後は、引き続き制御部の初期化を行います。

画面に初期化完了のパネルが表示されたら、主電源スイッチを「切」にし、数秒待って入れ直してください。起動後、引き続き制御部の初期化を行います。

制御部の初期化の手順は、55ページの**7**～**10**をお読みください。

動作確認の手順

接続、設置、設定が終わったら、正常に動作するか以下の手順で確認します。

- 1 各ユニットの動作確認をします。
- 2 下表を参考に映像放送、音声放送を確認します。
- 3 各種リモコン動作が正しく行われるか確認します。

	項目	方法	チェック
映像放送	一般映像出力	[放送] をONにしたとき、「なにを」で選択された映像がテレビの画面にそれぞれ映りますか。	
	モニター出力（モニター1～3、マスターモニター）	各モニターに選択した映像が映りますか。	
	映像ミキサー入出力	<外部映像ミキサーを接続した場合> ●電源投入直後の画面右下に、[映像ミキサー] ボタンが表示されますか。 ●「なにを」で映像ミキサーを選択し、A、Bの入力映像を次々に切り替えるとその映像がマスターモニターに表示されますか。（取扱説明書42、47ページを参照） <外部映像ミキサーを接続しない場合> ●電源投入直後の画面右下の、[映像ミキサー] ボタンは消えていますか。	
	VTR 1、3録画	マスターモニターをVTR1（3）に設定し、VTR1（3）録画選択画面の映像を次々と切り替えたとき、切り替えた映像が録画されますか。	
音声放送	アナウンスマイク放送	「なにを」でアナウンスマイクを選択し、「どこへ」で[全校]を選択して放送したとき、すべての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	他の音声放送	マイク1～3、テープレコーダーなどを放送したとき、すべての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	モニター	[モニター] で [ミキサー] を選択し、アナウンスマイクなどの音量を上げたときモニタースピーカーから音が聞こえますか。	
	録音	テープレコーダーを録音状態にして「録音」でミキサーを選択しアナウンスマイクなどの音量を上げたとき、テープレコーダーのVUメーターが振れますか。	
	VTRへのアフレコ（録音）	録画画面でVTR3の [アフレコ] を選択し、アナウンスマイクなどの音量を上げたとき、VTR3のVUメーターが振れますか。	

スピーカーリレーの動作を確認する

出荷時に次のように設定されています。

リモコンマイク（WR-205A、WR-210A）のブロック放送パターン

リモコンマイクの各個別スイッチを押すと、表のリレーが動作します。（WR-205Aはブロック1～5まで。）

個別スイッチ	1系統		3系統	
ブロック1	A-Gの1	がON	A-Gの1	がON
ブロック2	A-Gの2	がON	A-Gの2	がON
ブロック3	A-Gの3	がON	A-Gの3	がON
ブロック4	A-Gの4	がON	A-Gの4	がON
ブロック5	A-Gの5	がON	A-Gの5	がON
ブロック6	A-Gの6	がON	A-Gの6	がON
ブロック7	A-Gの7	がON	A-Gの7	がON
ブロック8	A-Gの8	がON	A-Gの8	がON
ブロック9	A-Gの9	がON	A-Gの9	がON
ブロック10	A-Gの10	がON	A-Gの10	がON

マルチリモコンマイク（WR-MC100）のブロック放送パターン（8台とも共通）

放送エリアボタン	1系統		3系統	
エリア1	A-Gの1	がON	A-Gの1	がON
エリア2	A-Gの2	がON	A-Gの2	がON
エリア3	A-Gの3	がON	A-Gの3	がON
エリア4	A-Gの4	がON	A-Gの4	がON
エリア5	A-Gの5	がON	A-Gの5	がON
エリア6	A-Gの6	がON	A-Gの6	がON
エリア7	A-Gの7	がON	A-Gの7	がON
エリア8	A-Gの8	がON	A-Gの8	がON
エリア9	A-Gの9	がON	A-Gの9	がON
エリア10	A-Gの10	がON	A-Gの10	がON

チャイムのブロック放送パターン

各チャイムリモコン端子に信号を入力すると、表のリレーが動作します。

チャイムリモコン	1系統	3系統
端子NO1	A-Gの緊急リレーON	A、D、Gの緊急リレーON
端子NO2	動作せず	B、Eの緊急リレーON
端子NO3	動作せず	C、Fの緊急リレーON

音声放送の全校と校内のリレー割当

音声放送		1系統	3系統
全校		リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON
校内	CH1	リレーユニットAB..GのNO.1-9=ON	リレーユニットAD..GのNO.1-9=ON
	CH2	なし	リレーユニットB、EのNO.1-9=ON
	CH3	なし	リレーユニットC、FのNO.1-9=ON

緊急放送のリレー割当

音声放送		1系統	3系統
緊急		リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON

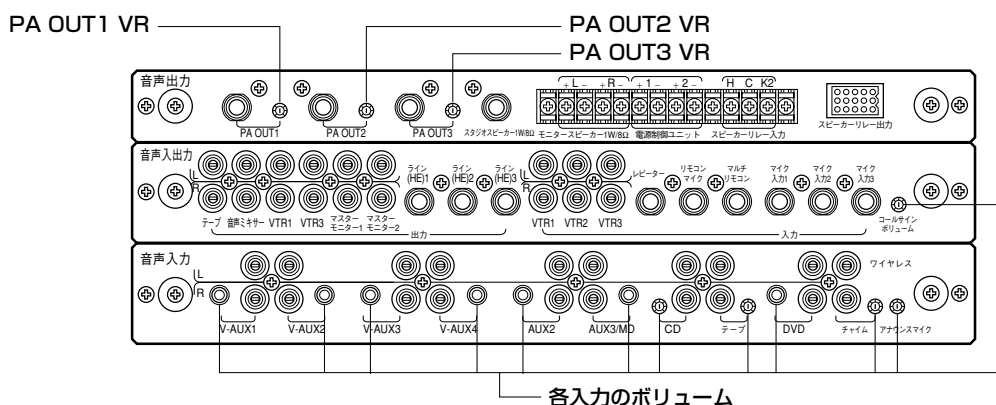
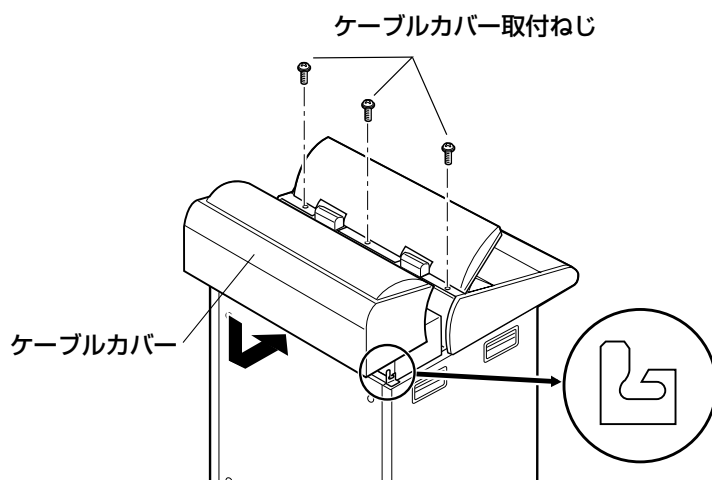
!! 重要 !!

- 上記の割当・設定の変更は本機のオフラインモードで行います。詳しくは74ページをお読みください。

音声入出力の音量を調整する

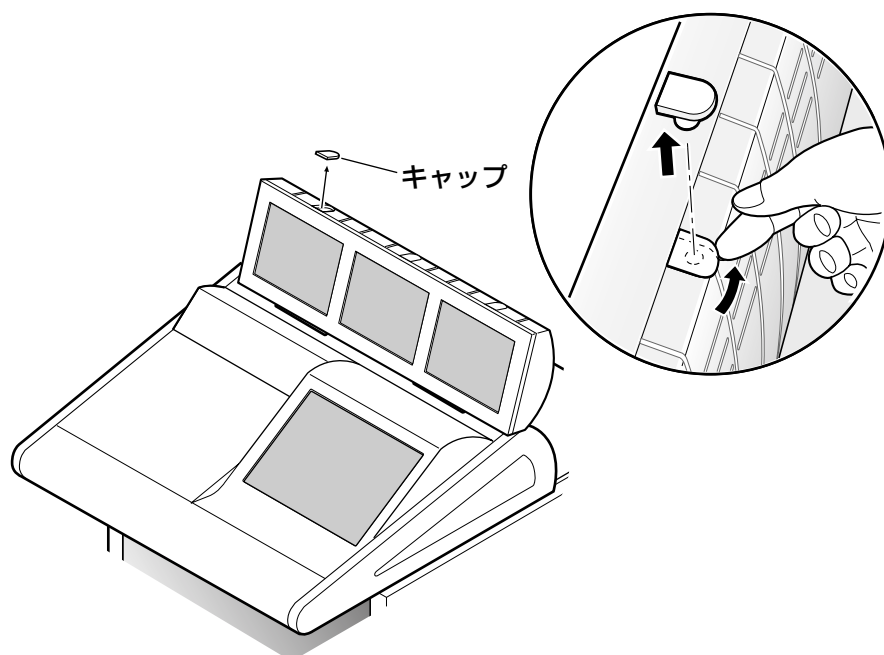
- 1 主電源スイッチを「切」にします。
- 2 ケーブルカバーを外します（17ページ）
- 3 主電源スイッチを「入」にして、システムを立ち上げます。
- 4 操作パネルの電源スイッチを「入」にします。
- 5 音声放送画面の音声放送系統①の「なにを」にあるボタンを押します。
→「なにを」選択画面が開きます。
- 6 [マイク] ボタンを選んで、[とじる] ボタンを押します。
- 7 同じく系統①の「どこへ」欄で[全校]を選び、放送を「ON」にします。
- 8 アナウンスマイクから話して、その音を聞きながら本機端子部の音声入力にあるPA OUT1 VRを調整用ドライバーで回し、教室スピーカーへの出力音量を調整します。
3系統のときは、同様にPA OUT2 VR、PA OUT3 VRも調整します。出荷時は定格出力（0 dBV）にセットしてあります。

- 9 音声放送画面の音声放送系統①の「なにを」にあるボタンを押します。
→「なにを」選択画面が開きます。
- 10 [音声ミキサー] ボタンを押して、スライドボリュームをすべて同じレベルにして、各機器の音声レベルをアナウンスマイクと比較します。レベルが合っていない場合は各入力のボリュームを調整します。（以下の図参照）
CD、テープ、チャイム、アナウンスマイク、コールサインのボリュームは、調整用ドライバー（先端1.8 mm×0.4 mmまたは2.0 mm×0.5 mmのマイナス形状品）で回します。
- 11 音声のAUX1～3（音声予備1～3）は、設定を変更して確認します。（72ページ）
- 12 調整後、ケーブルカバーを取り付けます。



映像モニターの明るさを調整する

- 1** 映像モニター上部のキャップを外します。



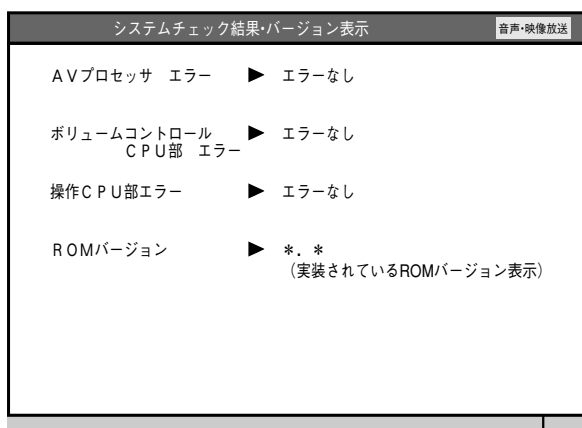
- 2** 調整用ドライバーで、キャップの下にあるボリュームを回し、明るさを調整します。右に回すと明るくなります。

- 3** キャップを元に戻します。
キャップの突起をボリュームの穴にあわせ、キャップを指で押し込みます。

故障の自己診断機能

故障と思われる場合には、次の手順で自己診断を行ってください。

- 1** 主電源スイッチを「入」にし、システムを起動します。
→起動すると、操作モニターの画面が消え、スタンバイ状態になります。
- 2** 以下のスイッチを順番に押します。
登録スイッチ（点灯を確認）→スタジオ連絡スイッチ→電源スイッチ
→操作モニターに次の画面が表示されます。エラーが表示された場合、症状とエラー内容を販売店にご連絡ください。電源を入れ直すと、登録されたパターン設定の内容に戻ります。



メモ

- 「EEPROM書換回数=1*****」というメッセージが表示されたら、EEPROMの書き換え寿命が近づいています。交換を依頼してください。寿命がくると、パターン設定の内容登録が消える場合があります。
- [音声・映像放送] ボタンを押すと、音声標準パターン・映像標準パターンが一時的に初期化された状態でシステムが立ち上がります。登録した標準パターンの内容は一時無効となりますので、通常は使用しないでください。

- 3** 表示内容を確認したら、再び電源スイッチを押して、電源をスタンバイ状態にします。

なお、一斉放送スイッチを押しながら主電源スイッチを「入」にすると、操作パネルの自己診断ができます。

ランプの付いたボタンを押すと、押している間だけランプが点灯します。

音声ミキサー音量つまみは、中央より上げると上部ランプが点灯します。

確認が終わったら、主電源スイッチを「切」にしてください。再度、電源を入れる場合は、数秒待ってから主電源スイッチを押してください。

//重要//

- 自己診断機能の実行中は、上記**4**、**5**に記述されている操作以外は行わないでください。音声・映像パターンスイッチを押したり、電源スイッチを誤って押した場合、誤動作を起こす場合があります。

電子マニュアルの使いかた

本機には、図形の編集などに関する電子化されたマニュアルが入っています。

ここでは、この電子マニュアルの使いかたについて説明します。

電子マニュアルは、マウス（別売品）での操作を前提としていますので、マウスを接続してからお使いください。
マウスの接続については、57ページをお読みください。

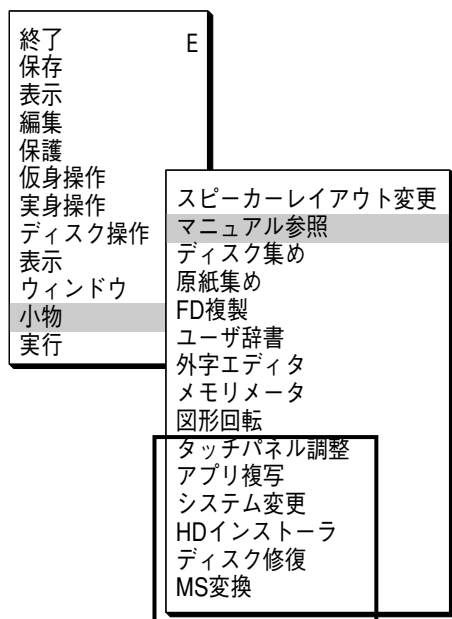
電子マニュアルを起動する

1 主電源スイッチを「入」にします。

→システムが起動します。

2 システムが起動すると、操作モニターの表示が消え、スタンバイ状態になります。表示が消えてから数秒後に、操作パネルの電源スイッチを「入」にします。

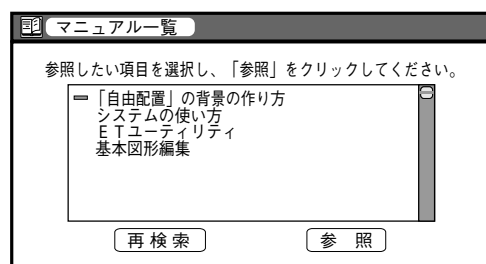
3 マウスの右クリックでポップアップメニューを表示させ、[小物]メニューの[マニュアル参照]を左クリックで選択します。



使用しないでください

→ポップアップメニューの内容はシステムの状態により変化しますので、この画面どおりに表示されない場合があります。

4 参照したい項目にカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。



5 [参照] ボタンをクリックします。

→選択した項目のマニュアルが表示されます。

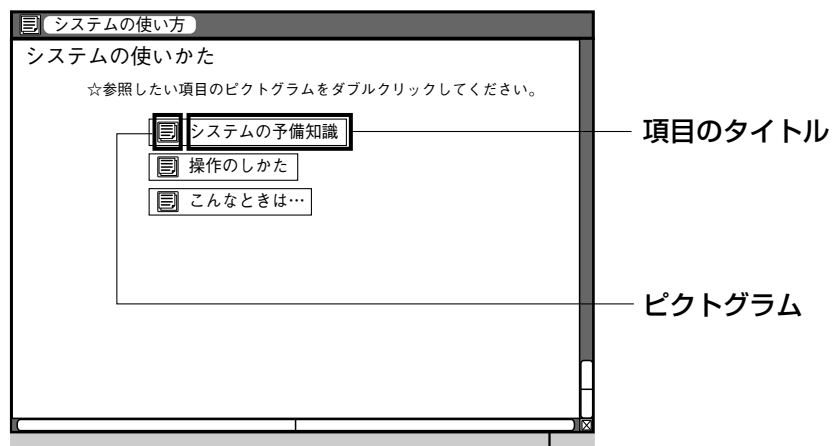
6 マニュアル表示を終了する場合は、マニュアル一覧画面左上の [閉じる] をダブルクリックします。

!!重要!!

- [小物]メニューの[タッチパネル調整][アプリ複写][システム変更][HDインストーラ][ディスク修復][MS変換]は、弊社が保守用に使用するためのツールです。誤って操作するとシステムに重大な支障をきたす恐れがありますので、使用しないでください。
- [スピーカーレイアウト変更]の使用法・説明については、57ページをお読みください。
- 上記以外のメニューについては、電子マニュアルのETユーティリティの項目をお読みください。

起動画面について

電子マニュアルを起動した直後は、次のような画面が表示されています。

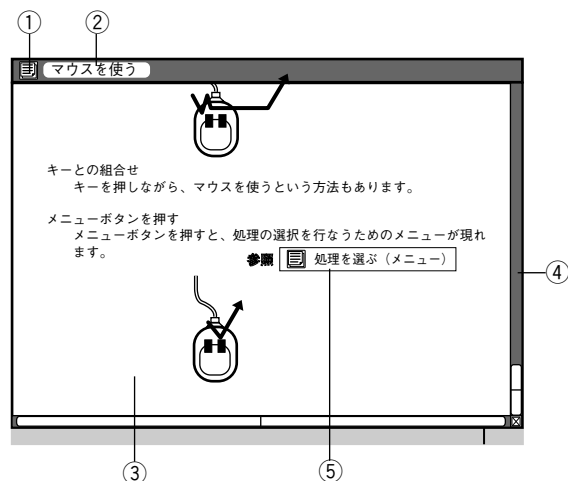


ピクトグラムをダブルクリックすると、その項目の画面が新たに表示されます。

項目を開くと、その中に更に項目が入っている場合があります。その場合は、さらにその項目をダブルクリックして、新たに画面を表示し、目的の機能を説明した画面を表示させてください。

画面の操作について

画面各部の名前と機能を以下に示します。



①ピクトグラム

ダブルクリックすると、前の画面に戻ります。

メモ

- 各項目の画面はウィンドウ構成となっており、見出しのピクトグラムをダブルクリックするごとに上に重なって表示されます。ウィンドウ左上のピクトグラムをダブルクリックすると、一番上のウィンドウを閉じ、前に開いていたウィンドウが表示されます。

②タイトル

項目のタイトル（見出し名）が表示されます。

③表示領域

マニュアルの内容が表示される領域です。⑤で説明する「見出し」を除き、この領域内に表示されている内容は操作できません。

④スクロールバー

この例のように一画面に収まりきらない内容が表示されたとき、見えない部分を表示させる（スクロールさせる）ときに操作します。スクロールの操作には、次の3種類があります。

- スムーズスクロール
スクロールバーの灰色の部分にマウスを移動させ、左ボタンを押したままにします。
押している間、その方向へ徐々にスクロールされます。

●エリアスクロール

スクロールバーの灰色の部分をクリックします。
1/4画面の領域が、まとめてスクロールされます。

メモ

- ダブルクリックすると1画面分スクロールされます。

●ジャンプスクロール

スクロールバーの「ノブ」（白い部分）にマウスを移動させると、手の形が ☞ に変わります。この状態でマウスの左ボタンを押したままにすると、手の形が ☞ へ変わりますので、そのままマウスを上や下の方向に動かします。ボタンを放すと、その位置にノブが移動し、ノブの位置に対応した場所にスクロールされます。

⑤見出し

マニュアルの各項目や参照すべき内容が見出しとして表示されます。見出しのピクトグラムをダブルクリックすると画面を開くことができます。

打ち合わせシート

音声パターンや映像パターンなどの各種設定を打ち合わせするときには、表を使用してください。

1. 音声パターン

音 パター 名	音 パター 称	音 パター 設 定	声 パター 定	入力設定										出力設定				
				プリセット			音声ミキサー							放 送			録 音	モ ニ タ ー
				アナ ウンス マイク	カ セ ッ ト テ ー プ	C D	アナ ウンス マイク	マイク 1	マイク 2	マイク 3	カ セ ッ ト テ ー プ	C D	A					
														系 統 1	系 統 2	系 統 3		
(1)																		
(2)																		
(3)																		
(4)																		
(5)																		
(6)																		
(7)																		

A : VTR1、音声予備1、音声予備3 B : VTR2、ワイヤレス、音声予備2 C : VTR3、ラジオ、レピーター

2. 映像パターン

音 声 パターン 設 定 音 声 パターン 名 称	入力設定										出力設定									
	カメラ					VTR			D V D	ミキサー		放送			録画		モニター			
	カ メ ラ 1	カ メ ラ 2	カ メ ラ 3	カ メ ラ 4	O H C	V T R 1	V T R 2	V T R 3		A	B	系 統 1 へ	系 統 2 へ	系 統 3 へ	V T R 1 へ	V T R 3 へ	モ ニ タ ー 1 へ	モ ニ タ ー 2 へ	モ ニ タ ー 3 へ	マ ス タ ー モ ニ タ ー へ
(1)																				
(2)																				
(3)																				
(4)																				
(5)																				
(6)																				
(7)																				

3. 音声パターンと放送先

どこへ	リレー名称	A										B										C									
	スピーカーNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを 音声 パターン 名称	放送先																														
	(1)																														
	(2)																														
	(3)																														
	(4)																														
	(5)																														
	(6)																														
	(7)																														

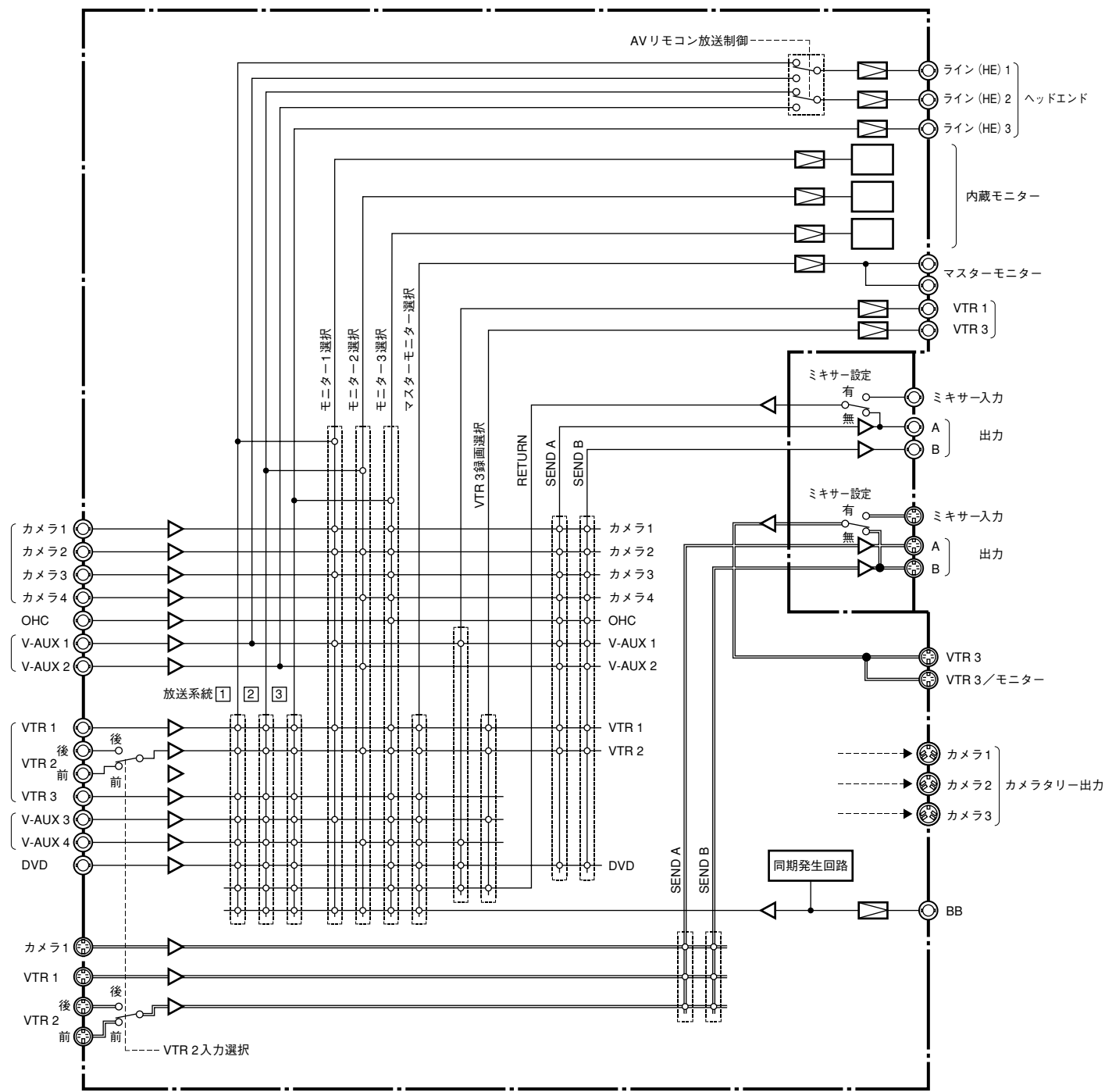
4. リモコン放送と放送先

どこへ	リレー名称	A										B										C									
	スピーカーNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを リモコン ブロック 名称	放送先																														
	(1)																														
	(2)																														
	(3)																														
	(4)																														
	(5)																														
	(6)																														
	(7)																														
	(8)																														
	(9)																														
	(10)																														

その他

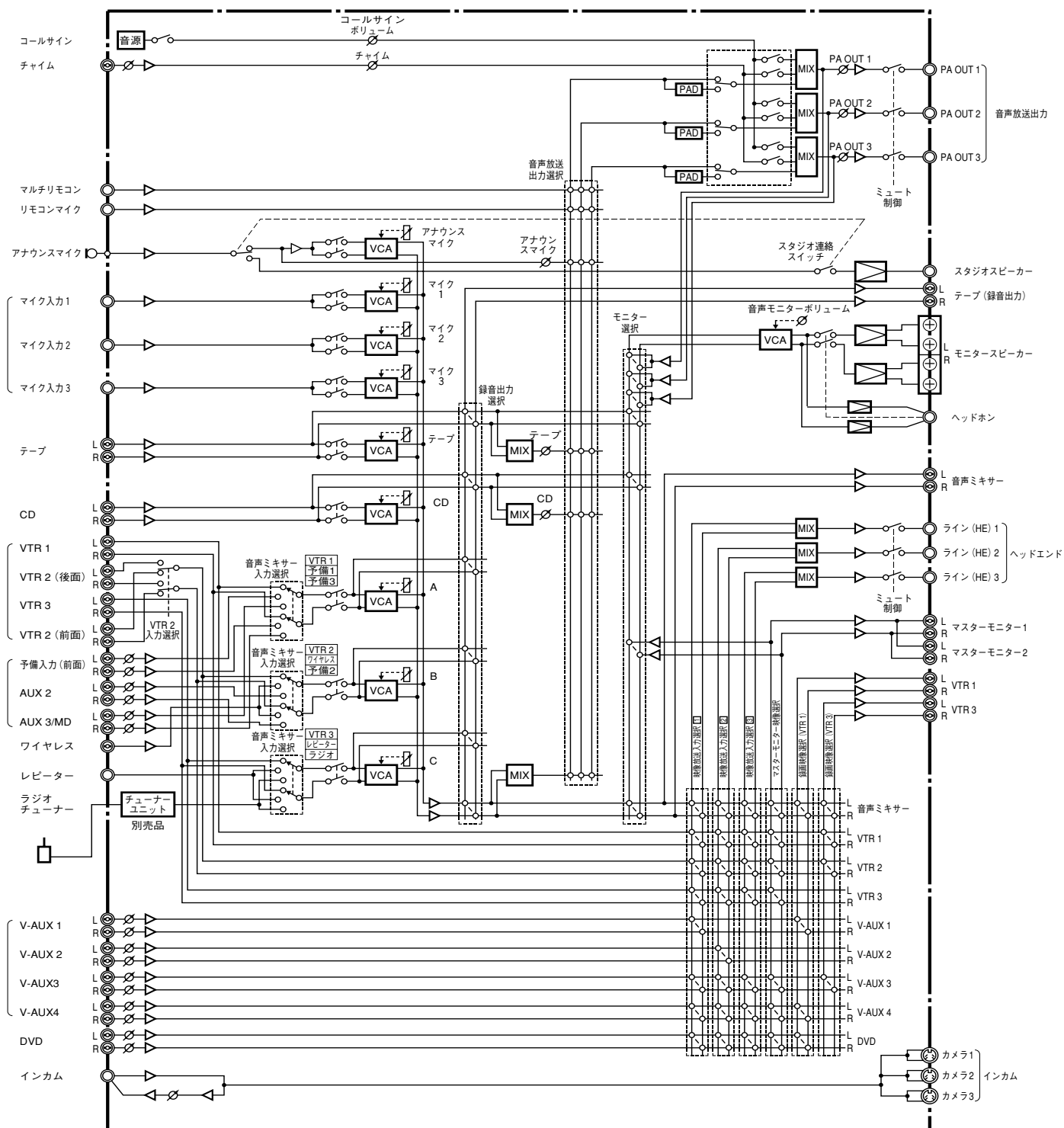
系統図

映像系統図



その他

音声系統図



その他

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品 番	WL-AV190A
	販売店名	電話 () —				

松下電器産業株式会社
ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410